

Dell OpenManage
Server Administrator

バージョン 7.1

コマンドライン
インタフェースガイド



メモおよび注意



メモ：コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。



注意：手順に従わない場合は、ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性があることを示しています。

本書の内容は予告なく変更されることがあります。

© 2012 すべての著作権は Dell Inc. にあります。

Dell Inc. の書面による許可のない複製は、いかなる形態においても厳重に禁じられています。

本書に使用されている商標：Dell™、PowerEdge™ および OpenManage™ は Dell Inc. の商標です。Microsoft®、Windows®、Active Directory®、MS-DOS®、および Windows Server® は米国およびその他の国における Microsoft Corporation の商標または登録商標です。SUSE™ は米国およびその他の国における Novell, Inc. の登録商標です。Red Hat® および Red Hat Enterprise Linux® は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の登録商標です。Intel®、Pentium®、および Itanium® は、米国およびその他の国における Intel Corporation の登録商標で、Intel386™ は同社の商標です。AMD®、AMD Opteron™、AMD-V™、および AMD PowerNow!™ は Advanced Micro Devices Inc. の商標です。VMware® は、米国および / またはその他の法域における VMware Inc の登録商標で、ESX Server™ は同社の商標です。Citrix®、Xen®、XenServer®、および XenMotion® は米国および / またはその他の国における Citrix System, Inc. の登録商標または商標です。

商標または製品の権利を主張する事業体を表すために、その他の商標および社名が使用されていることがあります。それらの商標や会社名は、一切 Dell Inc. に帰属するものではありません。

2012年 - 6月

目次

1	はじめに	13
	概要	13
	本リリースの新機能	14
	CLI コマンドを実行するための Windows	
	コマンドプロンプトへのアクセス	15
	プライマリ CLI コマンド	15
	CLI エラーチェックおよびエラーメッセージ	17
	成功メッセージ	17
	エラーメッセージ	17
	CLI を使用したスクリプト記述と比較	18
	コマンド 構文の概要	19
2	omhelp コマンドの使用	21
	ヘルプコマンドの例	21
3	omreport : 計装サービスを使用した	
	システム状態の表示	25
	パラメーター表の規則	26
	omreport コマンドのコマンド概要	26
	omreport コマンドのヘルプ	33
	omreport modularenclature	33
	omreport about	34

omreport chassis または omreport mainsystem	
コマンド	35
omreport chassis または omreport mainsystem	
コマンド	35
omreport chassis acswitch または omreport	
mainsystem acswitch	36
omreport chassis batteries または omreport	
mainsystem batteries	37
omreport chassis BIOS または omreport	
mainsystem BIOS	37
omreport chassis biossetup または omreport	
mainsystem biossetup	38
omreport chassis currents または omreport	
mainsystem currents	42
omreport chassis removableflashmedia または	
omreport mainsystem	
removableflashmedia	42
omreport chassis fans または omreport	
mainsystem fans	44
omreport chassis firmware または omreport	
mainsystem firmware	44
omreport chassis frontpanel または omreport	
mainsystem frontpanel	44
omreport chassis fru または omreport	
mainsystem fru	45
omreport chassis hwperformance または	
omreport mainsystem hwperformance	45
omreport chassis info または omreport	
mainsystem info	46
omreport chassis intrusion	47
omreport chassis leds または omreport	
mainsystem leds	47
omreport chassis memory または omreport	
mainsystem memory	48
omreport chassis nics または omreport	
mainsystem nics	49
omreport chassis ports または omreport	
mainsystem ports	50
omreport chassis processors または omreport	
mainsystem processors	51
omreport chassis pwrmanagement または	
omreport mainsystem pwrmanagement	54

omreport chassis pwrmonitoring または omreport mainsystem pwrmonitoring	55
omreport chassis pwrsupplies または omreport mainsystem pwrsupplies	58
omreport chassis remoteaccess または omreport mainsystem remoteaccess	58
omreport chassis slots または omreport mainsystem slots	59
omreport chassis temps または omreport mainsystem temps	60
omreport chassis volts または omreport mainsystem volts	60
omreport system コマンドまたは omreport servermodule コマンド	60
omreport system または omreport servermodule	61
ログ表示のコマンド	61
omreport system alertaction または omreport servermodule alertaction	62
omreport system assetinfo または omreport servermodule assetinfo	64
omreport system events または omreport servermodule events	64
omreport system operatingsystem または omreport servermodule operatingsystem	67
omreport system pedestinations または omreport servermodule pedestinations	67
omreport system platformevents または omreport servermodule platformevents	69
omreport system recovery または omreport servermodule recovery	69
omreport system shutdown または omreport servermodule shutdown	69
omreport system summary または omreport servermodule summary	70
omreport system thrmshutdown または omreport servermodule thrmshutdown	77
omreport system version または omreport servermodule version	77
omreport preferences コマンド	78

4	計装サービスを使った omconfig:	
	コンポーネントの管理	79
	パラメーター表の規則	80
	omconfig コマンドの概要	80
	omconfig コマンドのヘルプ	84
	omconfig about	85
	omconfig chassis または omconfig mainsystem	87
	omconfig chassis biossetup または omconfig mainsystem biossetup	87
	omconfig chassis currents または omconfig mainsystem currents	111
	omconfig chassis fans または omconfig mainsystem fans	111
	omconfig chassis frontpanel または omconfig mainsystem frontpanel	113
	omconfig chassis info または omconfig mainsystem info	114
	omconfig chassis leds または omconfig mainsystem leds	115
	omconfig chassis memorymode または omconfig mainsystem memorymode	116
	omconfig chassis pwrmanagement または omconfig mainsystem pwrmanagement	118
	omconfig chassis pwrmonitoring または omconfig mainsystem pwrmonitoring	120
	omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess	122
	omconfig chassis temps または omconfig mainsystem temps	138
	omconfig chassis volts または omconfig mainsystem volts	139
	omconfig preferences	141
	omconfig preferences cdvformat	141
	omconfig preferences dirservice	141
	omconfig preferences snmp	142
	omconfig preferences useraccess	143
	omconfig preferences webserver	144

omconfig system または omconfig servermodule	145
omconfig system alertaction または omconfig servermodule alertaction	145
ログをクリアするコマンド	150
omconfig system pedestinations または omconfig servermodule pedestinations	150
omconfig system platformevents または omconfig servermodule platformevents	151
omconfig system events または omconfig servermodule events	155
omconfig system webserver または omconfig servermodule webserver	157
omconfig system recovery または omconfig servermodule recovery	157
omconfig system shutdown または omconfig servermodule shutdown	158
omconfig system thrmsshutdown または omconfig servermodule thrmsshutdown	160

5 omconfig システムまたは servermodule assetinfo: 所有コスト (Cost of Ownership) の編集 161

資産情報を追加するために必要な ユーザーレベル	161
取得情報の追加	161
取得情報を追加するためのコマンド例	163
減価償却情報の追加	164
減価償却情報を追加するためのコマンド例	165
保証延長情報の追加	165
保証延長情報を追加するためのコマンド例	166
リース情報の追加	166
リース情報を追加するためのコマンド例	167
メンテナンス情報の追加	168
メンテナンス情報を追加するための コマンド例	168

アウトソース情報の追加	169
アウトソース情報を追加するための コマンド例	170
所有者情報の追加	170
所有者情報を追加するためのコマンド例	171
サービス契約情報の追加	171
サービス情報を追加するためのコマンド例	172
サポート情報の追加	172
サポート情報を追加するためのコマンド例	173
システム情報の追加	174
システム情報を追加するためのコマンド例	174
保証情報の追加	175
保証情報を追加するためのコマンド例	175
6 ストレージ管理サービスの使い方	177
CLIのコマンド構文	177
必須、オプション、変数のコマンド 要素の構文	178
omreport storage と omconfig storage のユーザー 特権	180
7 omreport storage コマンド	181
omreport 物理ディスク状態	182
omreport 仮想ディスク状態	183
omreport コントローラ状態	184
omreport エンクロージャ状態	185
omreport 温度プローブ状態	185
omreport ファン状態	186
omreport 電源装置状態	187
omreport EMM 状態	188

omreport エンクロージャのスロット占有 レポート	189
omreport バッテリー状態	190
omreport グローバル情報 (Smart サーマルシャット ダウンの状態、ホットスベアプロテクション ポリシー)	190
omreport コネクタ状態	191
omreport Cachecade 状態	191

8 omconfig storage コマンド 193

omconfig 物理ディスクのコマンド	194
omconfig 物理ディスクの点滅	195
omconfig 物理ディスクの点滅解除	196
omconfig 物理ディスクの削除の準備	197
omconfig セキュアな物理ディスクの インスタント削除	197
omconfig 物理ディスクの初期化	198
omconfig 物理ディスクのオフライン化	199
omconfig 物理ディスクのオンライン化	199
omconfig グローバルホットスベアの 割り当て	200
omconfig 物理ディスクの再構成	201
omconfig 物理ディスク再構成のキャンセル	201
omconfig メンバー交換のキャンセル	202
omconfig 物理ディスクのクリア	203
omconfig 物理ディスククリアのキャンセル	203
omconfig デバイスの書き込みキャッシュの 有効化	204
omconfig デバイスの書き込みキャッシュの 無効化	204
omconfig 信頼性ログのエクスポート	205
omconfig RAID を非 RAID に変換	205
omconfig 非 RAID を RAID に変換	206
omconfig 仮想ディスクのコマンド	207
omconfig 整合性チェック	208

omconfig 整合性チェックのキャンセル	208
omconfig 整合性チェックの一時停止	209
omconfig 整合性チェックの再開	209
omconfig 仮想ディスクの点滅	210
omconfig 仮想ディスクの点滅解除	210
omconfig 仮想ディスクの初期化	211
omconfig 仮想ディスクの高速初期化	211
omconfig 仮想ディスクの低速初期化	212
omconfig 仮想ディスクの初期化の キャンセル	213
omconfig バックグラウンドの初期化の キャンセル	213
omconfig 専用ホットスペアの割り当て	214
omconfig 仮想ディスクの削除	214
omconfig 仮想ディスクのフォーマット	215
omconfig 仮想ディスクの再設定	215
omconfig 仮想ディスクのセキュア化	216
omconfig による仮想ディスクの不良ブロックの クリア	217
omconfig 仮想ディスクポリシーの変更	217
omconfig メンバー仮想ディスクの交換	218
omconfig 仮想ディスクの名前の変更	219

omconfig コントローラのコマンド 220

omconfig コントローラの再スキャン	223
omconfig コントローラ警告を有効にする	223
omconfig コントローラ警告を無効にする	223
omconfig コントローラ警告の静止	224
omconfig コントローラ警告のテスト	224
omconfig コントローラ設定のリセット	225
omconfig 仮想ディスクの作成	225
omconfig コントローラ再構築率の設定	231
omconfig コントローラプロパティの変更	231
omconfig 保存キャッシュの破棄	232
omconfig 暗号化キーの作成	233
omconfig 暗号化キーの変更	233
omconfig 暗号化キーの削除	234
omconfig バックグラウンドの初期化率の 設定	234
omconfig 再構築率の設定	234

omconfig 整合性チェック率の設定	235
omconfig コントローラログのエクスポート	235
omconfig セキュアな外部設定のインポート	236
omconfig 外部設定のインポート	236
omconfig 外部設定のインポート / 回復	237
omconfig 外部設定のクリア	237
omconfig 物理ディスク電源管理	238
omconfig 巡回読み取りモードの設定	239
omconfig 巡回読み取りの開始	239
omconfig 巡回読み取りの停止	240
omconfig CacheCade の作成	240
omconfig LKM コントローラを有効にする	241
omconfig LKM コントローラの再キー	241
omconfig 複数の RAID を非 RAID に変換	242
omconfig 複数の非 RAID を RAID に変換	242
omconfig エンクロージャのコマンド	243
omconfig エンクロージャ警告を有効にする	243
omconfig エンクロージャ警告を無効にする	244
omconfig エンクロージャ管理タグの設定	244
omconfig エンクロージャ資産名の設定	245
omconfig 温度プローブの設定しきい値の設定	246
omconfig 温度プローブしきい値のリセット	246
omconfig すべての温度プローブの設定しきい値の設定	247
omconfig すべての温度プローブしきい値のリセット	247
omconfig 点滅	248
omconfig バッテリーのコマンド	249
omconfig バッテリー学習サイクルの開始	249
omconfig バッテリー学習サイクルの遅延	249
omconfig グローバルのコマンド	250
omconfig グローバル Smart サーマルシャット ダウンを有効にする	250
omconfig Smart サーマルシャットダウンを グローバルに無効にする	251
omconfig グローバルコントローラの 再スキャン	252

omconfig ホットスベアプロテクション ポリシーの設定	252
omconfig コネクタコマンド	253
omconfig コネクタの再スキャン	253
omconfig CacheCade コマンド	254
omconfig CacheCade の点滅	254
omconfig CacheCade の点滅解除	254
omconfig CacheCade の削除	255
omconfig CacheCade のサイズ変更	255
omconfig CacheCade の名前変更	256
9 CLI コマンド結果の使用方法	257
コマンド結果の出力オプション	257
管理コマンド 出力の表示	258
書き込み コマンド 出力のファイルへの書き込み	258
上書きされるファイルへのコマンド結果の 保存	258
既存のファイルへのコマンド結果の追加	259
CLI コマンド出力のフォーマットの選択	260
リスト (lst)	261
テーブル (tbl)	262
セミコロン区切りの値 (ssv)	262
カスタム区切りの形式 (cdv)	263
索引	265

はじめに

概要

Dell OpenManage Server Administrator (OMSA) は、統合された Web ブラウザベースのグラフィカルユーザーインターフェイス (GUI) またはコマンドラインインターフェイス (CLI) を使用した、包括的な 1 対 1 のシステム管理ソリューションを提供します。Server Administrator は、システム管理者がネットワーク上のシステムをローカルおよびリモートで管理できるように設計されています。Server Administrator は包括的な 1 対 1 のシステム管理を提供することにより、システム管理者がネットワーク全体の管理に集中できるようにします。

Server Administrator の文脈では、システムとはスタンドアロンシステム、個別のシャーシ内に接続されたネットワークストレージユニットを持つシステム、またはモジュラーエンクロージャ内の 1 つまたは複数のサーバーモジュールで構成されるブレードシステムを指します。


Server Administrator は、包括的な統合管理サービスを利用した使いやすいローカルおよびリモートシステムの管理制御を提供します。Server Administrator は管理下システムにある唯一のインストールで、Server Administrator ホームページからローカルおよびリモートにアクセスできます。Server Administrator では、ダイヤルイン、LAN、またはワイヤレス接続を使用して、リモート監視されているシステムにアクセスすることが可能です。


Server Administrator の設定機能を使うと、次の項で詳しく説明する主要タスクを実行できます。この CLI ガイドは、Server Administrator および Storage Management に適用されるすべてのコマンドを掲載しています。

報告と表示の機能を使用すると、ネットワーク上のシステムの全般的な正常性の状態を把握することができます。電圧、温度、ファンの分ごとの回転数 (RPM)、メモリ機能、およびその他多くの重要な情報をコンポーネントレベルで表示することができます。また、システムの所有コスト (COO) についての詳細な説明を表示したり、BIOS、ファームウェア、オペレーティングシステム、およびインストール済みソフトウェアのバージョン情報の取得を行うこともできます。



メモ: 暗号化に関する懸念がある場合は、Server Administrator のホームページの代わりに CLI を使用して、Server Administrator Web サーバーをオフにします。CLI は Web サーバーを使用しません。Web サーバーを終了するには、**omconfig system webserver action=stop** コマンドを実行します。再起動後は Web サーバーが自動で起動するので、このコマンドはシステムが起動するたびに実行してください。詳細については、157 ページの「omconfig system webserver または omconfig servermodule webserver」を参照してください。

 **メモ** : Dell OpenManage Server Administrator のインストール後、Dell OpenManage CLI ユーティリティにアクセスするためのパスをリセットするため、ログアウトしてから再ログインするようにしてください。


 **メモ** : 本書で使用される用語についての情報は、support.dell.com/manuals で『Glossary』（用語集）を参照してください。

本リリースの新機能

OpenManage Server Administrator の新リリースに新しく追加された主な機能は次のとおりです。

- 次のオペレーティングシステムをサポートします。
 - Red Hat Enterprise Linux 5.8（64 ビットおよび 32 ビット）
 - Red Hat Enterprise Linux 6.2（64 ビット）
 - VMware ESXi 5.0 アップデート 1
- Dell PowerEdge システム M820、T420、および T320 のサポート
- 再販業者によるカスタムブランド化が可能な PowerEdge OEM 対応サーバーモデルのサポート 詳細については、dell.com/oem を参照してください
- 次のネットワークインタフェースカード（NIC）、統合型ネットワークアダプタ（CNA）、およびファイバチャネル（FC）のサポート
 - Brocade 10Gb CNA（BR1020 および BR1741M-k）
 - Emulex シングルポート FC16 HBA
 - Emulex デュアルポート FC16 HBA
 - Qlogic QLE2460 シングルポート FC4 アダプタ
 - Qlogic QLE2462 デュアルポート FC4 アダプタ
 - Brocade BR815- シングルポート FC8 アダプタ
 - Brocade BR825- デュアルポート FC8 アダプタ
 - Qlogic QLE2562 デュアルポート FC8 アダプタ
 - Emulex LPe-12002 デュアルポート FC8 アダプタ
 - Qlogic QME2572 デュアルポート FC8 メザニンカード
 - Emulex Lpe-1205-M デュアルポート FC8 メザニンカード
 - Qlogic QLE2560 シングルポート FC8 アダプタ
 - Emulex LPe-12000 シングルポート FC8 アダプタ
 - Broadcom 57810 デュアルポート 10GbE KR ブレード用統合型メザニンカード
 - Broadcom 57810 デュアルポート 10Gb Base-T

- Broadcom 57810 デュアルポート 10GbE SFP
- Qlogic QME8252-K メザニンカード
- Qlogic P3+ デュアルポート 10Gb SFP+/DA
- Mozilla Firefox 10、11、および 12 ウェブブラウザのサポート
- 次のオペレーティングシステムに対するサポートは廃止されました。
 - RedHat Enterprise Linux 5 SP7 (32 ビットおよび 64 ビット)
 - Red Hat Enterprise Linux 6 SP1 (64 ビット)
 - VMware ESXi 5.0


 **メモ**：対応オペレーティングシステムのリストについては、『Dell Systems Software Support Matrix』（Dell システムソフトウェアサポートマトリックス）を参照してください。この文書にアクセスするには、support.dell.com/manuals にアクセスし、**ソフトウェア** をクリックして、製品を選択します。

 **メモ**：VMware ESXi オペレーティングシステム上のシステムでは、CLI コマンドはサポートされていません。

CLI コマンドを実行するための Windows コマンドプロンプトへのアクセス

Microsoft Windows オペレーティングシステムが稼動している場合、32 ビットのコマンドプロンプトを使用して **Server Administrator CLI** コマンドを実行します。32 ビットのコマンドプロンプトへは、次のいずれかの方法でアクセスします。

- **スタート** → **プログラム** → **アクセサリ** → **コマンドプロンプト** をクリック
- **スタート** → **ファイル名を指定して実行** とクリックし、`cmd.exe` と入力

 **メモ**：コマンドラインウィンドウを起動するために **ファイル** を指定して **実行** ダイアログボックスに「`command`」と入力しないでください。この操作は、CLI に軽微な問題を生じる原因となり得る環境変数制限を持つ MS-DOS のエミュレータ **command.com** をアクティブ化します。

プライマリ CLI コマンド

Server Administrator の機能を実行するコマンドを次に表示します。

- **omconfig**
- **omhelp**
- **omreport**

omconfig コマンドはオブジェクトのプロパティに割り当てる値を書き込みます。コンポーネントの警告しきい値のための値を指定、または特定の警告 / エラーイベントが発生したときに、システムが実行する必要がある処置を指定することができます。また、omconfig コマンドを使って、システムに関する資産情報パラメータに、システムの購入価格や管理タグ、設置場所などの特定の値を割り当てることもできます。

omhelp コマンドは CLI コマンドの簡潔なテキストヘルプを表示します。**omhelp** は、ヘルプを必要とするコマンドの後に **-?** を入力する場合と同じです。たとえば、**omreport** コマンドのヘルプを表示する場合、次のどちらかのコマンドを入力します。

```
omhelp omreport
omreport -?
```

omreport コマンドは、システムの管理情報のレポートを表示します。



メモ: CLI コマンドの概要を見るには、omhelp と入力します。

表 1-1 は、Server Administrator が使用するプライマリ CLI コマンドを一覧表示します。このマニュアルでは、主要なコマンドについて各項で説明します。

表 1-1. CLI コマンドとこのマニュアルの項

主要な CLI コマンド	項の見出し	関連する項
omconfig	79 ページの「計装サービスを使った omconfig: コンポーネントの管理」	161 ページの「omconfig システムまたは servermodule assetinfo: 所有コスト (Cost of Ownership) の編集」
omhelp	21 ページの「omhelp コマンドの使用」	
omreport	25 ページの「omreport : 計装サービスを使用したシステム状態の表示」	



メモ: **omupdate** コマンドは Server Administrator ではサポートされなくなり、Dell Update Package または Server Update Utility のコマンドに置き換えられました。各種コンポーネントをアップデートするには、Dell Update Package をダウンロードして、`</パッケージ名> /s [/f]` コマンドを実行してください。対応する CLI 構文の詳細については、support.dell.com/manuals で『Dell Update Packages for Operating Systems User's Guide』(Dell Update Packages for Operating Systems ユーザーズガイド) または『Dell OpenManage Server Update Utility User's Guide』(Dell OpenManage Server Update Utility ユーザーズガイド) を参照してください。

さらに、CLI に関する役立つトピックは次でも参照できます。

- 257 ページの「CLI コマンド結果の使用方法」

CLI エラーチェックおよびエラーメッセージ

CLI コマンドを入力すると、CLI によってコマンドの構文が確認されます。コマンドを入力してそのコマンドが正常に実行されると、コマンドが成功したことを示すメッセージが表示されます。

成功メッセージ

omconfig コマンドを正しく実行すると、そのコンポーネントのデータが表示されます。

次の表に、有効な **omconfig** コマンドの例、および成功メッセージの例を示します。

表 1-2. コマンドおよびメッセージ

コマンド	メッセージ
omconfig chassis temps index=0 warnthresh= default	温度プローブの警告しきい値が正常に設定されました。
omconfig chassis biossetup attribute=numlock setting=on	BIOS が正常に設定されました。変更は、次の再起動時に反映されます。
omconfig system assetinfo info=depreciation duration=6	資産情報は正常に設定されました。



メモ: 制約により、一部のコマンドはコマンドが正常に実行されてもシステム設定が変更されません。これは予期される動作です。

エラーメッセージ

CLI エラーメッセージは、コマンドに成功しなかった理由を提示します。コマンドに失敗する一般的な理由として、構文エラーや、コンポーネントが存在しないことが挙げられます。多くのエラーメッセージには、コマンドを正常に実行するために必要な構文情報が表示されます。

システム構成に存在しないコンポーネントや機能に対するコマンドを実行すると、コンポーネントが存在しないというエラーメッセージが表示されます。

コマンド:

```
omconfig chassis volts index=3 minwarnthresh=3.3000
```

メッセージ：

エラー！数字の期待値は小数点以下 3 桁までです。読み取り値：
3.3000

コマンドで指定された値は、小数点以下 3 桁を超えています。電圧の有効な最小警告しきい値は、小数点以下 3 桁までです。

変更後のコマンド：

```
omconfig chassis volts index=3 minwarntresh=3.300
```

小数点以下 3 桁を使ってもう一度入力すると、別のエラーメッセージが表示され
ます。

エラー！電圧プローブの最小警告しきい値は 11.400 ~ 12.480 である
必要があります。

変更後のコマンド：

```
omconfig chassis volts index=3 minwarntresh=11.500
```

メッセージ：

電圧プローブの警告しきい値は正常に設定されました。

CLI を使用したスクリプト記述と比較

Server Administrator CLI によって、システム管理者はオペレーティングシステムに対してバッチプログラムを書き込めるようになります。多くのシステムを有する企業では、システム管理者が設定スクリプトを使用して、システムの主要コンポーネントの警告しきい値を指定したり、警告やエラーイベントが発生した場合にシステムに実行させる一連の操作を指定します。最悪の場合は、システム管理者がスクリプトを作成してシステムをシャットダウンすると、被害を防ぐことができます。その後で、スクリプトを多数の管理システムに同時に配信して実行することができます。このシナリオでは、会社が大量のシステムを購入した場合でも円滑に設定でき、再設定が必要な既存のシステムに新しいシステム管理ポリシーを実装する場合も容易にできます。

新しく購入した多数のシステムに詳細なアセット情報を自動入力するためにも、同様のシナリオが使用されます。システムの製造元やリース会社、サポートの外部委託の有無、システムの保険会社名、減価償却方法など、情報の大半は同じです。すべてのシステムに共通する変数はスクリプト化されて、管理対象システムのすべてに送信され、実行されます。システム固有の資産情報はグループとしてスクリプト化され、実行するためにその管理対象ノードに送信されます。たとえば、スクリプトを使うと、所有者、プライマリユーザーの電話番号、管理タグなどの固有の変数をすべて指定できます。固有の値を自動入力するためのスクリプトは、システムのコマンドラインから 1 つずつ設定するのではなく、すべての固有変数を一度に設定します。

多くの場合、CLI は、特定のタスクを念頭に置いたユーザーがシステム情報を迅速に取得するのに役立ちます。CLI は、システムコンポーネントすべての包括的な概要を確認したい場合や、その情報を今後のシステム状態と比較する目的でファイルに保存する場合に理想的です。

CLI コマンドを使うと、システム管理者はバッチ プログラムやスクリプトを作成して、特定の時間に実行することができます。このようなプログラムが実行されると、システム最大使用時とシステム最低使用時のファン RPM の比較など、特定コンポーネントに関するレポートをキャプチャできます。コマンド結果は、後ほど分析するため、ファイルに転送されます。システム管理者は、レポートを利用して、使用パターンを調整したり、新規システムリソースの購入を正当化したり、問題のあるコンポーネントの状態を監視するための情報を入手できます。

コマンド 構文の概要

コマンドの複雑性はさまざまです。最も単純なコマンドは、コマンドレベルが 1 だけです。たとえば、**omhelp** コマンドは単純なコマンドです。omhelp と入力すると、主要 CLI コマンドのリストが表示されます。

次に複雑なコマンドレベルには、コマンドレベルの 1 と 2 があります。**about** コマンドはすべてコマンドレベル 2 の複雑性を表します。**omconfig about** および **omreport about** のコマンドは非常に簡潔な概要を表示します。概要には、システムにインストールされているシステム管理ソフトウェアのバージョン情報（例えば **Server Administrator 1.x**）が表示されます。

一部のコマンドには、コマンドレベル 1 とコマンドレベル 2 があり、「名前 = 値」のペアがあります。次のコマンドは、**Server Administrator** の環境詳細に関して **Server Administrator** を指令している例です。

```
omreport about details=true
```

コマンドレベル 1 が **omreport**、コマンドレベル 2 は **about** で、「名前 = 値」のペアは **details=true** です。

多くのコマンドはコマンドレベル 1、コマンドレベル 2、およびコマンドレベル 3 を使用しますが、パラメータ（name=value pairs）を必要としません。ほとんどの **omreport** コマンドはこのタイプのコマンドです。たとえば、次のコマンドはシステム上のコンポーネントに設定済みの警告処置のリストを表示します。

```
omreport system alertaction
```

最も複雑なコマンドには 3 つのコマンドレベルがあり、複数の「名前 = 値」のペアを持つことができます。次は、2 個の「名前 = 値」のペアの例です。

```
omconfig system assetinfo info=depreciation duration=3
```

次は、9 個の「名前 = 値」のペアの例です。

```
omconfig system assetinfo info=acquisition
purchasecost=<n> waybill=<n> installdate=<mmdyy>
purchasedate=<mmdyy> ponum=<n> signauth=<テキスト>
expensed=<yes / no> costcenter=<テキスト>
```

本マニュアルの各章で、コマンド構文およびその他コマンドに関する情報は、次のいずれかのフィールドを使用して適宜フォーマットされます。

コマンド レベル 1	コマンドレベル 2	コマンド レベル 3	名前 = 値の ペア 1	名前 = 値の ペア 2
---------------	--------------	---------------	-----------------	-----------------

omhelp コマンドの使用

omhelp コマンドと、それと同等の `<コマンド> -?` は、コマンドラインインターフェース (CLI) の詳しいヘルプテキストのインタフェースにアクセスします。ヘルプには複数の詳細レベルがあります。

完全修飾 CLI コマンドはそれぞれ、コマンド (コマンドレベル 1)、1 つまたは複数のサブコマンド (コマンドレベル 2、存在する場合はコマンドレベル 3) および 1 つまたは複数の「名前 = 値」のペアといった、個別部分の変数を持つ場合があります。

`-?` (スペース - ダッシュ - 疑問符) をコマンドの後に入力すると、そのコマンドに関するヘルプを表示できます。

ヘルプコマンドの例

`omconfig -?` と入力すると、**omconfig** コマンドについてのヘルプが表示されます。このレベルでのヘルプは **omconfig** で使用できるサブコマンドを一覧表示します。

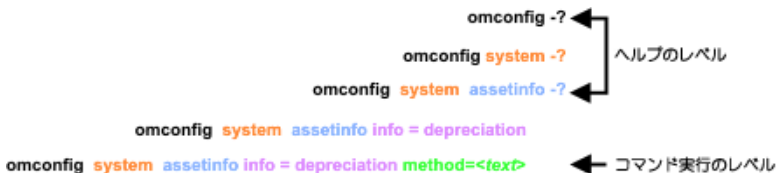
- about
- preferences
- chassis
- system

`omconfig system -?` と入力すると、CLI ヘルプに **omconfig system** で使用できるすべてのサブコマンドが一覧表示されます。

- alertaction
- alertlog
- assetinfo
- cmdlog
- esmlog
- events
- platformevents
- pedestinations
- recovery
- shutdown
- thrmshutdown
- webserver

図 2-1 は、コマンドのヘルプのレベルを示します。

図 2-1. コマンドの各レベルのヘルプ



次のように **omconfig system assetinfo** コマンド を解析することもできます。

< コマンドレベル 1 コマンドレベル 2 コマンドレベル 3 > < 名前 = 値
ペア 1 > [名前 = 値ペア 2]

コマンドレベル 1、2 および 3 は **omconfig system assetinfo** で、「名前 = 値」のペア 1 は **info=depreciation** で、および「名前 = 値」のペア 2 は **method=straightline** で表します。

減価償却方法を直線法に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=depreciation method=
straightline
```

CLI から次のメッセージが返されます。

資産情報は正常に設定されました。

omconfig system assetinfo -? と入力すると表示されるヘルプは § 名前フィールドとオプションフィールドの値の割り当てに関する情報を提供します。**omconfig system assetinfo -?** 要求の部分的な結果は、次のようになります。

```
assetinfo                資産情報を設定します。
```

1つの情報値に対して、1つまたは複数のオプションパラメーターを指定します。表 2-1 には、**info=acquisition** のオプションパラメーターが一覧表示されています。

表 2-1. オプションパラメーター

情報値	オプションパラメーター
Info=acquisition	purchasecost=< 数字 > waybill=< 数字 > installdate=<mmddyy> purchasedate=<mmddyy> ponum=< 数字 > signauth=< テキスト > expensed=< はい いいえ > costcenter=< テキスト > info=depreciation method=< テキスト > duration=< 数字 > percent=< パーセント > unit=< 月 年 不明 >

omreport : 計装サービスを使用したシステム状態の表示

omreport コマンドを使用すると、システムコンポーネントの詳細を表示することができます。一度に多数のシステムコンポーネントの概要を取得したり、特定のコンポーネントの詳細を取得することもできます。この章では必要な詳細レベルを備えたレポートの取得方法について説明します。

この章に記述したコマンドは、特定 **omreport** コマンドの結果に表示されるフィールドを定義するかどうかで異なります。このフィールドは、特別な用法や、あまり知られていない用法がある場合にのみ定義されています。

他のすべてのコンポーネントについては、**omreport** を使ってコンポーネントの状態を表示し、**omconfig** を使用してコンポーネントを管理できます。管理するコンポーネントの設定方法については、79 ページの「計装サービスを使った **omconfig**: コンポーネントの管理」を参照してください。

omconfig コマンドの実行に必要な情報を取得するには、**omreport** コマンドを使用します。例えば、温度プローブの警告イベントの最低温度を編集する場合は、設定するプローブのインデックスを知っておく必要があります。プローブの一覧とそのインデックスを表示するには、**omreport chassis temps** を使用します。

お使いのシステムで使用できる **omreport** コマンドはシステム構成によって異なります。表 3-1 には、**omreport** コマンドが適用可能なシステムが一覧表示されています。

表 3-1. **omreport** コマンドに対するシステム可用性

コマンドレベル1	コマンドレベル2	該当アプリケーション
omreport	modularencllosure	ブレードシステム
	servermodule	ブレードシステム
	mainsystem	ブレードシステム
	system	ラック型システムとタワー型システム
	chassis	ラック型システムとタワー型システム
	preferences	ブレードまたはラック型、およびタワー型システム

パラメーター表の規則

コマンド用のパラメータを一覧表示する場合、パラメータはコマンドラインインタフェース（CLI）に表示される順ではなくアルファベット順にリストされます。

記号「|」はパイプと呼ばれることがあり、排他的論理和または演算子を表します。例えば、有効|無効はコンポーネントまたは機能の有効化または無効化を意味します。

omreport コマンドのコマンド概要

本章では、可能なすべての **omreport** コマンドを一覧にしますが、お使いのシステムで使用できるコマンドはシステム構成によって異なります。**omreport** コマンドの結果は、システムによって異なる場合があります。**omreport** コマンドは、インストール済みのコンポーネントに関する情報のみを表示します。



メモ：システムに外部シャーシがある場合、表示される結果はオペレーティングシステムによって異なります。SUSE LINUX Enterprise Server および Red Hat Enterprise Linux のシステムでは、**omreport** コマンドは、メインシャーシ情報の後の別の項に外部シャーシ情報を表示します。Microsoft Windows システムでは、外部シャーシのデータは **omreport** 出力には表示されません。

表 3-2 は **omreport** コマンドの高レベルの概要です。**コマンドレベル 1** の列には、一般的な **omreport** コマンドの使用を示します。**コマンドレベル 2** には、**omreport** を使って表示できる主要オブジェクトやコンポーネント（バージョン情報、シャーシ、ストレージ、およびシステム）を示します。**コマンドレベル 3** には、レポートを表示する特定のオブジェクトおよびコンポーネントを示します。**必要なユーザー特権** とは、コマンドを実行するのに必要な特権の種類を表し、U= ユーザー、P= パワーユーザー、A= アドミニストレータを表します。**用途** は **omreport** を使って実行する操作に関する一般的な説明です。コマンドの構文と使い方の詳細については、この項で後述します。

表 3-2 では、バージョン情報、システム、およびメインシステムシャーシに使用可能な **omreport** コマンドを一覧表示します。ストレージコンポーネントの表示については、25 ページの「**omreport**：計装サービスを使用したシステム状態の表示」を参照してください。

表 3-2. omreport コマンドレベル 1、2、3

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	必要なユーザー権限	用途
omreport	modularencllosure		U、P、A	すべてのモジュールシャーシの情報を表示します。

表 3-2. omreport コマンドレベル 1、2、3 (続き)

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	必要なユーザー権限	用途
	about		U、P、A	Server Administrator のバージョン番号とプロパティを表示します。
		details=true	U、P、A	インストールされているすべての Server Administrator プログラムの情報を表示します。
	chassis または mainsystem		U、P、A	すべての主要コンポーネントの一般的な状態を表示します。
		acswitch	U、P、A	システムにおける冗長 AC 電力線がサポートされているフェイルオーバー設定を表示します。
		batteries	U、P、A	バッテリーのプロパティ設定を表示します。
		bios	U、P、A	製造元、バージョン、およびリリース日などの BIOS 情報を表示します。
		biossetup	A	システム起動中に設定された BIOS 設定プロパティを表示します。
		fans	U、P、A	システムのファンの状態としきい値を表示します。
		firmware	U、P、A	ファームウェアの名前とバージョンを表示します。

表 3-2. omreport コマンドレベル 1、2、3 (続き)

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	必要なユーザー権限	用途
		frontpanel	U、P、A	電源 ボタンや マスク不可能割り込み (NMI) ボタン (システムに存在する場合) などのフロントパネルボタン設定が有効になっているか無効になっているかを表示します。また、フロントパネルの暗号化アクセス情報とフロントパネルの LCD 情報も表示します。
		fru	U、P、A	フィールド交換可能ユニット (FRU) の情報を表示します。
		hwperformance	U、P、A	システムの性能劣化の状態および原因を表示します。
		info	U、P、A	メインシステムのシャーシコンポーネントの状態の概要を表示します。
		intrusion	U、P、A	システムのイントルージョンセンサーの状態を表示します。
		leds	U、P、A	さまざまな警告状況に従って LED が点滅するように設定したプロパティを表示します。
		memory	U、P、A	システムのメモリアレイのプロパティを表示します。

表 3-2. omreport コマンドレベル 1、2、3 (続き)

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	必要なユーザー権限	用途
		nicos	U、P、A	NIC およびチームインタフェースのプロパティを表示します。
		ports	U、P、A	I/O アドレス、IRQ レベル、コネクタの種類、最大速度など、システムの平行ポートとシリアルポートのプロパティを表示します。
		processors	U、P、A	速度、製造元、プロセッサシリーズなど、システムのプロセッサのプロパティを表示します。
		pwrmanagement	U、P、A	システムアイドル電力、システム最大潜在電力、および電力バジェット情報などの電源インベントリの詳細を表示します。
		pwrmonitoring	U、P、A	電力消費のプロパティを表示します。
		pwrsupplies	U、P、A	電力装置のプロパティを表示します。
		remoteaccess	U、P、A	リモートアクセスの一般情報を表示します。
		slots	U、P、A	システムの拡張スロットやその他のスロットタイプのプロパティを表示します。
		temps	U、P、A	システムの温度センサーの状態としきい値を表示します。

表 3-2. omreport コマンドレベル 1、2、3 (続き)

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	必要なユーザー権限	用途
		volts	U、P、A	システムの電圧センサーの状態としきい値を表示します。
		removableflash-media	U、P、A	システムの仮想フラッシュ (vFlash) およびセキュアデジタル (SD) カードの詳細を表示します。
	storage		U、P、A	177 ページの「ストレージ管理サービスの使い方」を参照してください。
	system または servermodule		U、P、A	システムコンポーネントの高レベルな概要を表示します。
		alertaction	U、P、A	警告とエラーのしきい値に加え、必要不可欠なコンポーネントが警告やエラー状況を検出した場合に設定されている処置を表示します。
		alertlog	U、P、A	システム管理者がアラートログを表示できます。
		assetinfo	U、P、A	システムの所有コスト情報を表示します。
		cmdlog	U、P、A	システム管理者がコマンド ログを表示できます。
		esmlog	U、P、A	システム管理者がハードウェア ログを表示できます。

表 3-2. omreport コマンドレベル 1、2、3 (続き)

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	必要なユーザー権限	用途
		events	U、P、A	システムの Simple Network Management Protocol (SNMP) イベント設定を表示します。
		operatingsystem	U、P、A	オペレーティングシステムの名前とバージョンを表示します。
		pedestinations	U、P、A	プラットフォームイベントの設定済みアラートの送信先を表示します。
		platformevents	U、P、A	リストされた各プラットフォームイベントに対するシステムの応答を表示します。
		recovery	P、A	ハング状態にあるオペレーティングシステムにシステムが応答する方法の設定を表示します。
		shutdown	P、A	シャットダウンを実行する方法を表示します。
		summary	U、P、A	メインシステムシャーシ、ソフトウェア、およびストレージを含むすべてのシステムコンポーネントの主要点を表示します。

表 3-2. omreport コマンドレベル 1、2、3 (続き)

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	必要なユーザー権限	用途
		thrmshutdown	P、A	温度の警告またはエラー状況が検知された場合に、シャットダウン処置（ある場合）を実行するための方法を表示します。
		version	U、P、A	システム上のアップデート可能なコンポーネントすべての概要を表示します。
	preferences	webserver	U、P、A	Server Administrator ウェブサーバーの URL 情報を表示します。

omreport コマンドのヘルプ

omreport -? コマンドを使用すると、**omreport** に使用可能なコマンドの一覧が表示されます。

omreport <コマンドレベル 2> -? を使ってレベル 2 のコマンドのバージョン情報、シャーシ、およびシステムのコマンドを表示します。**omreport system -?** に関する次の情報は、**omreport chassis** コマンドのヘルプの表示にも利用できます。

omreport system の有効なコマンドを一覧にするには、次のように入力します。

```
omreport system -? | more
```

omreport modularenclosure

ブレードシステムの詳細を表示するには **omreport modularenclosure** コマンドを使用します。次のように入力します。

```
omreport modularenclosure
```



メモ: この CLI コマンドは、Dell OpenManage Server Administrator が Dell ブレードシステムにインストールされている場合に利用可能です。

Server Administrator はモジュラーエンクロージャとシャーシ管理コントローラ CMC に関連する情報を表示します（利用可能である場合）。



メモ: 出力内容は、システムの構成によって異なります。

モジュラーシャーシ情報

シャーシ情報

属性	: モデル
値	: モジュラーサーバーエンクロージャ
属性	: ロック
値	: 正
属性	: サービスタグ
値	: 8RLNB1S
属性	: エクスプレスサービスコード
値	: 18955029124

CMC 情報

属性	: 製品
----	------

値 : シャーシ管理コントローラ (CMC)
属性 : 説明
値 : このシステムコンポーネントは、Dell システムに対するリモート管理機能セットを提供しています。
属性 : バージョン
値 : 3.20
属性 : IP アドレス
値 : 101.102.103.104
属性 : IP アドレスソース
値 : 動的ソース
属性 : IP アドレスタイプ
値 : IPv4
属性 : リモート接続インタフェース
値 : CMC Web インタフェースの起動

omreport about

omreport about コマンドを使用すると、システムにインストールされているシステム管理アプリケーションの製品名とバージョン番号を確認できます。次は、**omreport about** コマンドの出力例です。

```
製品名      : Dell OpenManage Server Administrator  
バージョン  : x.x.x  
著作権     : (C) xxxx-xxxx すべての著作権は Dell Inc. にあり  
           : ます。  
会社名     : Dell Inc.
```

Server Administrator 環境に関する詳細を知るには、次のように入力します。

```
omreport about details=true
```

Server Administrator には多くのサービスが含まれており、それぞれ独自のバージョン番号を持っています。**Contains** フィールドはサービスのバージョン番号やその他の役立つ詳細を報告します。次の出力は例であり、システムにインストールされた **Server Administrator** のシステム構成およびバージョンに応じて変わる場合があります。

内容 :
Instrumentation Service 7.x.x
Storage Management 4.x.x
Sun Java Runtime Environment 1.x.x_xx
Secure Port Server 7.x.x
Server Administrator Core Files 7.x.x
Instrumentation Service Integration Layer 7.x.x
Server Administrator Common Framework 7.x.x
Common Storage Module 4.x.x
Data Engine 7.x.x
Instrumentation Service 7.x.x

omreport chassis または omreport mainsystem コマンド

omreport chassis または **omreport mainsystem** コマンドを使用すると、シャーシ全体または特定のコンポーネントの詳細が表示されます。

omreport chassis または omreport mainsystem コマンド

次のように入力します。

```
omreport chassis
```

または

```
omreport mainsystem
```

Server Administrator がメインシステムのシャーシまたはコンポーネントの一般的な状態を表示します。

正常性

メインシステムシャーシ

重大度	: コンポーネント
OK	: ファン
重要	: インタラクション
OK	: メモリ
OK	: 電源装置
OK	: 温度
OK	: 電圧

omreport chassis acswitch または omreport mainsystem acswitch

フェイルオーバー設定された冗長 AC 電力線がシステムに含まれる場合は、**omreport chassis acswitch または omreport mainsystem acswitch** コマンドを使用します。次のように入力します。

```
omreport chassis acswitch
```

または

```
omreport mainsystem acswitch
```

Server Administrator によって次のように入力されます。

AC フェイルオーバースイッチ

AC スイッチの冗長性

冗長性状態	: フル
フル冗長性に必要であるデバイス数	: 2
冗長性モード	:
冗長性設定	: 入力ソースライン 1、冗長性の復元の場合、ライン 1 に戻ります。

AC 電源供給ライン

状態	: OK
場所	: AC 電源供給ライン 1
AC あり	: 電源あり
アクティブソース	: アクティブ
状態	: OK

場所 : AC 電源供給ライン 2
AC あり : 電源あり
アクティブソース : 非アクティブ

Server Administrator で **冗長性状態** と **冗長性モード** フィールドの値が報告されます。

omreport chassis batteries または omreport mainsystem batteries

バッテリーのプロパティを表示するには **omreport chassis batteries** または **omreport mainsystem batteries** コマンドを使用します。次のように入力します。

```
omreport chassis batteries
```

または

```
omreport mainsystem batteries
```

Server Administrator がシステムのバッテリー情報の概要を表示します。

omreport chassis BIOS または omreport mainsystem BIOS

現在の BIOS 情報を表示するために **omreport chassis bios** または **omreport mainsystem bios** コマンドを使用します。次のように入力します。

```
omreport chassis bios
```

または

```
omreport mainsystem bios
```

Server Administrator がシステムの BIOS 情報の概要を表示します。

omreport chassis biossetup または omreport mainsystem biossetup

omreport chassis biossetup または **omreport mainsystem biossetup** コマンドを使用すると、通常はシステム起動時にのみ使用可能な BIOS セットアップパラメータが表示されます。次のように入力します。

```
omreport chassis biossetup
```

または

```
omreport mainsystem biossetup
```



メモ：コマンド間の整合性を維持するため、このコマンドの出力形式は変更されています。適宜、ユーザースクリプトを変更します。

短縮形で BIOS セットアップパラメータを表示するには、次のように入力します。

```
omreport chassis biossetup display=shortnames
```

表 3-3 には PowerEdge yx2x システム以前のシステムで使用可能な BIOS セットアップパラメータが一覧表示されています。



メモ：一部の BIOS セットアップパラメータは表示されません。システムの起動中に設定された BIOS 設定プロパティのみが表示されます。

表 3-3. Dell PowerEdge yx2x システム以前のシステムで使用可能な BIOS セットアップパラメータ

パラメータ	説明
Bootsequence	システムのブートに使用するデバイスを表示します。
Numlock	キーパッドが数字キーとして使用されているかどうかを表示します。
Embedded Video Controller	内蔵ビデオコントローラ オプションが有効または無効になっているかを表示します。
Boot Mode	起動モードが BIOS または UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) に設定されているかを表示します。
Processor C1-E	プロセッサ C1-E の状態を表示します。
CPU Execute Disable	XD (Execute Disable) オプションが有効または無効になっているかを表示します。
Processor C State Control	プロセッサ C ステートコントロールのオプションが有効または無効になっているかを表示します。
Processor CMP	プロセッサごとに有効になっているコア数を表示します。
User accessible USB Ports	ユーザーアクセス可能 USB ポートが有効または無効になっているかを表示します。
CPU Virtualization Technology	仮想化テクノロジーによって提供された追加のハードウェア機能を表示します。

表 3-3. Dell PowerEdge yx2x システム以前のシステムで使用可能な BIOS セットアップパラメータ (続き)

パラメータ	説明
AC Power Recovery Mode	停電後に入力電力が復元したときのシステム状況を表示します。
Embedded SATA Controller	内蔵 SATA コントローラが ATA モード、RAID モード、または無効かを表示します。
SATA Port 0	SATA ポート 0 の状況を表示します。
SATA Port 1	SATA ポート 1 の状況を表示します。
Dual NIC (1/2)	PXE が付いた NIC 1 および NIC 2 が有効または無効になっているかを表示します。
Dual NIC (3/4)	PXE/iSCSI が付いた NIC 3 および NIC 4 が有効になっているか無効になっているかを表示します。
NIC 1	システムの起動中に最初の NIC が有効 (PXE/iSCSI のあるなしにかかわらず) または無効になっているかを表示します。
NIC 2	システムの起動中に二番目の NIC が有効 (PXE/iSCSI のあるなしにかかわらず) または無効になっているかを表示します。
NIC 3	システムの起動中に三番目の NIC が有効 (PXE/iSCSI のあるなしにかかわらず) または無効になっているかを表示します。
NIC 4	システムの起動中に四番目の NIC が有効 (PXE/iSCSI のあるなしにかかわらず) または無効になっているかを表示します。
Trusted Cryptographic Module (TCM)	TCM がオンまたはオフになっているかを表示します。
Trusted Platform Module (TPM) Security	信頼済みプラットフォームモジュールがオフか、起動前の測定付きでオンになっているか、あるいは起動前の測定なしで有効になっているかを表示します。
Internal USB Port (number)	内蔵 USB が有効または無効かを表示します。 メモ: システムに 1 つの USB ポートしか搭載されていない場合、Server Administrator は USB シーケンス番号を表示しない場合があります。
Operating System Watchdog Timer	オペレーティングシステムウォッチドッグタイマーが有効になっているか、無効になっているかを表示します。
HT Assist	ブロープフィルタチップセットのオプションの状態を表示します。
Internal SD Card	内蔵 SD カードが有効になっているか、無効になっているかを表示します。

**表 3-3. Dell PowerEdge yx2x システム以前のシステムで使用可能な BIOS セットアップ
パラメータ (続き)**

パラメータ	説明
Bezel	システムリブート中にベゼルの削除イントルーションが有効または無効になっているかを表示します。
コンソールリダイレクト	BIOS 画面が特定のシリアルポートにリダイレクト、またはオフになっているかを表示します。
Diskette	ディスクレットが無効、自動有効、または読み取り専用になっているかを表示します。
Demand Based Power Management (DBS)	DBS がシステムで有効または無効になっているかを表示します。
Embedded Hypervisor	内蔵されたハイパーバイザが有効または無効になっているかを表示します。
IDE	ドライブが有効または無効になっているかを表示します。
IDE Primary Drive 0	デバイスが自動検知され有効になっている、または無効になっているかを表示します。
IDE Primary Drive 1	デバイスが自動検知され有効になっている、または無効になっているかを表示します。
イントルーション	システムブート中にイントルーションチェックが有効または無効になっているかを表示します。
Mouse	マウスが有効または無効になっているかを表示します。
Optical Drive Controller	光学ドライブが有効または無効になっているかを表示します。
Parallel port address	アドレスが LPT1、LPT2、LPT3 に存在するか、または無効になっているかを表示します。
Parallel port mode	パラレルポートに関連した設定を表示します。
Primary SCSI	デバイスがオンまたはオフになっているかを表示します。
RAID on motherboard	マザーボード RAID が RAID デバイスまたは SCSI デバイスとして検知されている、またはデバイスがシステムブート中に無効になっているかを表示します。
RAID Channel A	マザーボード RAID チャンネル A が RAID デバイスまたは SCSI デバイスとして検知されているかを表示します。
RAID Channel B	マザーボード RAID チャンネル B が RAID デバイスまたは SCSI デバイスとして検知されているかを表示します。
SATA	

表 3-3. Dell PowerEdge yx2x システム以前のシステムで使用可能な BIOS セットアップパラメータ (続き)

パラメータ	説明
Serial Port 1	シリアルポート 1 が COM ポート、COM ポート 1、COM ポート 3、COM1 BMC、BMC シリアル、BMC NIC、BMC RAC にマップされている、または無効になっているかを表示します。
Serial Port 2	シリアルポート 2 が COM ポート、COM ポート 2、COM ポート 4 にマップされている、または無効になっているかを表示します。
Speaker	スピーカーがオンまたはオフになっているかを表示します。
USB or USBB	USB ポートが有効または無効になっているかを表示します。
Secondary SCSI	デバイスが有効または無効になっているかを表示します。
Serial Communications	COM ポート 1 と COM ポート 2 が有効か無効か、またコンソールリダイレクトの有無を表示します。
Console Redirection After Boot	システム起動後のコンソールリダイレクトが有効か無効かを表示します。
External Serial Connector	外部シリアルコネクタがシリアルデバイス 1、シリアルデバイス 2、リモートアクセスデバイスのうち、どれにマップされているかを表示します。
Console Redirection Failsafe Baud Rate	コンソールリダイレクト フェイルセーフ ボーレートの設定を表示します。
Serial Address Select	シリアルデバイスのポートアドレスを表示します。

利用可能なすべての起動デバイス、エイリアス名、起動順序を表示するには、次のように入力します。

```
omreport chassis biossetup attribute=bootorder
```



メモ: Linux システムでは、システム管理者またはシステム管理者グループにアップグレードされたユーザーまたはユーザーグループは、起動順序を表示できません。

表 3-4 では PowerEdge yx2x システムで使用可能な BIOS セットアップパラメータのグループを一覧表示します。



メモ: ハードウェア構成に基づき、属性は特定のグループ内で異なる場合があります。

表 3-4. PowerEdge yx2x システムでの BIOS セットアップグループ

グループ	説明
BIOS 起動設定	bootmode が bios に設定されているとき、システムの起動設定を制御します。
起動の設定	bootmode が bios に設定されているとき、システムの起動設定を制御します。
組み込み型サーバー管理	組み込み型サーバー管理のオプションを設定します。
内蔵デバイス	システム基板上に内蔵されたデバイスを制御します。
メモリ設定	システムメモリ設定を制御します。
その他の設定	その他システム設定の一部を制御します。
一回限りの起動	特定のデバイスに対する 1 回限りの起動をサポートします。
プロセッサ設定	システムのプロセッサ設定を制御します。
SATA 設定	内蔵された SATA ポートの設定を制御します。
シリアル通信	シリアル通信オプションを制御します。
スロット無効化	システムに存在するシステムスロットを制御します。
システム情報	システムを一意的に特定する情報を表示します。
システムプロファイル設定	電力管理の設定を制御します。
システムセキュリティ	システムのセキュリティ機能を制御します。
UEFI 起動設定	起動モードが uefi に設定されているとき、システムの起動設定を制御します。

omreport chassis currents または omreport mainsystem currents

現在、Server Administrator ではこのコマンドは使用できません。

omreport chassis removableflashmedia または omreport mainsystem removableflashmedia

システム上のリムーバブルフラッシュメディアの詳細とその正常性状態を表示するには、**omreport chassis removableflashmedia** または **omreport mainsystem removableflashmedia** を使用します。次のように入力します。

```
omreport chassis removableflashmedia
```

または

```
omreport mainsystem removableflashmedia
```

Server Administrator がシステムのリムーバブルフラッシュメディア情報の概要を表示します。



メモ : vFlash または SD カードのサイズが 1 GB 未満の場合、サイズは MB 単位で表示されます。

システムの構成に応じて、次の内容が出力される場合があります。

リムーバブルフラッシュメディア情報

正常性 : 重大

内蔵デュアル SD モジュールの冗長性 : 重要

属性 : 冗長性

値 : 喪失

内蔵 SD モジュール状態

状態 : OK

コネクタ名 : システム基板 SD 状態 1

状況 : 存在

ストレージサイズ : 512 MB

状態 : OK

コネクタ名 : システム基板 SD 状態 2

状況 : 存在

ストレージサイズ : 512 MB

vFlash メディア詳細

コネクタ名 : システム基板 SD 状態 1

タイプ : vFlash SD カード

状況 : 存在

利用可能なサイズ : 472 MB

ストレージサイズ : 512 MB

omreport chassis fans または omreport mainsystem fans

omreport chassis fans または **omreport mainsystem fans** コマンドを使用してファンローブの状態および設定を表示します。次のように入力します。

```
omreport chassis fans index=n
```

または

```
omreport mainsystem fans index=n
```

index パラメータはオプションです。**index** を指定しない場合、Server Administrator はシステムに存在するすべてのファンローブに設定されている状態、読み取り値、しきい値の概要を表示します。**index** を指定する場合は、Server Administrator が特定のファンローブの概要を表示されます。

omreport chassis firmware または omreport mainsystem firmware

omreport chassis firmware または **omreport mainsystem firmware** コマンドを使用すると、現在のファームウェアのプロパティが表示されます。次のように入力すると、

```
omreport chassis firmware
```

または

```
omreport mainsystem firmware
```

Server Administrator がシステムのファームウェアのプロパティの概要を表示します。



メモ : コマンド間の整合性を維持するため、このコマンドの出力形式は変更されています。適宜、ユーザースクリプトを変更します。



メモ : iDRAC がインストールされている場合、Server Administrator は Life Cycle Controller (LCC) のバージョンを表示します。BMC がインストールされている場合、Server Administrator は Unified Server Configurator (USC) のバージョンを表示します。

omreport chassis frontpanel または omreport mainsystem frontpanel

omreport chassis frontpanel または **omreport mainsystem frontpanel** コマンドを使用すると、電源ボタンやマスク不可能割り込み (NMI) (システムに存在する場合) などのフロントパネルボタンの制御設定が有効か無効かを確認できます。

お使いのシステムに **電源** ボタンのオーバーライドが存在する場合に、**電源** ボタンオーバーライドが有効かどうかを確認してください。有効になっていると、**電源** ボタンはシステムの電源を**オン**および**オフ**に切り替えます。

システムに **NMI** ボタンが存在する場合は、**NMI** ボタンが有効かどうか確認してください。特定のオペレーティング システムを使用している場合に、**NMI** ボタンを使用してソフトウェアおよびデバイスエラーのトラブルシューティングを行います。

フロントパネル LCD セキュリティアクセス は、フロントパネルの暗号化アクセス情報が、**表示**、**変更**、または **無効** のどれに設定されているかを表示します。

フロントパネル LCD 情報 は、サービスタグ、リモート表示状態などの情報を表示します。

omreport chassis fru または omreport mainsystem fru

omreport chassis fru または **omreport mainsystem fru** コマンドを使用すると、FRU 情報を表示することができます。次のように入力すると、

```
omreport chassis fru
```

または

```
omreport mainsystem fru
```

Server Administrator がシステムの FRU 情報の概要を表示します。この情報は Server Administrator GUI、SNMP、CIM を経由して入手でき、主にトラブルシューティングに使用されます。

omreport chassis hwperformance または omreport mainsystem hwperformance


omreport chassis hwperformance または **omreport mainsystem hwperformance** コマンドを使用すると、システムのパフォーマンス低下の状態および原因を表示します。次のように入力すると、

```
omreport chassis hwperformance
```

または

```
omreport mainsystem hwperformance
```

Server Administrator がシステムのハードウェアパフォーマンスの劣化情報の概要を表示します。

 **メモ**：このコマンドは、PMBus をサポートする一部の Dell yx0x システムにのみ適用できます。

システムの構成によっては、次が出力される場合があります。

ハードウェアパフォーマンス
インデックス : 0
プローブ名 : システム基板電源最適化済み
状態 : 正常
原因 : [N/A]

omreport chassis info または omreport mainsystem info

omreport chassis info または **omreport mainsystem info** コマンドを使用すると、インストールされているコンポーネントのバージョンの概要が表示されます。次のように入力します。

```
omreport chassis info index=n
```

または

```
omreport mainsystem info index=n
```

index パラメータはシャーシ番号を指定するオプションです。**index** を指定しない場合は、**Server Administrator** が各シャーシの概要を表示します。**index** を指定する場合は、**Server Administrator** が特定のシャーシの概要を表示します。



メモ : iDRAC がインストールされていると、**Server Administrator** は LCC バージョンを表示します。BMC がインストールされていると、**Server Administrator** は USC バージョンを表示します。

システムの構成によっては、次が出力される場合があります。

インデックス : 0
シャーシ名 : メインシステムシャーシ
ホスト名 : WIN-27C02UQFV6L
iDRAC7 バージョン : 1.00
シャーシモデル : PowerEdge R720
シャーシロック : 存在
シャーシサービスタグ : 7654321
エクスプレスサービスコード : 15608862073
シャーシ管理タグ : c

omreport chassis intrusion

omreport chassis intrusion コマンドを使用して、システムのカバーが開いているかどうかを確認します。イントルージョンは、システムのコンポーネントを盗んだり、システムを無断で保守しようとする者がいる可能性を示している場合があるため、**Server Administrator** ではシャーシイントルージョンを記録します。次のように入力します。

```
omreport chassis intrusion
```

次のようなメッセージが表示されます。

イントルージョン情報

正常性	: Ok
インデックス	: 0
状態	: OK
プローブ名	: イントルージョン
状況	: シャーシは閉じています

omreport chassis leds または omreport mainsystem leds

omreport chassis leds または **omreport mainsystem leds** コマンドを使用すると、ハードディスクドライブエラーのクリアがサポートされているかどうか、およびどの重大度レベルで LED が点滅するかを確認できます。次のように入力します。

```
omreport chassis leds index=n
```

または

```
omreport mainsystem leds index=n
```

index パラメータはオプションです。**index** を指定しない場合は、**Server Administrator** がシャーシ 0 の LED 情報の概要を表示します。**index** を指定する場合は、**Server Administrator** が特定のシャーシの概要を表示します。

次に出力例を示します。

メインシステムシャーシ

シャーシ識別 LED の点滅状況	: オフ
シャーシ識別 LED 点滅のタイムアウト	: 300

omreport chassis memory または omreport mainsystem memory

omreport chassis memory または **omreport mainsystem memory** コマンドを使用して、システムの各メモリモジュールスロットの詳細を表示します。システムが冗長メモリをサポートしている場合、このコマンドによってシステムに実装されているメモリ冗長の状態、状況、タイプも表示されます。次のように入力します。

```
omreport chassis memory index=n
```

または

```
omreport mainsystem index=n
```

index パラメータはオプションです。**index** を指定しない場合は、Server Administrator がシステム上のすべてのメモリモジュールの情報を表示します。**index** を指定する場合は、Server Administrator によって特定のメモリモジュールの概要が表示されます。



メモ：コマンド間の整合性を維持するため、このコマンドの出力形式は変更されています。適宜、ユーザースクリプトを変更します。

次は、使用中のメモリスロットの出力例です。

```
インデックス      : 1
状態              : Ok
コネクタ名        : DIMM_A1
タイプ            : DDR3 - 同期登録解除 <バッファなし >
```

```
サイズ            : 2048 MB
```

使用されていないメモリスロットには、まだコネクタ名が付いています。次は、使用されていないメモリスロットの出力例です。


```
インデックス      :
状態              : 不明
コネクタ名        : DIMM_A2
タイプ            : [未使用]
サイズ            :
```

システムが冗長メモリをサポートしている場合は、冗長出力が次のように表示されます。

メモリ冗長性	
冗長性状態	: 完全
フェイルオーバー状況	: 非アクティブ
冗長性設定	: DDDC
メモリアレイの属性	
属性	: 場所
メモリアレイ 1	: システム基板またはマザーボード
属性	: 用途
メモリアレイ 1	: システムメモリ
属性	: インストール済み容量
メモリアレイ 1	: 131072 MB
属性	: 最大容量
メモリアレイ 1	: 1048576 MB
属性	: 使用可能なスロット
メモリアレイ 1	: 32
属性	: 使用中のスロット
メモリアレイ 1	: 32
属性	: エラー修正
メモリアレイ 1	: マルチビット ECC

omreport chassis nics または omreport mainsystem nics

NIC およびチームインタフェースのプロパティを表示するには **omreport chassis nics** または **omreport mainsystem nics** コマンドを使用します。XenServer で、コマンドはドライバのインストールに関わらず、すべてのインストール済み NIC を表示します。

 **メモ**: デバイスが検出された順序は、デバイスの物理ポート順序と一致するとは限りません。

NIC プロパティを表示するには、次のように入力します。

```
omreport chassis nics index=n
```

または

```
omreport mainsystem nics index=n
```

index パラメータはオプションです。**index** パラメータを指定しない場合、Server Administrator は、システムのすべての NIC のプロパティと **インデックス** (NIC カード番号)、**インタフェース名**、**ベンダー**、**説明**、**接続状態**、および **スロット** の各フィールドの値を表示します。

index パラメータを指定した場合、Server Administrator は、特定の NIC のプロパティと **物理インタフェース**、**インタフェース名**、**IPv4 アドレス**、**IPv6 アドレス**、**物理インタフェースの受信統計**、**物理インタフェースの送信統計**、**インタフェースの受信統計**、および **インタフェースの送信統計** の各フィールドの値を表示します。



メモ：統合型ネットワークアダプタ（CNA）カードの Fibre Channel over Ethernet（FCoE）および iSCSI over Ethernet（iSoE）機能は、VMware ESX および VMware ESXi システムではサポートされていません。

チームインタフェースのプロパティを表示するには、次のように入力します。

```
omreport chassis nics config=team index=n
```

または

```
omreport mainsystem nics config=team index=n
```



メモ：このコマンドは、システムでチームインタフェースが設定されている場合のみ、適用できます。チームインタフェースは、Broadcom などの NIC ベンダーツールを使用して設定されます。

index パラメータはオプションです。**index** パラメータを指定しない場合、Server Administrator は、システムのすべてのチームインタフェースの詳細と **インデックス**（NIC カード番号）、**インタフェース名**、**ベンダー**、**説明**、および **冗長性状態** の各フィールドの値を表示します。

index パラメータを指定した場合、Server Administrator は、特定 NIC のチームインタフェースの詳細と **チームインタフェース**、**インタフェース**、**IPv4 アドレス**、**IPv6 アドレス**、**チームインタフェースの受信統計**、**チームインタフェースの送信統計**、**インタフェースの受信統計**、および **インタフェースの送信統計** の各フィールドの値を表示します。

omreport chassis ports または omreport mainsystem ports

omreport chassis ports または **omreport mainsystem ports** コマンドを使用すると、システムの平行ポートとシリアルポートのプロパティが表示されます。

Server Administrator は、**ポートタイプ**、**外部名**、**ベース I/O アドレス**、**IRQ レベル**、**コネクタタイプ**、および **最大速度** フィールドの値が表示します。

ポートのタイプ は各システムポートタイプの詳細で、シリアル、平行、USB などのポートや、ポインティングデバイス、キーボードなどポートに接続されるデバイス種類ごとのポート名が示されます。

外部名 はシリアルまたは平行、USB、マウス、キーボードなどのポート名です。

ベース I/O アドレス は 16 進数で表される開始 I/O アドレスです。

IRQ レベル はシステムのハードウェア割り込みです。ハードウェア割り込みはイベントがモデムまたはプリンタのような周辺機器で開始または終了したことをシステムの CPU に通知します。周辺機器内部接続カードで通信する場合、IRQ レベルは、割り込み要求を送信しているデバイスの種類を識別する一般的な方法です。

コネクタタイプ はプラグまたはケーブルの種類と 2 つのデバイスを接続するプラグを指し、この場合は外付けデバイスをシステムに取り付けるコネクタの種類を指します。コネクタタイプは数多く、それぞれ異なる種類をシステムに接続するように設計されています。例としては DB-9 Male、AT、アクセスバス、PS/2 などが挙げられます。

最大速度 はポート速度です。ポート速度は入力 / 出力 チャンネルのデータ転送レートを指し、1 秒あたりのビット数で測定されます。通常、シリアルポートの最大速度は 115 Kbps で、USB バージョン 1.x ポートの最大速度は 12 Kbps です。

omreport chassis processors または omreport mainsystem processors

omreport chassis processors または **omreport mainsystem processors** コマンドを使用してシステムのプロセッサのプロパティを表示できます。

Server Administrator は、**インデックス**、**状態**、**コネクタ名**、**プロセッサのブランド**、**プロセッサバージョン**、**現在の速度**、**状況**、および **コア数** の各フィールドの値を表示します。

インデックス は、プロセッサの番号を指します。

状態 は、プロセッサの現在の状態を指します。

コネクタ名 は、システムのプロセッサ スロットを占有するデバイス名またはデバイス番号を指します。

プロセッサのブランド は、Intel Itanium、Intel Pentium III、Intel Xeon、または AMD Opteron などのメーカーが製造するプロセッサの種類です。

プロセッサバージョン は、プロセッサのモデルとステッピング番号を指します。

現在の速度 はシステム起動時の実際のプロセッサの速度を MHz で表したものです。

状況 は、プロセッサスロットが有効か無効かを示します。

コアカウント は、1 つのチップに内蔵されたプロセッサ数を表したものです。

特定のプロセッサの機能およびキャッシュプロパティ

特定のコネクタ上のプロセッサのキャッシュプロパティを調べるには、次のように入力します。

```
omreport chassis processors index=n
```

または

```
omreport mainsystem processors index=n
```

index パラメータはオプションです。**index** を指定しない場合は、Server Administrator がすべてのプロセッサのプロパティを表示します。**index** を指定する場合は、Server Administrator が特定のプロセッサのプロパティを表示します。

次のフィールドは特定のマイクロプロセッサの現在の能力のために定義されます。

Intel プロセッサの場合

- 64 ビットのサポート
- ハイパースレディング (HT)
- Virtualization Technology (VT)
- Demand-Based Switching (DBS)
- Execute Disable (XD)
- Turbo Mode

AMD プロセッサの場合

- 64 ビットのサポート
- AMD-V
- AMD PowerNow!
- No Execute (NX)

特定のマイクロプロセッサ上のキャッシュには、次のフィールドが定義されます。そのキャッシュがプロセッサの内部にある場合、キャッシュレポートにフィールドは表示されません。

- 速度
- キャッシュデバイスがサポートしている種類
- キャッシュデバイス現在の種類
- 外部ソケット名



メモ: 特定のオペレーティングシステム (例: VMware ESXi) の制限により、本リリースの OpenManage Server Administrator で一部の機能を利用できない場合があります。

特定プロセッサ上のキャッシュごとに報告されるフィールド

特定プロセッサ上のキャッシュごとに対して次のフィールドが表示されます。

状態 は、そのプロセッサ上のキャッシュの状態が有効か無効かを報告します。

レベル は、それが 1 次キャッシュか 2 次キャッシュかを示します。1 次キャッシュは、プロセッサに内蔵されたメモリバンクです。2 次キャッシュは、1 次キャッシュに転送されるデータのステージ領域です。2 次キャッシュは、プロセッサ内に内蔵されるか、またはプロセッサ外部のメモリチップに格納されます。内部プロセッサキャッシュはレベル 1（または L1）と呼ばれます。L2 キャッシュは Intel Pentium プロセッサ システムの外部キャッシュで、2 次的にアクセスされるキャッシュです。L1 または L2 という呼び名は、そのキャッシュの物理的な場所（内部または外部）を示すものではなく、どちらのキャッシュが最初にアクセスされるかを示しています（L1、つまり内部）。

速度 はキャッシュがメインメモリからプロセッサへデータを転送するときの速度レートを示します。

最大サイズ はそのキャッシュの最大メモリ容量を KB で表します。

インストールサイズ はそのキャッシュの実サイズです。

種類 はそれが 1 次キャッシュか 2 次キャッシュかを示します。

場所 はプロセッサ上、またはプロセッサ外のチップセット上のキャッシュの場所です。

書き込みポリシー はキャッシュの書き込みサイクル方法を示します。書き戻しポリシーでは、キャッシュはバッファとして機能します。プロセッサが書き込みサイクルを開始すると、キャッシュはデータを受け取ってサイクルを停止します。その後、システムバスが利用可能になると、キャッシュはそのデータをメインメモリに書き戻します。

ライトスルーポリシーでは、プロセッサがキャッシュ経由でメインメモリに書き込みます。データがメインメモリに格納されるまで書き込みサイクルは完了しません。

結合性 はメインメモリの内容を キャッシュに格納するときの方法を示します。

- 完全連想キャッシュでは、メインメモリのラインはキャッシュのどの場所にも格納できます。
- n - ウェイセット連想キャッシュ方式では、メモリ内の特定の n ラインをキャッシュ内の同一の n ラインに直接マップします。例えば、メモリ内のページのライン 0 はキャッシュメモリ内のライン 0 に格納されます。

キャッシュデバイス対応の種類 は、そのデバイスが サポートできる SRAM (Static Random Access Memory) の種類を示します。

キャッシュデバイス現在の種類 は、現在搭載済みで、そのキャッシュが サポートしている SRAM の種類を示します。

外部ソケットシルクスクリーン名 は、ソケットの隣りのシステムボードに刻印される名前です。

エラー修正の種類 は、このメモリで実行される ECC（エラー検査と訂正）の種類を示します。たとえば、訂正可能な ECC または訂正不可能な ECC が挙げられます。

この報告には、マイクロプロセッサ上に存在する各キャッシュ情報が示されます。

omreport chassis pwrmanagement または omreport mainsystem pwrmanagement

omreport chassis pwrmanagement または **omreport mainsystem pwrmanagement** コマンドを使用して、システムの電力バジェットキャップと電源管理プロファイルを表示します。値は、設定に基づいて、ワットまたは 英熱量毎時単位で表示されます。次のように入力します。

```
omreport chassis pwrmanagement
```

または

```
omreport mainsystem pwrmanagement
```



メモ : コマンド間の整合性を維持するため、このコマンドの出力形式は変更されています。適宜、ユーザースクリプトを変更します。



メモ : **omreport chassis pwrmanagement** または **omreport mainsystem pwrmanagement** コマンドは、PMBus (Power Management Bus) をサポートし、ホットスワップ対応の電源装置を搭載している PowerEdge yx1x 以降のシステムで適用可能であり、固定型の非冗長電源装置が取り付けられているシステムでは適用できません。

システムの各電源装置の次のフィールドの値が表示されます。

最大性能、アクティブ電源コントローラ、OS 制御、カスタム。

カスタム属性には次のようなものがあります。

CPU 電源とパフォーマンス管理、メモリ電源とパフォーマンス管理、ファン電源とパフォーマンス管理。

次に出力例を示します。

電源インベントリとバジェット

電源インベントリ

システムアイドル電力 : 0 W

システムの最大潜在電力 : 0 W

電力バジェット

属性 : 電力キャップを有効にする

値 : 有効

属性 : 電力キャップ

値 : 400 W (56%)



メモ : 電力バジェットは詳細をレポートするためにライセンスが必要です。正しいライセンスがインストールされていないか有効期限が切れている場合、システムは電力バジェットの詳細を表示しません。詳細に関しては、support.dell.com/manuals で『The Dell Licensing Management Guide』(Dell ライセンス管理ガイド) を参照してください。

omreport chassis pwrmonitoring または omreport mainsystem pwrmonitoring

omreport chassis pwrmonitoring または **omreport mainsystem pwrmonitoring** コマンドを使用してシステムの電力消費のプロパティを表示します。値は、設定に基づいて、ワットまたは 英熱量毎時単位で表示されます。次のように入力します。

```
omreport chassis pwrmonitoring
```


または


```
omreport mainsystem pwrmonitoring
```

システムの各電源監視プロファイルの次のフィールドの値が表示されます。

- 電力消費量状態
- プローブ名
- 読み取り値
- 警告しきい値
- エラー警告しきい値
- アンペア数：場所と読み取り値
- 電源 トラッキング統計

- エネルギー消費量
- 測定開始時刻
- 測定終了時刻
- 読み取り値
- システムピーク電力
- システムピークアンペア数

 **メモ** : `omreport chassis pwrmonitoring` または `omreport mainsystem pwrmonitoring` コマンドは、PMBus (Power Management Bus) をサポートし、ホットスワップ対応の電源装置を搭載している PowerEdge yx0x 以降のシステムで適用可能であり、固定型の非冗長電源装置が取り付けられているシステムでは適用できません。

 **メモ** : 電力監視は詳細をレポートするためにライセンスが必要です。正しいライセンスがインストールされていないか有効期限が切れている場合、システムは、システムの電力消費の詳細を表示しません。詳細に関しては、support.dell.com/manuals で『The Dell Licensing Management Guide』(Dell ライセンス管理ガイド) を参照してください。


 **メモ** : コマンド間の整合性を維持するため、このコマンドの出力形式は変更されています。適宜、ユーザースクリプトを変更します。

表 3-5. omreport chassis pwrmonitoring または omreport mainsystem pwrmonitoring

「名前 = 値」のペア	説明
<code>config=stats</code>	電力統計をワット数で表示します。

次に出力例を示します。

電力消費の情報

電力消費

```

インデックス                : 1
状態                          : Ok
プローブ名                    : システム基板 電力消費
読み取り値                    : 539W
警告しきい値                  : 994W
エラー警告しきい値          : 1400 W

```

アンペア数

```

PS1 電流 1                    : 1.2 A

```


電力ヘッドルーム

システムの瞬時ヘッドルーム : 300 W

システムのピークヘッドルーム : 340

電源トラッキング統計

統計 : エネルギー消費

測定開始時刻 : 2011 年 5 月 28 日 (木)
11:03:20

測定終了時刻 : 2011 年 5 月 28 日 (金)
11:05:46

読み取り値 : 5.9 KWH

統計 : システムピーク電源

測定開始時刻 : 2011 年 5 月 18 日 (月)
16:03:20

ピーク時間 : 2011 年 5 月 27 日 (水)
00:23:46

ピーク読み取り値 : 630 W

統計 : システムピークアンペア数

測定の開始時間 : 2011 年 5 月 18 日 (月)
16:03:20

読み取り時間 : 2011 年 5 月 19 日 (火)
04:06:32

ピーク読み取り値 : 2.5 A



メモ: 電力の管理機能はホットスワップ対応の電源装置を搭載した PowerEdge システムのみで使用することができ、固定型の非冗長電源装置搭載のシステムでは使用できません。

omreport chassis pwrsupplies または omreport mainsystem pwrsupplies

omreport chassis pwrsupplies または **omreport mainsystem pwrsupplies** コマンドを使用してシステムの電源装置のプロパティを表示できます。次のように入力します。

```
omreport chassis pwrsupplies
```

または

```
omreport mainsystem pwrsupplies
```



メモ : コマンド間の整合性を維持するため、このコマンドの出力形式は変更されています。適宜、ユーザースクリプトを変更します。

システムの各電源監視プロファイルの次のフィールドの値が表示されます。

- 状態
- 場所
- タイプ
- 低角入力電圧（ワット単位）
- 最大出力ワット数
- オンライン状態
- 電源監視対応

omreport chassis remoteaccess または omreport mainsystem remoteaccess

DRAC がインストールされている場合、**omreport chassis remoteaccess** または **omreport mainsystem remoteaccess** コマンドを使って、ベースボード管理コントローラ、または Dell remote access controller (BMC/iDRAC) および Remote Access Controller の一般情報を表示します。

次のように入力します。

```
omreport chassis remoteaccess
```

または

```
omreport mainsystem remoteaccess
```



メモ : コマンド間の整合性を維持するため、このコマンドの出力形式は変更されています。適宜、ユーザースクリプトを変更します。

omreport chassis remoteaccess または **omreport mainsystem remoteaccess** コマンドの出力では有効なパラメータそれぞれを一覧表示します。表 3-6 に使用可能な設定を一覧表示します。

表 3-6. omreport chassis remoteaccess または omreport mainsystem remoteaccess の有効なパラメータ

「名前 = 値」のペア	説明
config=additional	iDRAC 上での IPv4 と IPv6 アドレスの現在の状況を報告します。
config=advsol	ローカルエリアネットワーク (LAN) 接続におけるシリアルの詳細 BMC または RAC の情報を報告します。
config=nic	LAN 接続に対する BMC/iDRAC または リモートアクセス の情報を報告します。
config=serial	BMC または リモートアクセスのシリアルポート情報を報告します。
config=serialoverlan	Reports BMC/iDRAC or remote access information on a serial over LAN 接続におけるシリアルの詳細 BMC/iDRAC または RAC の情報を報告します。
config=terminalmode	シリアルポートのターミナルモード設定を報告します。
config=user	BMC/iDRAC またはリモートアクセスユーザーの情報を報告します。

omreport chassis slots または omreport mainsystem slots

omreport chassis slots または **omreport mainsystem slots** コマンドを使用してシステムスロットのプロパティを表示できます。

次のように入力します。

```
omreport chassis slots index=n
```

または

```
omreport mainsystem slots index=n
```

index パラメータはオプションです。**index** を指定しない場合は、Server Administrator がシステムのすべてのスロットのプロパティを表示します。

index を指定する場合は、Server Administrator が特定のスロットのプロパティを表示します。



メモ：コマンド間の整合性を維持するため、このコマンドの出力形式は変更されています。適宜、ユーザースクリプトを変更します。

システムの各スロットの：**インデックス**、**スロット ID**、**アダプタ**、および **データバス幅**フィールドの値が表示されます。

インデックス はシステムにあるスロットの数です。

スロット ID は、スロットの隣のシステムのマザーボードに印刷されたシルクスクリーン名です。英数字テキストはシステムの各スロットを独自に識別します。

アダプタ はスロットに合ったカード名とタイプを指し、例えばストレージレイアウトコントローラ、SCSI アダプタ、iDRAC Enterprise、HBA などが含まれます。

データバスの幅 は、システムのコンポーネント間の情報経路の幅をビットで表したものです。データバスの幅の範囲は 16 ~ 64 ビットです。

omreport chassis temps または omreport mainsystem temps

omreport chassis temps または **omreport mainsystem temps** コマンドを使用してシステムの温度プローブのプロパティを表示できます。次のように入力します。

```
omreport chassis temps index=n
```

または

```
omreport mainsystem temps index=n
```

index パラメータはオプションです。**index** を指定しない場合、Server Administrator はシステムに存在するすべてのファンプローブに設定されている状態、読み取り値、しきい値の概要を表示します。**index** を指定する場合は、Server Administrator が特定の温度プローブの概要を表示します。

omreport chassis volts または omreport mainsystem volts

omreport chassis volts または **omreport mainsystem volts** コマンドを使用してシステムの電圧プローブのプロパティを表示できます。次のように入力します。

```
omreport chassis volts index=n
```

または

```
omreport mainsystem volts index=n
```

index パラメータはオプションです。**index** を指定しない場合は、Server Administrator がシステムに存在するすべての電圧プローブに設定されている状態、読み取り値、しきい値の概要を表示します。**index** を指定する場合は、Server Administrator が特定の電圧プローブの概要を表示します。

omreport system コマンドまたは omreport servermodule コマンド

omreport system または **omreport servermodule** コマンドを使用してログ、しきい値、所有コスト情報、およびシャットダウン処置と回復処理の設定方法の情報を表示できます。

omreport system または omreport servermodule

omreport system または **omreport servermodule** コマンドを使用してシステムのコンポーネントの一般状態を表示します。**omreport system shutdown** または **omreport servermodule shutdown** のようなレベル 3 コマンドを指定すると **omreport system** または **omreport servermodule** で取得される高レベル状態の代わりに、1 つのシステムコンポーネントの詳細な情報を取得できます。

次のように入力します。


```
omreport system  
  
または  
  
omreport servermodule
```

お使いのシステムに、メインシステムシャーシまたはメインシステム、および少なくとも 1 つの直接接続されているストレージデバイスの両方がある場合は、**Server Administrator** には次の例に示すような概要が表示されます。

```
重大度      :   コンポーネント  
OK          :   メインシステムシャーシ  
重要       :   ストレージ
```

ログ表示のコマンド

omreport system または **omreport servermodule** コマンドを使用して警告ログ、コマンドログおよびハードウェアまたは ESM ログを表示します。

 **メモ:** アラートログ または コマンドログ に、無効な XML データ（選択に対して生成された XML が適切な形式ではないなど）が表示された場合、ログをクリアして問題を解決してください。ログをクリアするには、`omconfig system alertlog action=clear` または `omconfig system cmdlog action=clear` をタイプします。今後のためにログ情報を保管しておきたい場合は、ログをクリアする前にログのコピーを保存しておくといいでしょう。ログのクリアの詳細については、150 ページの「ログをクリアするコマンド」を参照してください。

アラートログの内容を表示するには、次のように入力します。

```
omreport system alertlog  
  
または  
  
omreport servermodule alertlog
```

コマンドログのコンテンツを表示するには、次のように入力します。

```
omreport system cmdlog
```

または

```
omreport servermodule cmdlog
```

ESM ログのコンテンツを表示するには、次のように入力します。

```
omreport system esmlog
```

または

```
omreport servermodule esmlog
```

ESM ログの全般的な正常性状態

omreport system esmlog または **omreport servermodule esmlog** コマンドを実行すると、ESM ログが表示されます。報告の 1 行目はシステムハードウェアの総合的な正常性を反映しています。たとえば、正常性：OK となっている場合、ESM ログに割り当てられている容量におけるメッセージの占有率がまだ 80 % 未満という意味です。ESM ログに割り当てられている容量の 80 % 以上が占有されると、次の注意が表示されます。

正常性：非重要

注意が表示されたら、警告と重大の重大度状態をすべて解決してから、ログをクリアしてください。

omreport system alertaction または omreport servermodule alertaction

omreport system alertaction または **omreport servermodule alertaction** コマンドを使用すると、システムコンポーネントでの警告やエラーイベントに対して設定されている警告処置の概要が表示されます。警告処置はコンポーネントに警告またはエラー イベントがある場合に、Server Administrator の応答方法を決定します。

omreport system alertaction または **omreport servermodule alertaction** コマンドは、コンポーネントに指定された警告処置を表示するのに役立ちます。コンポーネントの警告処置を設定するには **omconfig system alertaction** または **omconfig servermodule alertaction** コマンドを使用します。詳細については、79 ページの「計装サービスを使った omconfig: コンポーネントの管理」を参照してください。



メモ：コマンド間の整合性を維持するため、このコマンドの出力形式は変更されています。適宜、ユーザースクリプトを変更します。




メモ：特定のオペレーティングシステム（例：VMware ESXi）の制限により、本リリースの OpenManage Server Administrator で一部の機能を利用できない場合があります。

警告処置の表示があるコンポーネントおよびイベント

システムにコンポーネントまたはイベントが存在する場合、次のようなコンポーネントやイベントに関して警告処置のプロパティを表示します。

- バッテリ警告
- バッテリエラー
- シャーシントルージョン
- 電流プローブ警告
- 電流プローブエラー
- ファン警告
- ファン障害
- メモリプリアエラー
- メモリエラー
- システム電源プローブ警告
- システム電源プローブはエラーを検出します。
- システムピーク電力
- 電源装置警告
- 電源装置エラー
- 冗長の低下
- 冗長の喪失
- 温度警告
- 不適切な温度
- 電圧警告
- 不適切な電圧
- プロセッサ警告
- プロセッサエラー
- ハードウェアログ警告
- ハードウェアログが一杯です
- ウォッチドッグ ASR
- ストレージシステム警告
- ストレージシステムエラー
- ストレージコントローラ警告
- ストレージコントローラエラー
- 物理ディスク警告

- 物理ディスクエラー
- 仮想ディスク警告
- 仮想ディスクエラー
- エンクロージャ警告
- エンクロージャエラー
- ストレージコントローラバッテリー警告
- ストレージコントローラバッテリーエラー
- リムーバブルフラッシュメディア存在
- リムーバブルフラッシュメディア取り外し
- リムーバブルフラッシュメディアエラー

 **メモ**: ストレージコントローラバッテリー警告 および ストレージコントローラバッテリーエラーイベントはブレードシステムで利用できません。

 **メモ**: システム電源プローブ警告はブレードシステムには適用されません。

omreport system assetinfo または omreport servermodule assetinfo

omreport system assetinfo または **omreport servermodule assetinfo** コマンドを使用すると、取得、減価償却、および保証情報などのシステムの所有コストデータが表示されます。このフィールドを設定するには、**omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを使用します。詳細については、161 ページの「omconfig システムまたは servermodule assetinfo: 所有コスト (Cost of Ownership) の編集」を参照してください。

omreport system events または omreport servermodule events

omreport system events または **omreport servermodule events** コマンドを使用すると、現在有効または無効の SNMP トラップが表示されます。このコマンドは、イベントが生成されるシステム内の各コンポーネントの概要を表示します。各コンポーネントについて、報告するように設定されている重大度と、報告しないように設定されている重大度がレポートに示されます。次のように入力します。

```
omreport system events
```

または

```
omreport servermodule events
```


いくつかのコンポーネントの出力例を次に示します。

現在の SNMP トラップの設定

システム

設定

有効にする： 情報、警告および重要

無効： なし

電源装置

設定

有効にする： 情報、警告および重要

無効： なし

ファン

設定

有効にする： 重要

無効にする： 情報、警告および重要

リムーバブルフラッシュメディア

設定

有効にする： 情報、警告および重要

無効： なし

完全なレポートには、イベントが生成されるシステム内すべてのコンポーネントの設定が一覧されます。

特定タイプのコンポーネントの状態を表示するには **omreport system events type=<コンポーネント名>** または **omreport servermodule event type=<コンポーネント名>** コマンドを使用します。< component name> command. このコマンドは、イベントが生成されるシステム内の各コンポーネントの概要を表示します。表 3-7 には、各種のコンポーネントのために表示されるイベントがリストされています。



メモ：特定のオペレーティングシステム（例：VMware ESXi）の制限により、本リリースの OpenManage Server Administrator で一部の機能を利用できない場合があります。

表 3-7. コンポーネントの種類別のシステムイベント

「名前 = 値」のペア	説明
type=accords	AC 電源コードのイベントを報告します。
type=battery	バッテリーのイベントを報告します。
type=fanenclosures	ファンエンクロージャのイベントを報告します。
type=fans	ファンのイベントを報告します。
type=intrusion	シャーシイントルージョンのイベントを報告します。
type=log	ログのイベントを報告します。
type=memory	メモリのイベントを報告します。
type=powersupplies	電源装置のイベントを報告します。
type=redundancy	冗長性のイベントを報告します。
type=systempower	システム電源のイベントを報告します。
type=temps	温度のイベントを報告します。
type=removableflashmedia	リムーバブルフラッシュメディアのイベントを報告します。
type=volts	電圧のイベントを報告します。

イベントの種類のコマンド例

次のように入力します。

```
omreport system events type=fans
```

または

```
omreport servermodule events type=fans
```

次に出力例を示します。

現在の SNMP トラップの設定

```
-----  
システム  
-----
```

設定

有効にする： 情報、警告および重要

無効： なし

```
-----  
ファングループ  
-----
```

設定

有効にする： 情報、警告および重要

無効： なし

個々のオブジェクト

システム基板ファン 1 RPM 設定

インデックス :0

有効にする： 情報、警告、および重要

無効： なし

システム基板ファン 2 RPM 設定

インデックス :1

有効にする： 情報、警告、および重要

無効： なし

omreport system operatingsystem または omreport servermodule operatingsystem

omreport system operatingsystem または **omreport servermodule operatingsystem** コマンドを使用して、オペレーティングシステムの情報を表示します。

omreport system pedestinations または omreport servermodule pedestinations

omreport system pedestinations または **omreport servermodule pedestinations** コマンドを使用して、プラットフォームイベント向けに送信された警告の宛先を表示します。表示される送信先の数によっては、各送信先アドレスに個別の IP アドレスを設定してください。


次のように入力します。

```
omreport system pedestinations
```

または

```
omreport servermodule pedestinations
```

omreport system pedestinations または omreport servermodule pedestinations コマンドの出力では各有効なパラメータをリストします。

 **メモ** : コマンド間の整合性を維持するため、このコマンドの出力形式は変更されています。適宜、ユーザースクリプトを変更します。


 **メモ** : お使いのシステムで設定可能な実際の送信先の数は、異なる場合があります。表 3-8 に使用可能な設定を一覧表示します。

表 3-8. omreport system pedestinations または omreport servermodule pedestinations の設定


出力	属性	説明
送信先リスト		
	宛先番号 : 宛先 1	宛先 1 : 最初の宛先を表示します。 例 : 101.102.103.104 : 最初の宛先の IPv4 アドレスです。
	宛先番号 : 宛先 2	宛先 2 : 二番目の宛先を表示します。 例 : 110.120.130.140 : 二番目の宛先の IPv4 アドレスです。
	宛先番号 : 宛先 3	宛先 3 : 三番目の宛先を表示します。 例 : 201:202:203:204 : 三番目の宛先の IPv4 アドレスです。
	宛先番号 : 宛先 4	宛先 4 : 四番目の宛先を表示します。 例 : 210.211.212.213 : 四番目の宛先の IPv4 アドレスです。
	宛先番号 : 宛先 5	宛先 5 : 五番目の宛先を表示します。 例 : 2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334 : 五番目の宛先の IPv6 アドレスです。
	宛先番号 : 宛先 6	宛先 6 : 六番目の宛先を表示します。 例 : 2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334 : 六番目の宛先の IPv6 アドレスです。

表 3-8. **omreport system pedestinations** または **omreport servermodule pedestinations** の設定 (続き)

出力	属性	説明
	宛先番号: 宛先 7	宛先 7: 七番目の宛先を表示します。 例: 210.211.212.213: 七番目の宛先の IPv4 アドレスです。
	宛先番号: 宛先 8	宛先 8: 八番目の宛先を表示します。 210.211.212.213: 八番目の宛先の IPv4 アドレスです。
送信先設定	attribute= communitystring	communitystring: パスワードとして機能し、BMC と送信先管理ステーションの間で送信される SNMP メッセージを認証するのに使用されるテキストを設定します。 .

omreport system platformevents または **omreport servermodule platformevents**

omreport system platformevents または **omreport servermodule platformevents** コマンドを使用すると、リストの各プラットフォームイベントにシステムがどのように反応するかが表示されます。


 **メモ:** コマンド間の整合性を維持するため、このコマンドの出力形式は変更されています。適宜、ユーザースクリプトを変更します。

omreport system recovery または **omreport servermodule recovery**

omreport system recovery または **omreport servermodule recovery** コマンドを使用すると、オペレーティングシステムがハング状態になった場合の対応方法が設定されているかどうかを確認できます。また、オペレーティングシステムがハング状態であると判断される前に経過する必要がある時間 (秒) も表示します。

omreport system shutdown または **omreport servermodule shutdown**

omreport system shutdown または **omreport servermodule shutdown** コマンドを使用すると、システムで保留中のシャットダウン処理が表示されます。シャットダウンのプロパティ が設定されている場合は、このコマンドを実行するとプロパティが表示されます。

 **メモ:** 特定のオペレーティングシステム (例: VMware ESXi) の制限により、本リリースの OpenManage Server Administrator で一部の機能を利用できない場合があります。

omreport system summary または omreport servermodule summary

omreport system summary または **omreport servermodule summary** コマンドを使用すると、現在システムにインストールされているソフトウェアとハードウェアコンポーネントの包括的な概要が表示されます。

次のように入力します。

```
omreport system summary
```

または

```
omreport servermodule summary
```



メモ : vFlash または SD カードのサイズが 1 GB 未満の場合、サイズは MB 単位で表示されます。



メモ : iDRAC がインストールされていると、Server Administrator は LCC パージョンを表示します。BMC がインストールされていると、Server Administrator は USC パージョンを表示します。

CLI ウィンドウに表示される出力は、システムにインストールされているシステム管理ソフトウェア、オペレーティングシステム、およびハードウェアコンポーネントとオプションによって異なります。次の 部分的な コマンド結果は固有のもので、お使いのシステムのハードウェア構成とソフトウェア設定とは異なる場合があります。

システム概要

ソフトウェアプロファイル

システム管理

名前	: Dell OpenManage Server Administrator
バージョン	: x.x.x
説明	: Systems Management Software
内容	: Common Storage Module 4.x.x
	: Data Engine 7.x.x
	: Hardware Application Programming Interface 7.x.x
	: Instrumentation Service 7.x.x
	: Instrumentation Service Integration Layer 7.0.0

: OpenManage Inventory Collector 7.x.x
: Remote Access Controller Data
Populator 7.x.x
: Remote Access Controller Managed
Node 7.x.x
: Secure Port Server 7.x.x
: Server Administrator Common
Framework 7.x.x
: Server Administrator Core Files
7.x.x
: Storage Management 4.x.x
: Sun Java Runtime Environment 1.x.x

オペレーティングシ
テム

名前 : Microsoft Windows Server 2008 R2、
Enterprise x64 Edition

バージョン : Version 6.1 <Build 7600> <x64>
Server フルインストール

システム時刻 : 2XXX 年 5 月 20 日 (金) 18:02:52

システム起動時間 : 2XXX 年 5 月 18 日 (金) 18:37:58

システム

システム

ホスト名 : WIN-27C02UQFV6L

システムの場所 : 値を設定してください

LifeCycle Controller : 該当せず

メインシステムシャーシ

シャーシ情報

シャーシモデル : PowerEdge R720

シャーシサービスタグ : 7654321
エクスプレスサービス
コード : 15608862073
シャーシロック : 存在
シャーシ管理タグ : c

リモートアクセス情報

リモートアクセスデバイス : iDRAC7 Express
VFlash メディア : 不在

プロセッサ 1

プロセッサバンド : Genuine Intel (R) CPU @ 1.60GHz
プロセッサバージョン : Model 45 Stepping 2
電圧 : 1200 W

メモリ

インストール済み容量合計 : 2048 MB
OS の使用可能メモリ容量 : 2048 MB
最大容量 : 786432 MB
メモリアレイカウント : 1

メモリアレイ 1

場所 : システム基板またはマザーボード
用途 : システムメモリ
インストール済み容量 : 2048 MB
最大容量 : 786432 MB
使用できるスロット : 24
使用中のスロット : 1

スロット PCI1

アダプタ : [未使用]
タイプ : PCI E Gen 3 X16
データバス幅 : 8x または x8
速度 : : [未取得、カードのマニュアルを参照してください]
スロット長 : ロング
電圧供給 : 3.3 V

スロット PCI2

アダプタ : [未使用]
タイプ : PCI E Gen 3 X16
データバス幅 : 8x または x8
速度 : : [未取得、カードのマニュアルを参照してください]
スロット長 : ロング
電圧供給 : 3.3 V

BIOS 情報

メーカー : Dell Inc.
バージョン : 0.3.5
リリース日 : 2011 年 5 月 16 日

ファームウェア情報

名前 : iDRAC7
バージョン : 1.00

ネットワークデータ

ネットワークインタ
フェース 0

IP Address : 10.94.22.111
サブネットマスク : 255.255.254.0
デフォルトゲートウェイ : 10.94.22.111
MAC アドレス : 14-FE-B5-FF-AF-D0

ネットワークインタ
フェース 1

IP Address : [値なし]
MAC アドレス : 14-FE-B5-FF-AF-D1

ネットワークインタ
フェース 2

IP Address : [値なし]
MAC アドレス : 14-FE-B5-FF-AF-D2

ストレージエンクロージャ

ストレージエンクロー
ジャ

名前 : バックプレーン

システム概要ハードウェア情報には、システムに存在するインストール済みの次の種類のコンポーネントに関するデータ値が含まれます。

システムの属性

- ホスト名
- システムの場所
- LifeCycle Controller

メインシステムシャーシまたはメインシステム

シャーシ

- シャーシモデル
- シャーシサービスタグ
- エクスプレスサービスコード
- シャーシロック
- シャーシ管理タグ

リモートアクセス情報

- リモートアクセスデバイス
- VFlash メディア
- vFlash メディアサイズ

プロセッサ

システムの各プロセッサにつき、次の情報が一覧になります。

- プロセッサバンド
- プロセッサシリーズ
- プロセッサバージョン
- 現在の速度
- 最大速度
- 外部クロック速度
- 電圧

メモリ

- インストール済み容量合計
- オペレーティングシステムで使用可能なメモリ
- 最大容量
- メモリアレイカウント

メモリアレイ

システムの各メモリボードやモジュールについて、次の詳細が一覧になります（たとえば、指定のスロット 番号のシステムボードやメモリモジュール）。

- 場所
- 用途
- インストール済み容量
- 最大容量
- 使用できるスロット
- 使用中のスロット
- ECC タイプ

BIOS

- メーカー
- BIOS バージョン
- リリース日

ファームウェア

- 名前
- バージョン

ネットワークデータ

システムでチームインタフェースが設定されている場合、各 NIC およびチームインタフェースの下記の詳細が表示されます。

- IP アドレス
- サブネットマスク
- デフォルトゲートウェイ
- MAC アドレス

ストレージエンクロージャ

システムに接続されている各ストレージエンクロージャについて、次の詳細が一覧表示されます。

- 名前
- サービスタグ

omreport system thrmsshutdown または omreport servermodule thrmsshutdown

omreport system thrmsshutdown または **omreport servermodule thrmsshutdown** コマンドを使用すると、サーマルシャットダウン処置に対して設定されているプロパティを表示できます。

サーマルシャットダウンで表示される 3 つのプロパティには、**無効**、**警告**、**エラー**があります。CLI が次のメッセージを表示する場合、サーマルシャットダウン機能は無効になっています。

サーマル保護シャットダウン重大度： 無効

温度プローブが警告またはエラーイベントを検出したときにシャットダウンするようにシステムが設定されている場合は、次のどちらかのメッセージが表示されます。

サーマル保護シャットダウン重大度： 警告

サーマル保護シャットダウン重大度： エラー

omreport system version または omreport servermodule version

omreport system version または **omreport servermodule version** コマンドを使用すると、システムにインストールされている BIOS、ファームウェア、システム管理ソフトウェア、およびオペレーティングシステムのバージョン番号が表示されます。

コマンド出力例

次のように入力します。

```
omreport system version
```

または

```
omreport servermodule version
```



メモ：iDRAC がインストールされていると、Server Administrator は LCC バージョンを表示します。BMC がインストールされていると、Server Administrator は USC バージョンを表示します。

CLI ウィンドウに表示される出力は、システムにインストールされている BIOS、RAID コントローラ、およびファームウェアのバージョンによって異なります。次の 部分的な コマンド結果は固有のもので、お使いのシステムのハードウェア構成とソフトウェア設定とは異なる場合があります。

バージョンレポート

```
-----  
メインシステムシャーシ  
-----
```

名前 : BIOS
バージョン : 0.3.5

名前 : iDRAC7
バージョン : 1.00

ソフトウェア

名前 : Microsoft Windows Server 2008 R2、
Enterprise x64 Edition
バージョン : Version 6.1 <Build 7600> <x64> Server フ
ルインストール

名前 : Dell Server Administrator
バージョン : 7.x.x

ストレージコントローラファームウェア

名前 : PERC H310 Mini
バージョン : 20.10.1-0025

omreport preferences コマンド

Server Administrator ウェブサーバーの URL 情報を表示するには、**omreport preferences** コマンドを使用します。

表 3-9 に、使用可能な属性を一覧表示します。

表 3-9. omreport preferences webserver の属性

「名前 = 値」のペア	説明
attribute=geturl	ウェブサーバーの URL 情報を報告します。
attribute=getsigalgorithm	現在のキー署名アルゴリズムを報告します。

計装サービスを使った omconfig: コンポーネントの管理

omconfig コマンドを使用すると、警告イベントの定義、警告操作の設定、ログのクリアのほか、システムシャットダウンの設定に使用する値の入力や、その他のシステム管理タスクを実行できます。

omconfig 機能の例には、次が含まれます。

- コマンド、警告、ハードウェアログをクリアするシステム管理者権限
- システムシャットダウンを設定して実行するシステム管理者権限
- ファン、電圧プローブ、温度プローブの警告イベントの値を指定するパワーユーザーおよびシステム管理者権限
- イントルージョン、ファン、電圧プローブおよび温度プローブで警告または障害イベントが発生した場合の警告アクションを設定する、パワーユーザーおよびシステム管理者権限

omconfig コマンドを使った所有コスト情報 (**assetinfo**) の表示と管理方法については、161 ページの「**omconfig** システムまたは **servermodule assetinfo**: 所有コスト (Cost of Ownership) の編集」を参照してください。

omreport コマンドの実行に必要な情報を取得するために、**omreport** コマンドを使用する必要がある場合がよくあります。例えば、温度プローブの警告イベントの最低温度を編集するには、プローブのインデックスを把握しておく必要があります。プローブのリストとそのインデックスを表示するには、**omreport chassis temps** または **omreport mainsystem temp** コマンドを使用します。**omreport** コマンドの使用方法については、25 ページの「**omreport**: 計装サービスを使用したシステム状態の表示」を参照してください。

表 4-1. **omconfig** コマンドのシステム可用性

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	該当アプリケーション
omconfig	servermodule	ブレードシステム
	mainsystem	ブレードシステム
	system	ラック型システムとタワー型システム
	chassis	ラック型システムとタワー型システム

パラメーター表の規則

コマンドに使うことができるパラメータを一覧表示する場合、パラメータはコマンドラインインタフェース（CLI）に表示される順ではなくアルファベット順にリストされます。

記号「|」はパイプと呼ばれることがあり、排他的論理和または演算子を表します。例えば、「有効 | 無効」はコンポーネントや機能を有効または無効にできますが、それらを同時に有効と無効にすることはできません。

omconfig コマンドの概要



メモ：本項では使用可能なすべての **omconfig** コマンドを一覧表示しますが、システムで使用できるコマンドはシステム構成によって異なります。システムにインストールされていないコンポーネントのヘルプを表示したり、コマンドを実行すると、Server Administrator はコンポーネントまたは機能がシステムで見つからないというメッセージを表示します。

表 4-2 は **omconfig** コマンドの高レベルな概要です。コマンドレベル 2 および コマンドレベル 3 とタイトルが付いた欄には **omconfig** で使用できる主な引数が一覧表示されます。必要なユーザー特権 とは、コマンドを実行するのに必要な特権の種類を表し、U= ユーザー、P= パワーユーザー、A= アドミニストレータを表します。用途 は **omconfig** を使用して実行される操作についての一般的な説明です。**omconfig** コマンドの構文と使い方の詳細については、本項で後述します。

表 4-2. **omdiag** コマンドレベル 1、2、および 3

コマンド レベル 1	コマンド レベル 2	コマンドレベル 3	ユーザー 権限 必須	用途
omconfig				
	about		U、P、A	Server Administrator プログラムのバージョン 番号とプロパティを表示 します。
		details=true	U、P、A	インストールされている 全ての Server Administrator プログラ ムの情報を表示します。
	preferences			
		cdvformat	A	カスタムデミリトフォー マット (cdv) のデータ フィールドで分けるデミ リタを指示します。

表 4-2. omdiaag コマンドレベル1、2、および3 (続き)

コマンド レベル1	コマンド レベル2	コマンドレベル3	ユーザー 権限 必須	用途
		dirservice	A	Microsoft Active Directory サービスを設定します。
		snmp	A	新しい SNMP ルートパスワードを設定します。 SNMP Set 操作を設定します。
		useraccess	A	システム管理者レベルの下にいるユーザーが Server Administrator を使用できるかどうかを指定します。
		webserver	A	システム管理者は、 Server Administrator ウェブサーバー環境において、ウェブサーバーの暗号化レベルおよび URL の起動ポイントを設定できます。
	system または servermodule	alertaction	P、A	イントルージョン、ファン、温度、電圧、電源装置、メモリ、および冗長の警告またはエラーイベントのために実行される処置を事前に決定します。
		alertlog	P、A	システム管理者が警告ログを表示できます。
		assetinfo	P、A	減価償却値、リース、メンテナンス、サービス、およびサポートを含むシステムの所有コスト情報を入力および編集します。
		cmdlog	P、A	システム管理者が警告ログを表示できます。

表 4-2. omdiaag コマンドレベル 1、2、および 3 (続き)

コマンド レベル 1	コマンド レベル 2	コマンドレベル 3	ユーザー 権限 必須	用途
		esmlog	P、A	システム管理者が ESM ログを表示できます。
		events	P、A	SNMP トラップを有効または無効にします。
		pedestinations	P、A	警告送信先の IP アドレスを設定します。
		platformevents	A	特定のプラットフォームイベントで行うシャットダウン操作があれば指定します。また、プラットフォームイベントのフィルタ警告生成を有効にしたり無効にします。
		recovery	P、A	システムがハング状態にあるオペレーティングシステムにどう対応するかを事前に決定します。
		shutdown	A	システムをシャットダウンする場合に、システム管理者がいくつかのオプションから選択できるようにします。
		thrmshutdown	A	温度イベントがシステムシャットダウンをトリガする重大度レベルを設定します。
		webserver	A	ウェブサーバーを開始または停止します。
	chassis または mainsystem	biossetup	A	BIOS が管理する特定のシステム部品の動作を設定します。

表 4-2. omdiaag コマンドレベル1、2、および3 (続き)

コマンド レベル1	コマンド レベル2	コマンドレベル3	ユーザー 権限 必須	用途
		fans	P、A	ファンフロー警告しきい値をデフォルトで、または値を指定して設定します。 メモ: 組み込み型サーバー管理 (ESM3) および Dell PowerEdge x8xx システムでは、しきい値を変更することはできません。
		frontpanel	A	システムの電源ボタン、非マスク割り込み (NMI) ボタン、暗号化アクセス、および LCD 表示を設定します。
		info	P、A	Asset tag やシャーシ名の初期値を設定したり、値を編集したりできます。
		leds	P、A	シャーシ障害 LED やシャーシ識別 LED の点滅時を指定して、システムハードディスクドライブの LED をクリアできるようにします。
		memorymode	A	スペアバンク、ミラーリング RAID、および DDDC (Double Device Data Correction) メモリモードを有効化または無効化し、また、どのモードを使用するかも指定します。
		pwrmanagement	P、A	システムの最小電力での最大パフォーマンスまたはパフォーマンス最適化のどちらかを選択できます。
		pwrmonitoring	P、A	電源消費情報としきい値を設定します。

表 4-2. omdiaq コマンドレベル 1、2、および 3 (続き)

コマンド レベル 1	コマンド レベル 2	コマンドレベル 3	ユーザー 権限 必須	用途
		remoteaccess	A	リモートアクセス情報を設定します。
		temps	P、A	警告しきい値の値をデフォルトまたは特定の値に設定します。 メモ: ESM3 および PowerEdge x8xx システムでは、しきい値を変更することはできません。
		volts	P、A	警告しきい値の値をデフォルトまたは特定の値に設定します。 メモ: ESM3 および PowerEdge x8xx システムでは、しきい値を変更することはできません。
	storage			177 ページの「ストレージ管理サービスの使い方」を参照してください。

omconfig コマンドのヘルプ

omconfig -? を使って、**omconfig** に使用できるコマンドの一覧を入手します。

omconfig <コマンドレベル 2>-? を使ってバージョン番号、シャーシ、プリファランスおよびシステムレベル 2 のコマンドについてのヘルプを提供できます。

omconfig system -? に関する次の情報は、**omconfig chassis** コマンドのヘルプにも同様に適用できます。

omconfig system -? を使って、**omconfig system** に使用できるコマンドの一覧を入手します。

omconfig preferences -? を使って、カスタム区切りフォーマット (cdv) である **cdvformat** のような、**omconfig preferences** に使用できるコマンドリストを取得できます。cdv 用のデリミタリストを表示するには、次のコマンドを入力します。

```
omconfig preferences cdvformat -?
```

omconfig system <コマンドレベル 3> **-?** の形式のコマンドを使って、特定の **omconfig system** コマンドの実行に必要なパラメータを一覧表示します。たとえば、次のコマンドを使って **omconfig system alertaction** と **omconfig system shutdown** に有効なパラメータの一覧を生成します。

```
omconfig system alertaction -?
```

```
omconfig system shutdown -?
```

omconfig system alertaction コマンドの場合、読む前に CLI ヘルプがスクロールしてしまうのを防ぐため、様々なオプションを使用できます。

コマンド出力を 1 画面ごとにスクロールするには、次のように入力します。

```
omconfig system alertaction -? | more
```

上の例では、「| **more**」があるため、スペースバーを押して CLI ヘルプ出力の次の画面を表示できます。

omconfig system alertaction -? コマンドの全ヘルプを含むファイルを作成するには、次のように入力します。

```
omconfig system alertaction -?-outa alert.txt
```

ここでの **-outa** によって **alert.txt** と呼ばれるファイルにコマンドの出力を向けます。

Microsoft Windows、Red Hat Enterprise Linux、または SUSE LINUX Enterprise Server のオペレーティングシステム上で **alertaction** コマンドについてのヘルプを読むには、次のように入力します。

```
more alert.txt
```

omconfig about

omconfig about コマンドを使用して、システムにインストールされているシステム管理アプリケーションの製品名とバージョン番号を確認します。次に **omconfig about** コマンドからの出力を例示します。

```
製品名           : Dell OpenManage Server Administrator
バージョン       : 7.x.x
著作権           (C) xxxx-xxxx すべての著作権は Dell Inc. にあり
                  ます。
会社名           : Dell Inc.
```

Server Administrator 環境に関する詳細については、次のように入力します。

```
omconfig about details=true
```

Server Administrator には多くのサービスが含まれており、それぞれ独自のバージョン番号があります。**内容** フィールドにはサービスのバージョン番号にあわせてその他の有用な詳細情報が報告されます。次に **omconfig about** コマンドからの出力を例示します。出力内容は、システムの構成および Server Administrator のバージョンに応じて変わる場合があります。

```
内容 :      Broadcom SNMP Agent 10.xx.xx
           Common Storage Module 3.x.x
           Data Engine 5.x.x
           Hardware Application Programming Interface
           5.x.x
           Instrumentation Service 6.x.x
           Instrumentation Service Integration Layer 1.x.x
           Intel SNMP Agent 1.xx.x
           OpenManage Inventory Collector 6.x.x
           OpenManage Tools 6.x.x
           Remote Access Controller 4 Data Populator 4.x.x
           Remote Access Controller 4 Managed Node 4.6.3
           Secure Port Server 1.x.x
           Server Administrator Framework 6.x.x
           Agent for Remote Access 1.x.x
           Storage Management 3.x.x
           Sun Java Runtime Environment 1.x.xx
```

omconfig chassis または omconfig mainsystem


omconfig chassis または **omconfig mainsystem** コマンドを使用して次を行います。


- ファン、電圧、および温度プローブをデフォルトに設定するか、それらに特定の値を割り当てる
- システム起動中の BIOS の動作を設定する
- メモリエラー数をクリアする
- システム構成により可能であれば、電源ボタンコントロール機能を有効または無効にする


omconfig chassis -? または **omconfig mainsystem -?** コマンドを使用して、すべての **omconfig chassis** または **omconfig mainsystem** コマンドのリストを表示します。

omconfig chassis biossetup または omconfig mainsystem biossetup

omconfig chassis biossetup または **omconfig mainsystem biossetup** コマンドを使用して、通常はシステムの BIOS セットアップ起動時間設定のみで実行可能なシステム BIOS 設定を行います。

 **注意:** 特定の BIOS 設定オプションを変更すると、システムが使用不能になったり、オペレーティングシステムの再インストールが必要になる場合があります。

 **メモ:** BIOS セットアップ オプションを有効にするためには、システムを再起動します。

 **メモ:** 各システムで全ての BIOS 設定オプションが使用できるわけではありません。


 **メモ:** 特定のオペレーティングシステム（例：VMware ESXi）の制限により、本リリースの OpenManage Server Administrator で一部の機能を利用できない場合があります。

表 4-3 には、PowerEdge yx2x システム以前のシステムにおいて、このコマンドと共に使用できる「名前 = 値」のペアが一覧表示されています。

表 4-3. PowerEdge yx2x システム以前のシステムでの BIOS セットアップ設定

「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=	説明
attribute= acpwrrecovery	setting=off last on	off: システムはオフになっています。 last: システムは以前の状態に戻ります。 on: システムがオンになっています。

表 4-3. PowerEdge *yx2x* システム以前のシステムでの BIOS セットアップ設定 (続き)

「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=	説明
	delay=random immediate timedelay time < 値 >	<p>random: ランダムな遅延時間でシステムの電源を入れます。</p> <p>immediate: システムを即時前の状態に戻します。</p> <p>timedelay < 値 >: ユーザー指定の遅延時間に基づいてシステムの電源を入れます。</p>
attribute=bezel	setting=enabled disabled	<p>enabled: システム起動中のベゼル取り外しインテリジェントチェックを有効にします。</p> <p>disabled: システム起動中のベゼル取り外しインテリジェントチェックを無効にします。</p>
attribute=bootsequence	setting=diskettefirst hdonly devicelist cdromfirst opticaldrive	<p>BIOS にシステムを起動するデバイスと、起動ルーチンが各デバイスをチェックする順序を指示します。</p> <p>メモ: Linux システムにおいて、システム管理者 / システム管理者グループにアップグレードされたユーザー / ユーザーグループは、この BIOS 設定を設定できません。</p>
attribute=bootmode	setting=uefi bios	<p>uefi: システムが UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) をサポートするオペレーティングシステムを起動できるようにします。</p> <p>bios: システムが UEFI をサポートしないオペレーティングシステムを起動できるようにします。</p>
attribute=bootorder	sequence=aliasname1, aliasname2,.....aliasnameN	<p>設定されたエイリアス名に基づいて、起動順序を設定します。エイリアス名を表示するには、<code>omreport chassis biossetup attribute=bootorder</code> のコマンドを実行します。</p> <p>メモ: Linux システムにおいて、システム管理者 / システム管理者グループにアップグレードされたユーザー / ユーザーグループは、この BIOS 設定を設定できません。</p>

表 4-3. PowerEdge *yx2x* システム以前のシステムでの BIOS セットアップ設定 (続き)

「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=	説明
attribute= hddorder	sequence= aliasname1, aliasname2,.....aliasn ameN	<p>設定されエイリアス名に基づいて、BIOS 設定のハードディスク順序を設定します。変更はシステムの再起動後に有効になります。エイリアス名を表示するには、<code>omreport chassis biossetup attribute=bootorder</code> のコマンドを実行します。</p> <p>メモ : Linux システムにおいて、システム管理者 / システム管理者グループにアップグレードされたユーザー / ユーザーグループは、この BIOS 設定を設定できません。</p>
attribute=cstates	setting=enabled disabled	<p>enabled : システムが使用されていない時に、プロセッサがディープスリープ状態になることを有効にします。</p> <p>disabled : システムが使用されていない時に、プロセッサがディープスリープ状態になることを無効にします。</p>
attribute= conredirect	setting=enabled disabled	<p>enabled : シリアルポート 1 を介して BIOS 画面をリダイレクトします。キーボードとテキスト出力はシリアルポート 2 を介してリダイレクトされます。</p> <p>disabled : BIOS コンソールのリダイレクトをオフにします。</p>
attribute=crab	setting=enabled disabled	<p>enabled : システム再起動後に BIOS コンソールリダイレクトを有効にします。</p> <p>disabled : BIOS コンソールリダイレクトを無効にします。</p> <p>メモ : <code>crab</code> 属性は、Dell PowerEdge <i>x9xx</i> システムでのみ有効です。</p>
attribute=cpuc1e	setting=enabled disabled	<p>enabled : システム再起動後にプロセッサ C1-E を有効にします。</p> <p>disabled : システム再起動後にプロセッサ C1-E を無効にします。</p>
attribute=cpuht	setting=enabled disabled	<p>enabled : 論理プロセッサのハイパースレッディングを有効にします。</p> <p>disabled : 論理プロセッサのハイパースレッディングを無効にします。</p>

表 4-3. PowerEdge *yx2x* システム以前のシステムでの BIOS セットアップ設定 (続き)

「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=	説明
attribute=cpuvt	setting=enabled disabled	enabled : 仮想化を有効にします。 disabled : 仮想化を無効にします。
attribute=cpxudsupport	setting=enabled disabled	enabled : システム上で XD (Execute Disable) サポートを有効にします。 disabled : システム上で XD サポートを無効にします。
attribute=cpucore	setting=1 2 4 6 8 10 12 all	1 : プロセッサごとに 1 コアを有効にします。 2 : プロセッサごとに 2 コアを有効にします。 4 : プロセッサごとに 4 コアを有効にします。 6 : プロセッサごとに 6 コアを有効にします。 8 : プロセッサごとに 8 コアを有効にします。 10 : プロセッサごとに 10 コアを有効にします。 12 : プロセッサごとに 12 コアを有効にします。 all : プロセッサごとに最大コア数を有効にします。
attribute=dbs	setting=enable disable	enable : システム上で DBS (Demand Based Switching) を有効にします。 disable : システム上で DBS を無効にします。
attribute=diskette	setting=off auto writeprotect	off : ディスケットドライブを無効にします。 auto : 自動的にディスクドライブを有効にします。 writeprotect : ディスクドライブは、読み取り専用フォーマットのみで使用可能です。ディスクドライブを読み取り専用にします。

表 4-3. PowerEdge *yx2x* システム以前のシステムでの BIOS セットアップ設定 (続き)

「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=	説明
attribute=dualnic	setting=off on pxebboth nic1pxe nic2pxe isciboth nic1isci nic2isci nic1pxenic2isci nic1iscinic2pxe onpxebboth onpxenone onpxenic1 onpxenic2	<p>off : ネットワークインタフェースコントローラ (NIC) を無効にします。</p> <p>on : ネットワークインタフェースを有効にします (PXE と iSCSI はどちらの NIC でも有効にしません)。</p> <p>pxebboth : 両方の NIC で PXE を有効にします。</p> <p>nic1pxe : 最初の NIC で PXE を有効にし、2 つ目の NIC では何も (PXE も iSCSI もなし) 有効にしません。</p> <p>nic2pxe : 最初の NIC では何も (PXE も iSCSI もなし) 有効にせず、2 つ目の NIC で PXE を有効にします。</p> <p>isciboth : 両方の NIC で iSCSI を有効にします。</p> <p>nic1pxe : 最初の NIC で iSCSI を有効にし、2 つ目の NIC では何も (PXE も iSCSI もなし) 有効にしません。</p> <p>nic2isci : 最初の NIC では何も (PXE も iSCSI もなし) 有効にせず、2 つ目の NIC で iSCSI を有効にします。</p> <p>nic1pxenic2isci : 最初の NIC で PXE を有効にし、2 つ目の NIC で iSCSI を有効にします。</p> <p>nic1iscinic2pxe : 最初の NIC で iSCSI を有効にし、2 つ目の NIC で PXE を有効にします。</p> <p>メモ : 次のオプションは廃止予定です。</p> <p>onpxebboth : 両方の NIC で PXE を有効にします。</p> <p>onpxenone : PXE はいずれの NIC でも使用できません。</p> <p>onpxenic1 : NIC 1 で PXE を有効にします。</p> <p>onpxenic2 : NIC 2 で PXE を有効にします。</p>

表 4-3. PowerEdge *yx2x* システム以前のシステムでの BIOS セットアップ設定 (続き)

「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=	説明
attribute= embhypsvisor	setting=enabled disabled	enabled : 内蔵されたハイパーバイザを有効にします。 disabled : 内蔵されたハイパーバイザを無効にします。
attribute= embvideoctrl	setting=enabled disabled	enabled : 内蔵ビデオコントローラをプライマリビデオデバイスとして有効にします。 disabled : 内蔵ビデオコントローラをプライマリビデオデバイスとしての設定を無効にします。
attribute= esataport	setting=off auto	off : 内蔵 SATA ポート値を オフ に設定します。 auto : 内蔵 SATA ポート値を 自動 に設定します。
attribute=extserial	setting=com1 com2 rad	com1 : 外付けのシリアルコネクタを COM 1 にマップします。 com2 : 外付けのシリアルコネクタを COM 2 にマップします。 rad : 外部シリアルコネクタをリモートアクセスドライブにマップします。
attribute=fbr	setting=9600 19200 57600 115200	9600 : コンソールリダイレクトのフェイルセーフ ボーレートを 9600 bps に設定します。 19200 : コンソールリダイレクトのフェイルセーフ ボーレートを 19200 bps に設定します。 57600 : コンソールリダイレクトのフェイルセーフ ボーレートを 57600 bps に設定します。 115200 : コンソールリダイレクトのフェイルセーフ ボーレートを 115200 bps に設定します。

表 4-3. PowerEdge *yx2x* システム以前のシステムでの BIOS セットアップ設定 (続き)

「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=	説明
attribute=htassist	setting=enabled disabled	<p>enabled : プロブフィルタチップセットのオプションを有効にします。</p> <p>disabled : プロブフィルタチップセットのオプションを無効にします。</p> <p>メモ : このオプションを有効または無効にすると、一部のアプリケーションでの動作が完全ではなくなります。</p>
attribute=ide	setting=on off force=true	<p>on : IDE を有効にします。</p> <p>off : IDE を無効にします。</p> <p>force=true : 設定変更の確認。</p>
attribute=ideprdrv	setting=off auto	<p>off : デバイスを有効にします。</p> <p>auto : 自動的にデバイスを検出して有効にします。</p>
attribute=intrusion	setting=enabled disabled	<p>enabled : システム起動中にイントルージョンチェックを有効にします。システムにもベゼルイントルージョンチェック機能がある場合、このイントルージョンオプションはシステムのベゼルの取り外しをチェックします。</p> <p>disabled : システム起動中にイントルージョンチェックを無効にします。</p>
attribute=intusb[1..2] メモ : オプションの attribute=intusb は廃止されました。	setting=enabled disabled	<p>enabled : 内蔵 USB ポートを有効にします。</p> <p>disabled : 内蔵 USB ポートを無効にします。</p>
attribute=mouse	setting=on off	<p>on : マウスを有効にします。</p> <p>off : マウスを無効にします。</p>

表 4-3. PowerEdge *yx2x* システム以前のシステムでの BIOS セットアップ設定 (続き)

「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=	説明
attribute=nic1	setting=enabled enabledwithpxe disabled enabledonly enablednonepxe enabledwithscsi	<p>enabled : システム起動中に最初の NIC を有効にします。</p> <p>enabledwithpxe : システム起動中に最初の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします)。</p> <p>disabled : システム 起動中に最初の NIC を無効にします。</p> <p>enabledonly : システム起動中に最初の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします)。</p> <p>enablednonepxe : システム起動中に最初の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします)。</p> <p>enabledwithscsi : システム起動中に最初の NIC を有効にします (システムに iSCSI がある場合は iSCSI をオンの状態にします)。</p>

表 4-3. PowerEdge *px2x* システム以前のシステムでの BIOS セットアップ設定 (続き)

「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=	説明
attribute=nic2	setting=enabled enabledwithpxe disabled enabledonly enablednonepxe enabledwithiscsi	<p>enabled : システムを起動中に二番目の NIC を有効にします。</p> <p>enabledwithpxe : システム起動中に二番目の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします)。</p> <p>disabled : システム起動中に二番目の NIC を無効にします。</p> <p>enabledonly : システム起動中に二番目の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします)。</p> <p>enablednonepxe : システム起動中に二番目の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします)。</p> <p>enabledwithiscsi : システム起動中に二番目の NIC を有効にします (システムに iSCSI がある場合は iSCSI をオンの状態にします)。</p>

表 4-3. PowerEdge *yx2x* システム以前のシステムでの BIOS セットアップ設定 (続き)

「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=	説明
attribute=nic3	setting=enabled enabledwithpxe disabled enabledonly enablednonepxe enabledwithiscsi	<p>enabled : システム起動中に三番目の NIC を有効にします。</p> <p>enabledwithpxe : システム起動中に三番目の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします)。</p> <p>disabled : システム 起動中に三番目の NIC を無効にします。</p> <p>enabledonly : システム起動中に三番目の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします)。</p> <p>enablednonepxe : システム起動中に三番目の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします)。</p> <p>enabledwithiscsi : システム起動中に三番目の NIC を有効にします (システムに iSCSI がある場合は iSCSI をオンの状態にします)。</p>

表 4-3. PowerEdge *yx2x* システム以前のシステムでの BIOS セットアップ設定 (続き)

「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=	説明
attribute=nic4	setting=enabled enabledwithpxe disabled enabledonly enablednonepxe enabledwithiscsi	<p>enabled : システム起動中に四番目の NIC を有効にします。</p> <p>enabledwithpxe : システム起動中に四番目の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします)。</p> <p>disabled : システム 起動中に四番目の NIC を無効にします。</p> <p>enabledonly : システム起動中に四番目の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします)。</p> <p>enablednonepxe : システム起動中に四番目の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします)。</p> <p>enabledwithiscsi : システム起動中に四番目の NIC を有効にします (システムに iSCSI がある場合は iSCSI をオンの状態にします)。</p>
attribute=numlock	setting=on off	<p>on : キーパッドは番号のキーとして使用します。</p> <p>off : キーパッドは矢印キーとして使用します。</p>
attribute=numa	setting=enabled disabled	<p>enabled : ノードのインターリーブを有効にします。</p> <p>disabled : ノードのインターリーブを無効にします。</p>
attribute=ppaddress	setting=off lpt1 lpt2 lpt3	<p>off : パラレルポートアドレスを有効にします。</p> <p>lpt1 : LPT1 のデバイスを検出します。</p> <p>lpt2 : LPT2 のデバイスを検出します。</p> <p>lpt3 : LPT3 のデバイスを検出します。</p>

表 4-3. PowerEdge *yx2x* システム以前のシステムでの BIOS セットアップ設定 (続き)

「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=	説明
attribute=ppmode	setting=at ps2 ecp epp	<p>at : パラレルポートのモードを AT に設定します。</p> <p>ps2 : パラレルポートのモードを PS/2 に設定します。</p> <p>ecp : パラレルポートモードを ECP (拡張機能ポート) に設定します。</p> <p>epp : パラレルポートモードを EPP (強化パラレルポート) に設定します。</p>
attribute= primaryscsi	setting=on off force=true	<p>注意 : <i>primary scsi</i>, <i>romb</i>, <i>romba</i>, または <i>rombb</i> の設定を変更すると、システムはオペレーティングシステムを再インストールするまで操作不能となります。</p> <p>on : プライマリ SCSI を有効にします。</p> <p>off : プライマリ SCSI を無効にします。</p> <p>force=true : 設定変更の確認。</p>
attribute=romb	setting=raid off scsi force=true	<p>raid : BIOS に RAID-on-motherboard を RAID として検出するように指示します。</p> <p>off : システム起動中の RAID-on-motherboard を無効にします。</p> <p>scsi : BIOS に、RAID-on-motherboard デバイスを SCSI デバイスとして検出するよう指示します。</p> <p>force=true : 設定変更の確認。</p>
attribute=romba	setting=raid scsi force=true	<p>raid : BIOS に RAID-on-motherboard チャンネル A を RAID デバイスとして検出するように指示します。</p> <p>scsi : BIOS に RAID-on-motherboard デバイスを SCSI デバイスとして検出するよう指示します。</p> <p>force=true : 設定変更の確認。</p>

表 4-3. PowerEdge *yx2x* システム以前のシステムでの BIOS セットアップ設定 (続き)

「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=	説明
attribute=rombb	setting=raid scsi force=true	<p>raid : BIOS に RAID-on-motherboard チャンネル B を RAID デバイスとして検出するように指示します。</p> <p>scsi: BIOS に、RAID-on-motherboard デバイスを SCSI デバイスとして検出するよう指示します。</p> <p>force=true: 設定変更の確認。</p>
attribute=sata	setting=off ata raid	<p>off : SATA コントローラを無効にします。</p> <p>ata : オンボード SATA コントローラを ATA モードに設定します。</p> <p>raid : オンボード SATA コントローラを RAID モードに設定します。</p>
attribute=sataport (0...7) または (a...h)	setting=off auto	<p>off : SATA ポートを無効にします。</p> <p>auto : SATA ポートを自動的に有効にします。</p>
attribute= secondaryscsi	setting=on off	<p>on : セカンダリ SCSI を有効にします。</p> <p>off : セカンダリ SCSI を無効にします。</p>
attribute= serialportaddr	setting=default alternate com1 com2	<p>default: シリアルデバイス 1 を COM ポート 1 に、シリアルデバイス 2 を COM ポート 2 にマップします。</p> <p>alternate: シリアルデバイス 1 を COM ポート 2 に、シリアルデバイス 2 を COM ポート 1 にマップします。</p> <p>com1 : シリアルポートアドレスを COM1 に設定します。</p> <p>com2 : シリアルポートアドレスを COM2 に設定します。</p>

表 4-3. PowerEdge *yx2x* システム以前のシステムでの BIOS セットアップ設定 (続き)

「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=	説明
attribute= serialcom	setting=off on com1 com2 onwithconsole	<p>off : シリアル通信設定を無効にします。</p> <p>on : コンソールリダイレクトのないシリアル通信設定を有効にします。</p> <p>com1 : COM1 を介したのコンソールリダイレクトでのシリアル通信設定を有効にします。</p> <p>com2 : COM2 を介したのコンソールリダイレクトでのシリアル通信設定を有効にします。</p> <p>onwithconsole : COM1 および COM2 を介したコンソールリダイレクトでのシリアル通信設定を有効にします。</p>
attribute= serialport1	setting=off auto com1 com3 bmcserial bmcnic rac com1bmc	<p>off : シリアルポート 1 を無効にします。</p> <p>auto : シリアルポート 1 を COM ポートにマッピングします。</p> <p>com1 : シリアルポート 1 を COM ポート 1 bmc にマッピングします。</p> <p>com3 : シリアルポート 1 を COM ポート 3 bmc にマッピングします。</p> <p>bmcserial : シリアルポート 1 を BMC シリアルにマッピングします。</p> <p>bmcnic : シリアルポート 1 を Baseboard Management Controller (BMC) NIC にマッピングします。</p> <p>rac : シリアルポート 1 を Remote Access Controller (RAC) にマッピングします。</p> <p>com1 : シリアルポート 1 を COM ポート 1 bmc にマッピングします。</p> <p>メモ : このコマンドは特定の <i>x8xx</i> システムでのみ適用可能です。</p>

表 4-3. PowerEdge *yx2x* システム以前のシステムでの BIOS セットアップ設定 (続き)

「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=	説明
attribute= serialport2	setting=off auto com2 com4	<p>off : シリアルポート 2 を無効にします。</p> <p>auto : シリアルポート 1 を COM ポートにマッピングします。</p> <p>com2 : シリアルポート 2 を COM ポート 2 bmc にマッピングします。</p> <p>com4 : シリアルポート 2 を COM ポート 4 bmc にマッピングします。</p>
attribute=speaker	setting=on off	<p>on : スピーカーを有効にします。</p> <p>off : スピーカーを無効にします。</p>
attribute= cputurbomode	setting=enabled disabled	<p>CPU ターボモードは、システムが温度、電力、または電流許容範囲内で稼働しているときに CPU の周波数を増やすことができます。</p> <p>enabled : CPU ターボモードを有効にします。</p> <p>disabled : CPU ターボモードを無効にします。</p>
attribute=uasb	setting=on backonly off	<p>on : ユーザーアクセスが可能な USB ポートを有効にします。</p> <p>backonly : システムの背面にあるユーザーアクセスが可能な USB ポートのみを有効にします。</p> <p>off : ユーザーアクセスが可能な USB ポートを無効にします。</p>
attribute=usb	setting=enabled disabled	<p>enabled : USB ポートを有効にします。</p> <p>disabled : USB ポートを無効にします。</p> <p>メモ : お使いのシステムハードウェアによっては、usb または usbb のいずれかを設定できます。</p>

表 4-3. PowerEdge yx2x システム以前のシステムでの BIOS セットアップ設定 (続き)

「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=	説明
attribute=usb	setting=enabled enabledwithbios disabled	<p>enabled : システム起動中に USB ポートを有効にします (BIOS サポートなし)。</p> <p>enabledwithbios : システム起動中に USB ポートを有効にします (BIOS サポートあり)。</p> <p>disabled : システム起動中に USB ポートを無効にします。</p> <p>メモ : お使いのシステムハードウェアによっては、usb または usb のいずれかを設定できます。</p>
attribute=cstates	setting=enabled disabled	<p>enabled : システムが使用されていない時に、プロセッサがディープスリープ状態になることを有効にします。</p> <p>disabled : システムが使用されていない時に、プロセッサがディープスリープ状態になることを無効にします。</p>

表 4-4 は、PowerEdge yx2x システムでサポートされている BIOS セットアップ属性を表示しています。PowerEdge yx2x システムでは、属性がグループ化されています。ハードウェア構成に基づき、可能な属性は特定のグループ内で異なる場合があります。**omconfig chassis biossetup** コマンドは、読み取り専用属性を表示しません。



メモ : セットアップパスワードが設定済みである場合、BIOS 設定を行うときは常に同じパスワードを設定してください。

表 4-4. PowerEdge yx2x システムでの BIOS セットアップの設定

グループ	「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=
BIOS 起動設定	attribute=BootSeq	sequence=aliasname1, aliasname2,.....aliasnameN
	attribute=HddSeq	sequence=aliasname1, aliasname2,.....aliasnameN
起動設定	attribute=BootMode	setting=Bios Uefi
	attribute=BootSeqRetry	setting=Enabled Disabled

表 4-4. PowerEdge yx2x システムでの BIOS セットアップの設定 (続き)

グループ	「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=
内蔵サーバー管理	attribute=FrontLcd	setting=None UserDefined ModelNum Advanced
	attribute=UserLcdStr	setting=< 文字列 >
内蔵デバイス	attribute=EmbVideo	setting=Enabled Disabled
	attribute=IntegratedNetwork1	setting=Enabled DisabledOs
	attribute=IntegratedNetwork2	setting=Enabled DisabledOs
	attribute=IntegratedRaid	setting=Enabled Disabled
	attribute=IntegratedSas	setting=Enabled Disabled
	attribute=InternalSdCard	setting=On Off
	attribute=InternalSdCard 冗長性	setting=Mirror Disabled
	attribute=InternalUsb	setting=On Off
	attribute=InternalUsb1	setting=On Off
	attribute=InternalUsb2	setting=On Off
	attribute=IoatEngine	setting=Enabled Disabled
	attribute=OsWatchdogTimer	setting=Enabled Disabled
	attribute=SriovGlobalEnable	setting=Enabled Disabled
attribute=UsbPorts	setting=AllOn OnlyBackPortsOn AllOff	
メモリ設定	attribute=MemOpMode	setting=OptimizerMode SpareMode MirrorMode AdvEccMode SpareWithAdvEccMode
	attribute=MemOpVoltage	setting=AutoVolt Volt15V AllOff メモ : Volt15V は 1.5 ボルトを示しています。
	attribute=MemTest	setting=Enabled Disabled

表 4-4. PowerEdge yx2x システムでの BIOS セットアップの設定 (続き)

グループ	「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=
内蔵デバイス (続き)	attribute=NodeInterleave	setting=Enabled Disabled
	attribute=SerialDbgOut	setting=Enabled Disabled
	attribute=SysMemSize	setting=< 文字列 >
	attribute=SysMemSpeed	setting=< 文字列 >
	attribute=SysMemType	setting=< 文字列 >
	attribute=SysMemVolt	setting=< 文字列 >
	attribute=VideoMem	setting=< 文字列 >
その他の設定	attribute=AssetTag	setting=< 文字列 >
	attribute=Characterization	setting=Enabled Disabled
	attribute=ErrPrompt	setting=Enabled Disabled
	attribute=NumLock	setting=On Off
	attribute=ReportKbdErr	setting=Report NoReport
	attribute=SystemUefiShell	setting=Enabled Disabled
一回限りの起動	attribute=OneTimeBootMode	setting=Disabled OneTimeBootSeq OneTimeHddSeq OneTimeUefiBootSeq OneTimeCustomBootSeqStr OneTimeCustomHddSeqStr OneTimeCustomUefiBootSeqStr
	attribute=OneTimeBootSeqDev	sequence=aliasname1, aliasname2,.....aliasnameN
	attribute=OneTimeHddSeqDev	sequence=aliasname1, aliasname2,.....aliasnameN
	attribute=OneTimeUefiBootSeqDev	sequence=aliasname1, aliasname2,.....aliasnameN
	attribute=DataReuse	setting=Enabled Disabled
プロセッサ設定	attribute=DculpPrefetcher	setting=Enabled Disabled

表 4-4. PowerEdge yx2x システムでの BIOS セットアップの設定 (続き)

グループ	「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=
プロセッサ設定 (続き)	attribute=DcuStreamerPrefetcher	setting=Enabled Disabled
	attribute=LogicalProc	setting=Enabled Disabled
	attribute=Proc1Brand	setting=< 文字列 >
	attribute=Proc1Id	setting=< 文字列 >
	attribute=Proc1L2Cache	setting=< 文字列 >
	attribute=Proc1L3Cache	setting=< 文字列 >
	attribute=Proc1NumCores	setting=< 整数 >
	attribute=Proc2Brand	setting=< 文字列 >
	attribute=Proc2Id	setting=< 文字列 >
	attribute=Proc2L2Cache	setting=< 文字列 >
	attribute=Proc2L3Cache	setting=< 文字列 >
	attribute=Proc2NumCores	setting=< 整数 >
	attribute=Proc3Brand	setting=< 文字列 >
	attribute=Proc3Id	setting=< 文字列 >
	attribute=Proc3L2Cache	setting=< 文字列 >
	attribute=Proc3L3Cache	setting=< 文字列 >
	attribute=Proc3NumCores	setting=< 整数 >
	attribute=Proc4Brand	setting=< 文字列 >
	attribute=Proc4Id	setting=< 文字列 >
	attribute=Proc4L2Cache	setting=< 文字列 >
attribute=Proc4L3Cache	setting=< 文字列 >	
attribute=Proc4NumCores	setting=< 整数 >	
attribute=Proc64bit	setting=< 文字列 >	
attribute=ProcAdjCacheLine	setting=Enabled Disabled	

表 4-4. PowerEdge yx2x システムでの BIOS セットアップの設定 (続き)

グループ	「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=
プロセッサ設定 (続き)	attribute=ProcBusSpeed	setting=< 文字列 >
	attribute=ProcCores	setting=Single All Dual Quad 1 2 4 6 8 10 12 14 16
	attribute=ProcCoreSpeed	setting=< 文字列 >
	attribute=ProcExecuteDisable	setting=Enabled Disabled
	attribute=ProcHwPrefetcher	setting=Enabled Disabled
	attribute=ProcVirtualization	setting=Enabled Disabled
	attribute=QpiBandwidthPriority	setting=InputOutput Compute
	attribute=QpiSpeed	setting=MaxDataRate 8GTps 7GTps 6GTps
attribute=RtidSetting	setting=Enabled Disabled	
SATA 設定	attribute=EmbSata	setting=Off AtaMode RaidMode AhciMode
	attribute=eSataPort1	setting=Off Auto
	attribute=eSataPort1Capacity	setting=< 文字列 >
	attribute=eSataPort1DriveType	setting=< 文字列 >
	attribute=eSataPort1Model	setting=< 文字列 >
	attribute=SataPortA	setting=Off Auto
	attribute=SataPortACapacity	setting=< 文字列 >
	attribute=SataPortADriveType	setting=< 文字列 >
	attribute=SataPortAModel	setting=< 文字列 >
	attribute=SataPortB	setting=Off Auto

表 4-4. PowerEdge yx2x システムでの BIOS セットアップの設定 (続き)

グループ	「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=
SATA 設定 (続き)	attribute= SataPortBCapacity	setting=< 文字列 >
	attribute= SataPortBDriveType	setting=< 文字列 >
	attribute= SataPortBModel	setting=< 文字列 >
	attribute=SataPortC	setting=Off Auto
	attribute= SataPortCCapacity	setting=< 文字列 >
	attribute= SataPortCDriveType	setting=< 文字列 >
	attribute= SataPortCModel	setting=< 文字列 >
	attribute=SataPortD	setting=Off Auto
	attribute= SataPortDCapacity	setting=< 文字列 >
	attribute= SataPortDDriveType	setting=< 文字列 >
	attribute= SataPortDModel	setting=< 文字列 >
	attribute=SataPortE	setting=Off Auto
	attribute= SataPortECapacity	setting=< 文字列 >
	attribute= SataPortEDriveType	setting=< 文字列 >
	attribute= SataPortEModel	setting=< 文字列 >
	attribute=SataPortF	setting=Off Auto
	attribute= SataPortFCapacity	setting=< 文字列 >
	attribute= SataPortFDriveType	setting=< 文字列 >

表 4-4. PowerEdge yx2x システムでの BIOS セットアップの設定 (続き)

グループ	「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=
SATA 設定 (続き)	attribute=SataPortFModel	setting=< 文字列 >
	attribute=SataPortG	setting=Off Auto
	attribute=SataPortGCapacity	setting=< 文字列 >
	attribute=SataPortGDriveType	setting=< 文字列 >
	attribute=SataPortGModel	setting=< 文字列 >
	attribute=SataPortH	setting=Off Auto
	attribute=SataPortHCapacity	setting=< 文字列 >
	attribute=SataPortHDriveType	setting=< 文字列 >
	attribute=SataPortHModel	setting=< 文字列 >
シリアル通信	attribute=ConTermType	setting=Vt100Vt220 Ansi
	attribute=ExtSerialConnector	setting=Serial1 Serial2 RemoteAccDevice
	attribute=FailSafeBaud	setting=115200 57600 19200 9600
	attribute=RedirAfterBoot	setting=Enabled Disabled
	attribute=SerialComm	setting=OnNoConRedir OnConRedirCom1 OnConRedirCom2 Off
	attribute=SerialPortAddress	setting=Serial1Com1Serial2Com2 Serial1Com2Serial2Com1 Com1 Com2
スロットの無効化	attribute=Slot1	setting=Enabled Disabled BootDriverDisabled
	attribute=Slot2	setting=Enabled Disabled BootDriverDisabled

表 4-4. PowerEdge yx2x システムでの BIOS セットアップの設定 (続き)

グループ	「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=
	attribute=Slot3	setting=Enabled Disabled BootDriverDisabled
	attribute=Slot4	setting=Enabled Disabled BootDriverDisabled
	attribute=Slot5	setting=Enabled Disabled BootDriverDisabled
	attribute=Slot6	setting=Enabled Disabled BootDriverDisabled
	attribute=Slot7	setting=Enabled Disabled BootDriverDisabled
システム情報	attribute= SysMfrContactInfo	setting=< 文字列 >
	attribute= SystemBiosVersion	setting=< 文字列 >
	attribute= SystemManufacturer	setting=< 文字列 >
	attribute= SystemModelName	setting=< 文字列 >
	attribute= SystemServiceTag	setting=< 文字列 >
システムプロファイル設定	attribute= MemFrequency	setting=MaxPerf 1600MHz 1333MHz 1067MHz 800MHz
	attribute= MemPatrolScrub	setting=Standard Extended Disabled
	attribute= MemRefreshRate	setting=1x 2x
	attribute= MemVolt	setting=AutoVolt Volt15V Volt135V メモ : Volt15V は 1.5 ボルトで、Volt135V は 1.35 ボルトを示します
	attribute= ProcC1E	setting=Enabled Disabled
	attribute= ProcCStates	setting=Enabled Disabled
	attribute= ProcPwrPerf	setting=MaxPerf MinPwr SysDbpm OsDbpm

表 4-4. PowerEdge yx2x システムでの BIOS セットアップの設定 (続き)

グループ	「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=
	attribute= ProcTurboMode	setting=Enabled Disabled
	attribute=SysProfile	setting= PerfPerWattOptimizedOs PerfPerWattOptimizedDapc PerfOptimized Custom DenseCfgOptimized
システムセキュリ ティ	attribute=AcPwrRcvry	setting=On Off Last
	attribute= AcPwrRcvryDelay	setting=Immediate User Random
	attribute= AcPwrRcvryUserDelay	setting=< 整数 >
	attribute=AesNi	setting=Enabled Disabled
	attribute= BiosUpdateControl	setting=Unlocked Limited Locked
	attribute=IntelTxt	setting=On Off
	attribute=NmiButton	setting=Enabled Disabled
	attribute= PasswordStatus	setting=Locked Unlocked
	attribute=PwrButton	setting=Enabled Disabled
	attribute=SetupPassword	setting=< 文字列 >
	attribute=SysPassword	setting=< 文字列 >
	attribute=TcmActivation	setting=NoChange Activate Deactivate
	attribute=TcmClear	注意: TPM をクリアすると、TPM 内のすべてのキーが失われます。 これはオペレーティングシステムの 起動に影響する可能性があります。 setting=Yes No
	attribute=TcmSecurity	setting=On Off
	attribute=TpmActivation	setting=NoChange Activate Deactivate

表 4-4. PowerEdge yx2x システムでの BIOS セットアップの設定 (続き)

グループ	「名前 = 値」のペア 1 attribute=	「名前 = 値」のペア 2 setting=
	attribute=TpmClear	注意: TPM をクリアすると、TPM 内のすべてのキーが失われます。これはオペレーティングシステムの起動に影響する可能性があります。 setting=Yes No
	attribute=TpmSecurity	setting=Off OnPbm OnNoPbm
UEFI 起動設定	attribute=UefiBootSeq	sequence=aliasname1, aliasname2,.....aliasnameN

omconfig chassis currents または omconfig mainsystem currents



メモ: 現在、Server Administrator ではこのコマンドは使用できません。

omconfig chassis fans または omconfig mainsystem fans

omconfig chassis fans または **omconfig mainsystem fans** コマンドを使用すると、ファンブローブ警告しきい値を設定できます。他のコンポーネントに関しては、警告とエラーしきい値の両方を表示することができますが、エラーしきい値を設定することはできません。最小および最大エラーしきい値は、システムの製造元によって設定されています。


ファン警告しきい値の有効なパラメータ

表 4-5 には、ファン警告しきい値設定に有効なパラメータが一覧表示されています。

表 4-5. omconfig chassis fans または omconfig mainsystem fans のパラメータ

「名前 = 値」のペア	説明
index=<n>	ブローブまたはブローブインデックスの数 (指定が必要)。
warnthresh=default	最小および最大警告しきい値を デフォルト に設定します。
minwarnthresh=<n>	最小警告しきい値。
maxwarnthresh=<n>	最大警告しきい値。

デフォルトの最小および最大警告しきい値


 **メモ**: ESM 3、ESM4、および BMC の機能を持つシステムでは警告しきい値をデフォルト値に設定することはできません。

上限と下限ファン警告しきい値の両方を、推奨されているデフォルト値に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig chassis fans index=0 warnthresh=default
```

または

```
omconfig mainsystem fans index=0 warnthresh=default
```

 **メモ**: 1 つの値をデフォルト状態にして別の値を設定することはできません。つまり、最小警告しきい値をデフォルト状態にすると、最大警告しきい値もデフォルト値を選択することになります。

最小および最大警告しきい値の指定

ファンプローブの警告しきい値を指定する場合、設定するプローブ番号と最小、および / あるいは最大警告しきい値を指定する必要があります。次の例では、プローブ 0 を設定します。最初のコマンドは最小しきい値のみを設定し、2 番目のコマンドは最小および最大しきい値の両方を設定します。

```
omconfig chassis fans index=0 minwarnthresh=4580
```

または

```
omconfig mainsystem fans index=0 minwarnthresh=4580
```


```
omconfig chassis fans index=0 minwarnthresh=4580  
maxwarnthresh=9160
```

または

```
omconfig mainsystem fans index=0 minwarnthresh=4580  
maxwarnthresh=9160
```

このコマンドを実行して、システムが指定値を設定すると、次のメッセージが表示されます。

ファンプローブの警告しきい値は正常に設定されました。

 **メモ**: PowerEdge x8xx および x9xx システムでファンプローブの最小および最大警告しきい値を設定することはできません。

omconfig chassis frontpanel または **omconfig mainsystem frontpanel**
omconfig chassis frontpanel または **omconfig mainsystem frontpanel** コマンドを使用して次の設定を行います。

- 電源ボタンとマスク不可能割り込み（NMI）ボタンを設定する
- LCD での表示内容を設定する
 - 何も表示しない
 - カスタム情報
 - デフォルトシステム情報
 - サービスタグ、システム名
 - リモートアクセス MAC アドレス
 - システム電源
 - リモートアクセス IP アドレス
 - システムの周辺温度
 - リモートアクセス IPv4 アドレス
 - リモートアクセス IPv6 アドレス
- LCD ライン番号の設定
- LCD の暗号化状態レポートの表示
- カーネルベースの仮想マシン（KVM）が使用可能な場合にアクティブなりモートセッションを表示するように LCD を設定する



メモ：電源と NMI ボタンは、システムに存在するときのみ設定できます。

表 4-6 には、コマンドの有効なパラメータが一覧表示されています。

表 4-6. omconfig chassis frontpanel または omconfig mainsystem frontpanel のパラメータ

「名前 = 値」のペア 1	「名前 = 値」説明のペア 2
lcdindex=< インデックス >	LCD ライン番号を指定します。
config=none default custom	none : LCD テキストをなしに設定します。 default : LCD テキストをデフォルトに設定します。 custom : LCD テキストはカスタムに設定します。
text=< カスタムテキスト >	config=custom のときに LCD のカスタムテキストを設定します。
nmibutton=enable disable	enable : システムの NMI ボタンを有効にします。 disable : システムの NMI ボタンを無効にします。

表 4-6. **omconfig chassis frontpanel** または **omconfig mainsystem frontpanel** のパラメータ (続き)

「名前 = 値」のペア 1	「名前 = 値」説明 のペア 2
powerbutton= enable disable	- true : システムの電源 ボタンを有効にします。 false : システムの電源 ボタンを無効にします。
config=sysname	- システムの名前を設定します。
config=syspower	- システム電源情報を設定します。
config=servicetag	- システムのサービスタグ情報を設定します。
config= remoteaccessipv4	- リモートアクセス IPv4 情報を設定します。
config= remoteaccessipv6	- リモートアクセス IPv6 情報を設定します。
config= remoteaccessmac	- リモートアクセス MAC 情報を設定します。
config=ipv4drac	IPv4 DRAC 情報を設定します。
config=ipv6drac	IPv6 DRAC 情報を設定します。
config=macidrac	- DRAC の MAC アドレスを設定します。
config=ambienttemp	- システム温度を摂氏で表示します。
security=modify	- LCD テキストを変更できます。
security=view	- LCD テキストへの読み取り専用アクセスを与えます。
security=disabled	- LCD テキストへの制限付きアクセスを与えます。
remoteindication= true	- システムがアクティブなりモートセッションを検出 すると、LCD が点滅します。

 **メモ** : `ipv4drac`、`ipv6drac`、および `macidrac` のオプションは廃止されました。

omconfig chassis info または **omconfig mainsystem info**

omconfig chassis info または **omconfig mainsystem info** コマンドを使用して、システムのアセットタグ名とシャーシ名を入力します。ブレードシステムの場合、モジュラーコンポーネントに対しても `asset tag` 名を入力します。表 4-7 には、コマンドの有効なパラメータが一覧表示されています。

表 4-7. **omconfig chassis info** または **omconfig mainsystem info** のパラメータ

「名前 = 値」のペア	説明
index=<n>	Asset tag または名前を設定するシャーシの番号。
tag=<テキスト>	英数字テキストによる Asset tag。Asset tag は 10 文字を超えないようにします。
name=<テキスト>	シャーシ名

次の例では、メインシステムシャーシの **Asset tag** を **buildsys** に設定します。

```
omconfig chassis info index=0 tag=buildsys
```

または

```
omconfig mainsystem info index=0 tag=buildsys
```

インデックス **0** はメインシステムシャーシのデフォルト値です。次のコマンドでは **index=n** が省略されていますが、結果は同じです。

```
omconfig chassis info tag=buildsys
```

または

```
omconfig mainsystem info tag=buildsys
```

コマンドが正常に実行されると、次のメッセージが表示されます。

```
シャーシ情報は正常に設定されました。
```

シャーシによっては、異なる名前を割り当てることができます。メインシステムシャーシの名前を変更することはできません。次の例では、シャーシ **2** の名前を **storscsi1** から **storscsia** に変更します。

```
omconfig chassis info index=2 name=storscsia
```

または

```
omconfig mainsystem info index=2 name=storscsia
```

他のコマンドでは、シャーシ **2** (メイン シャーシ =**0**) がない場合、CLI によってエラーメッセージが表示されます。CLI では、存在するシステム構成に対してのみコマンドを実行できます。

omconfig chassis leds または omconfig mainsystem leds

omconfig chassis leds または **omconfig mainsystem leds** コマンドを使って、chassis fault LED または chassis identification LED を点滅するか指定します。このコマンドでシステムのハードディスクドライブの LED をクリアすることもできます。表 4-8 には、コマンドの有効なパラメータが一覧表示されています。

表 4-8. omconfig chassis leds または omconfig mainsystem leds のパラメータ

「名前 = 値」のペア 1	「名前 = 値」のペア 2	説明
index=<n>	-	LED が存在するシャーシ番号 (デフォルトはメインシステムシャーシであるシャーシ 0)。
led=fault	severity=warning critical	警告イベントまたは重要イベントの発生時に、LED を点滅するように選択します。

表 4-8. omconfig chassis leds または omconfig mainsystem leds のパラメータ (続き)

「名前 = 値」のペア 1	「名前 = 値」のペア 2	説明
led=hdfault	action=clear	ハードディスクドライブのフォールト数を 0 に戻します。
led=identify	flash=off on time-out=<n>	シャーシ識別 LED をオフまたはオンに設定します。指定された秒数で点滅するように、LED にタイムアウト値を設定します。

omconfig chassis memorymode または omconfig mainsystem memorymode

omconfig chassis memorymode または **omconfig mainsystem memorymode** コマンドを使用して、メモリエラーが発生した場合にシステムのメモリで使用する冗長性モードを指定します。

冗長メモリを使うと、現在使用中のモジュールに許容できないエラーが検出されたときに、システムを使用できる他のメモリモジュールに切り替えることができます。**omconfig chassis memorymode** または **omconfig mainsystem memorymode** を使用すると、冗長性を無効にすることができます。冗長性を無効にすると、システムが使用しているモジュールにエラーが発生したときに、使用できる他のメモリモジュールに切り替えないようにシステムに指示を出すこととなります。冗長性を有効にするには、スペア、ミラー、RAID、および DDDC から選択します。

スペアモードを使用すると、訂正可能なメモリエventsが検出されたときにシステムメモリのバンクが無効になり、スペアバンクが有効になって、オリジナルバンクのデータがすべてスペアバンクにコピーされます。スペアバンクには、少なくとも 3 つの同一メモリのバンクが必要です。オペレーティングシステムはスペアバンクを認識しません。

ミラーモードは、訂正不可能なメモリエventsが検出されたときに、メモリの冗長コピーに切り替えます。ミラーリングされたメモリに切り替えた後、システムは次回再起動時までオリジナルのシステムメモリに切り替わりません。このモードではオペレーティングシステムはインストールされているシステムメモリの半分を認識しません。

RAID モードでは、メモリチェックとエラー回復のレベルが向上しますが、メモリ容量が低下します。

DDDC モードはダブルデバイスデータコレクションを有効にします。このモードは、x4 DRAM に重大な故障が発生した後のデータの可用性を確実にします。



メモ : このコマンドは PowerEdge yx2x システム以前のシステムにのみ適用可能です。PowerEdge yx2x システムの属性を設定するには、表 4-4 を参照してください。

表 4-9 には、コマンドの有効なパラメータが一覧表示されています。

表 4-9. `omconfig chassis memorymode` または `omconfig mainsystem memorymode` のパラメータ

「名前 = 値」のペア	説明
<code>index=<n></code>	メモリモジュールが常駐するシャーシ番号（デフォルトはメインシステムシャーシのシャーシ 0 です）。
<code>redundancy= spare mirror disabled raid5 dddc</code>	<p>Spare : 訂正可能なメモリエントを持つメモリモジュールを無効にし、問題のあるモジュールのデータをスペアバンクにコピーします。</p> <p>Mirror : 問題のあるモジュールに訂正不可能なメモリエントが検出された場合、システムをミラーリングされたメモリのコピーに切り替えます。ミラー モードでは、オペレーティングシステムはシステムが再起動されるまでオリジナルのモジュールに切り替わりません。</p> <p>Disabled : 訂正不可能なメモリエントが検出されたときに、システムでその他の利用可能なメモリモジュールを使用しないことを示します。</p> <p>raid5 : システムメモリの構成方法です。これは理論的には、ハードディスクドライブのストレージシステムで使用される RAID 5 モードに似ています。このメモリモードでは、メモリチェックとエラー回復のレベルが向上しますが、メモリ容量が低下します。サポートしている RAID モードは、循環パリティの RAID レベル 5 ストライピングです。</p> <p>dddc : <code>dddc</code> モードは、ダブルデバイスデータコレクションを有効にします。このモードは、x4 DRAM に重大な故障が発生した後のデータの可用性を確実にします。</p>
<code>opmode=mirror optimizer advecc</code>	<p>Mirror : 問題のあるモジュールに訂正不可能なメモリエントが検出された場合、システムをミラーリングされたメモリのコピーに切り替えます。ミラー モードでは、オペレーティングシステムはシステムが再起動されるまでオリジナルのモジュールに切り替わりません。</p> <p>optimizer : 各 DRAM コントローラが 64 ビットモードで独立して動作するようにし、最適化されたメモリパフォーマンスを提供します。</p> <p>advanced ECC (advecc) : 2 つの DRAM コントローラを 128 ビットモードに組み合わせることを可能にし、最適化された信頼性を提供します。コントローラによってチーミングされていないメモリは、オペレーティングシステムに報告されません。</p>

omconfig chassis pwrmanagement または omconfig mainsystem pwrmanagement

omconfig chassis pwrmanagement または **omconfig mainsystem pwrmanagement** コマンドを使って、電力キャップを設定し、電力使用を制御するプロファイルを管理できます。


 **メモ** : このコマンドは PowerEdge yx2x システム以前のシステムにのみ有効です。表 4-10 には、コマンドの有効なパラメータが一覧表示されています。

表 4-10. omconfig chassis pwrmanagement または omconfig mainsystem pwrmanagement のパラメータ


「名前 = 値」のペア 1	「名前 = 値」のペア 2	説明
config=budget	cap=< 値 >	電力バジェットのしきい値を設定します。 メモ : PowerEdge yx2x システム以降からは、電源キャップを選択するには電力バジェットにライセンスが必要です。適切なライセンスがインストールされていないか、有効期限が切れている場合、システムはエラーメッセージを表示します。詳細に関しては、 support.dell.com/manuals で『The Dell Licensing Management Guide』（Dell ライセンス管理ガイド）を参照してください。
	setting=enable disable	enable : powercap 設定を有効にします。 disable : powercap 設定を無効にします。
	unit=watt btuphr percent	watt : ワット単位で設定します。 btuphr : 英熱量毎時単位で設定します。 percent : パーセント単位で設定します。

表 4-10. omconfig chassis pwrmanagement または omconfig mainsystem pwrmanagement のパラメータ (続き)

「名前 = 値」のペア 1	「名前 = 値」のペア 2	説明
config=profile メモ ：このオプションは PowerEdge yx2x システム以前のシステムでサポートされています。	profile= maxperformance apc osctrl custom	maxperformance ：サポートされている最高のプロセッサ状態に設定します。最大性能と最小電源経済が得られます。 apc ：アクティブ電源制御 (apc) は、BIOS 制御のデマンドベース電源管理を有効にします。 osctrl ：OS 制御 (osctrl) は、オペレーティングシステム制御のデマンドベース電源管理を有効にします。 custom ：このプロファイルは BIOS 設定を個別に指定できるようにします。基盤となる BIOS 設定を表示することで、詳細な制御を可能にします。
	cpupowermode=min max systemdbpm osdbpm	min ：CPU 電力消費量を最小に設定します。 max ：CPU 電力消費量を最大に設定します。 systemdbpm ：モードをシステムデマンドベースの電源管理に設定します。 osdbpm ：モードをオペレーティングシステムデマンドベースの電源管理に設定します。 メモ ：これらのオプションは、カスタムプロファイルが選択されている場合にのみ適用されます。
	memorypowermode= min 800 1067 1333 max	min ：モードを最小電力使用に設定します。 800 1067 1333 ：モードを 800、1067、または 1333 MHz に設定します。 max ：モードを最大性能に設定します。 メモ ：これらのオプションは、カスタムプロファイルが選択されている場合にのみ適用されます。

表 4-10. **omconfig chassis pwrmanagement** または **omconfig mainsystem pwrmanagement** のパラメータ (続き)

「名前 = 値」のペア 1	「名前 = 値」のペア 2	説明
	fanmode=min max	min : モードを最小電力使用に設定します。 max : モードを最大性能に設定します。 メモ : これらのオプションは、カスタムプロファイルが選択されている場合にのみ適用されます。

 **メモ** : 電源プロファイルのセットアップオプションを有効にするために、システムを再起動してください。


omconfig chassis pwrmonitoring または **omconfig mainsystem pwrmonitoring**


omconfig chassis pwrmonitoring または **omconfig mainsystem pwrmonitoring** を使用すると、電力消費情報を設定できます。

表 4-11 には、コマンドの有効なパラメータが一覧表示されています。


表 4-11. **omconfig chassis pwrmonitoring** または **omconfig mainsystem pwrmonitoring** のパラメータ

「名前 = 値」のペア 1	「名前 = 値」のペア 2	説明
index=<n>	-	プローブまたはプローブインデックスの数 (指定が必要)。
config=probe	warnthresh= setto default	最小および最大警告しきい値を デフォルト に設定します。
	warnthresh=<n>	警告しきい値を設定します。
	unit=watt btuphr	watt : ワット単位で表示します。 btuphr : 英熱量毎時単位で表示します。
config= resetreading	type=energy peakpower	energy : システム電力読み取り値をリセットします。 peakpower : システムピーク電源をリセットします。

 **メモ** : このコマンドは PMBus をサポートする特定の Dell yx0x システムにのみ適用できます。

 **メモ** : 電源監視には、電源/バジェット情報を設定するためのライセンスが必要で、適切なライセンスがインストールされていないか、有効期限が切れている場合、システムはエラーメッセージを表示します。詳細に関しては、support.dell.com/manuals で『The Dell Licensing Management Guide』(Dell ライセンス管理ガイド) を参照してください。

デフォルトな警告しきい値


 **メモ:** センサー管理機能はシステムによって異なります。

上限と下限ファン警告しきい値の両方を推奨されているデフォルト値に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig chassis pwrmonitoring index=0 warnthresh=
settodefauit
```

または

```
omconfig chassis pwrmonitoring index=0 warnthresh=
settodefauit
```

 **メモ:** 1つの値をデフォルト状態にして別の値を設定することはできません。つまり、最小警告しきい値をデフォルト状態にすると、最大警告しきい値もデフォルト値を選択することになります。

警告しきい値を指定します。

電力消費プローブの警告しきい値を指定する場合、設定するプローブ番号と警告しきい値を指定する必要があります。BTU/時またはワットのいずれかを表示するように値を設定します。次の例では、プローブ 4 を設定します。

```
omconfig chassis pwrmonitoring config=probe index=4
warnthresh=325 unit=watt
```

または

```
omconfig mainsystem pwrmonitoring config=probe index=4
warnthresh=325 unit=btuphr
```

このコマンドを実行して、システムが指定値を設定すると、次のメッセージが表示されます。

電力消費プローブ警告しきい値が正常に設定しました。

omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess

omconfig chassis remoteaccess または **omconfig mainsystem remoteaccess** コマンドを使用すると、設定できます。

- ローカルエリアネットワーク（LAN）上のリモートアクセス。
- インストールされている BMC または RAC 用のシリアルポート。
- シリアルオーバー LAN 接続の BMC または RAC。
- シリアルポートのターミナル設定。
- LAN 接続におけるシリアルの詳細設定。
- BMC または RAC ユーザーの情報。
- IPv6 と IPv4 インタフェースの情報。



メモ：ユーザー ID を入力してユーザー情報を設定します。

次のように入力します。

```
omconfig chassis remoteaccess
```

または

```
omconfig mainsystem remoteaccess
```

omconfig chassis remoteaccess または **omconfig mainsystem remoteaccess** コマンドの出力は各使用可能な設定を一覧表示します。次の表には、有効なパラメータが一覧表示されています。

表 4-12. **omconfig chassis remoteaccess** または **omconfig mainsystem remoteaccess**

「名前 = 値」のペア 1「名前 = 値」のペア 2 config= config=	説明
config=additional ipv4=enable disable	enable : iDRAC でロードできるように IPv4 スタックを有効化します。 disable : iDRAC でフラッシュできるように IPv4 スタックを無効化します。

表 4-12. omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess (続き)

「名前 = 値」のペア 1 「名前 = 値」のペア 2 config=	説明
ipv6=enable disable	<p>enable : iDRAC でロードできるように IPv6 スタックを有効化します。</p> <p>disable : iDRAC でアンロードできるように IPv6 スタックを無効化します。</p> <p>メモ : このオプションには、IPv6 の有効化 / 無効化にライセンスが必要です。適切なライセンスがインストールされていないか、有効期限が切れている場合、システムはエラーメッセージを表示します。詳細については、support.dell.com/manuals で『Dell License Manager』（Dell ライセンスマネージャ）を参照してください。</p>
config=advsol characcuminterval= number charsendthreshold= number enableipmi= true false enablenic=true false	<p>number : 文字累積間隔を 5 ミリ秒に設定します。</p> <p>number : 文字数を設定します。BMC は、この文字数（以上）がベースボードシリアルコントローラから BMC に受け入れられるとすぐに自動的にこの文字数が含まれたシリアルオーバー LAN データパケットを送信します。</p> <p>true : LAN で IPMI を有効にします。</p> <p>false : LAN で IPMI を無効にします。</p> <p>true : DRAC NIC を有効にします。</p> <p>false : DRAC NIC を無効にします。</p> <p>メモ : enablenic オプションは DRAC 5 がインストールされている PwerEdge x9xx システムでのみサポートされます。</p>

表 4-12. omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess (続き)

「名前 = 値」のペア 1 「名前 = 値」のペア 2 config=	説明
nicselection= sharedwithfailoveronall nic1 teamednic1nic2 dracnic	<p>sharedwithfailoveronall: 新しい NIC 選択オプションを設定します。</p> <p>nic1 : NIC 1 を有効にします。</p> <p>teamednic1nic2 : NIC チーム機能を有効にします。</p> <p>dracnic : DRAC 5 がインストールされている場合は、DRAC NIC を有効にします。</p> <p>メモ : nicselection オプションは PowerEdge x9xx から yx1x のシステムでのみサポートされます。PowerEdge yx2x システム以降からは、nicselection が primarynw および failovernw に置き換えられます。</p>

表 4-12. omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess (続き)

「名前 = 値」のペア 1 「名前 = 値」のペア 2 config=	説明
primarynw=dedicated lom1 lom2 lom3 lom4	<p>dedicated: 専用ポートをリモートアクセス向けのプライマリネットワークとして設定します。</p> <p>メモ : primarynw を 専用 として設定するには、このオプションにはライセンスが必要です。適切なライセンスがインストールされていないか、有効期限が切れている場合、システムはエラーメッセージを表示します。詳細に関しては、support.dell.com/manuals で『The Dell Licensing Management Guide』(Dell ライセンス管理ガイド)を参照してください。</p> <p>lom 1: lom1 ポートをリモートアクセス向けのプライマリネットワークとして設定します。</p> <p>lom 2: lom2 ポートをリモートアクセス向けのプライマリネットワークとして設定します。</p> <p>lom 3: lom3 ポートをリモートアクセス向けのプライマリネットワークとして設定します。</p> <p>lom 4: lom4 ポートをリモートアクセス向けのプライマリネットワークとして設定します。</p> <p>メモ : primarynw オプションは、PowerEdge yx2x システム以降からサポートされています。primarynw が dedicated に設定されている場合、failovernw を none に設定します。</p>

表 4-12. omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess (続き)

「名前 = 値」のペア 1 「名前 = 値」のペア 2 config=	説明
failovernw=none lom1 lom2 lom3 lom4 all	<p>none: フェールオーバーネットワークをなしに設定します。</p> <p>lom 1: フェールオーバーネットワークを lom 1 に設定します。</p> <p>lom 2: フェールオーバーネットワークを lom 2 に設定します。</p> <p>lom 3: フェールオーバーネットワークを lom 3 に設定します。</p> <p>lom 4: フェールオーバーネットワークを lom 4 に設定します。</p> <p>all: フェールオーバーネットワークをすべての lom に設定します。</p> <p>メモ : primarynw オプションは、PowerEdge yx2x システム以降からサポートされています。nicselection を設定するには、primarynw および failovernw の両方を設定します。</p> <p>primarynw および failovernw オプションを同じ値にすることはできません。</p> <p>メモ : Failovernw には、ポートを設定するためのライセンスが必要です。適切なライセンスがインストールされていないか、有効期限が切れている場合、システムはエラーメッセージを表示します。詳細に関しては、support.dell.com/manuals で『The Dell Licensing Management Guide』(Dell ライセンス管理ガイド)を参照してください。</p>
ipaddress=IP	<p>ip : BMC LAN インタフェースの IP アドレスソースに静的アドレスを選択した場合の IP アドレスを設定します。</p>
subnet=Subnet	<p>BMC LAN インタフェースの IP アドレスソースに静的アドレスを選択した場合のサブネットマスクを設定します。</p>

表 4-12. omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess (続き)

「名前 = 値」のペア 1 「名前 = 値」のペア 2 config=	説明
gateway=Gateway	Gateway : BMC LAN インタフェースの IP アドレスソースに 静的 アドレスを選択した場合のゲートウェイアドレスを設定します。
ipsource=static dhcp systemsoftware	static : BMC LAN インタフェースの IP アドレスが固定で割り当てられた IP アドレスの場合、静的です。 dhcp : BMC LAN インタフェースの IP アドレスが動的ホスト設定プロトコルの場合、DHCP です。
systemsoftware	systemsoftware : BMC LAN インタフェースの IP アドレスのソースがシステムソフトウェアからのものである場合、システムソフトウェアです。 メモ : システムによってはサポートされていないコマンドもあります。
ipaddressv6=<IPv6 アドレス > prefixlength=length	IPv6 アドレスの設定を検証します。
gatewayv6=< 値 > ipsourcev6=static auto	IPv6 ゲートウェイを検証します。 static : IPv6 ソースを 静的 に設定します。
	auto : IPv6 ソースを 自動 に設定します。
altdnsserverv6	代替 DNS サーバーアドレスの設定を検証します。
dnssourcev6=static auto	static : DNS ソースを 静的 に設定します。 auto : DNS ソースを 自動 に設定します。
vlanenable=true false	true : 仮想 LAN 識別を有効にします。 false : 仮想 LAN 識別を無効にします。
vlanid=number	number : 1 ~ 4094 の仮想 LAN 識別。
vlanpriority=number	number : 0 ~ 7 の仮想 LAN 識別の優先順位。

表 4-12. omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess (続き)

「名前 = 値」のペア 1「名前 = 値」のペア 2 config= config=	説明
config= <i>nic</i> (続き) privilegelevel= administrator operator user	<p>administrator : LAN チャネルで受け入れられる最大特権レベルをアドミニストレータに設定します。</p> <p>operator : LAN チャネルで受け入れられる最大特権レベルをオペレータに設定します。</p> <p>user : LAN チャネルで受け入れられる最大特権レベルをユーザーに設定します。</p>
encryptkey=text confirmencryptkey=text	<p>text : 暗号化と暗号化の確認に使用されるテキスト。</p> <p>メモ : text オプションは PowerEdge x9xx システムでのみサポートされます。</p>
prefdnsserverv6=< 値 >	<p>優先 DNS サーバーの設定を検証します。</p>

表 4-12. omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess (続き)

「名前 = 値」のペア 1 「名前 = 値」のペア 2 config=	説明
baudrate=9600 19200 38400 57600 115200	<p>9600 : 接続速度を 9600 bps に設定します。</p> <p>19200 : 接続速度を 19200 bps に設定します。</p> <p>38400 : 揮発性および不揮発性接続速度を 38400 bps に設定します。</p> <p>57600 : 揮発性および不揮発性接続速度を 57600 bps に設定します。</p> <p>115200 : 揮発性および不揮発性接続速度を 115200 bps に設定します。</p> <p>メモ : 9600 および 19200 のボーレートは、PowerEdge 1800、1850、2800、および 2850 のシステムでサポートされています。</p> <p>メモ : 19200、38400 および 57600 のボーレートは、PowerEdge x9xx システムでサポートされています。</p> <p>メモ : 115200 のボーレートは、DRAC 5 がインストールされている特定のシステムでサポートされています。</p> <p>メモ : 19200、57600 および 115200 のボーレートは、iDRAC がインストールされている yx0x システムでサポートされます。</p>
flowcontrol=none rtscts	<p>none : シリアルポートを介した通信フローの制御がありません。</p> <p>rtscts : RTS は送信の準備ができた (Ready to Send)、CTS は明確に送信する (Clear to Send) の意味です。</p>

表 4-12. omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess (続き)

「名前 = 値」のペア 1「名前 = 値」のペア 2 config=	説明
config=serial (続き) mode=directbasic directterminal directbasicterminal modembasic modemterminal modembasicterminal privilegelevel= administrator operator user	<p>directbasic : シリアル 接続で IPMI メッセージに使用するメッセージの種類。</p> <p>directterminal : シリアル 接続で印刷可能な ASCII 文字を使い、限定数のテキストコマンドを使用できるメッセージの種類。</p> <p>directbasicterminal : シリアル 接続上での基本モードとターミナルモードのメッセージ。</p> <p>modembasic : モデムでの IPMI メッセージに使用するメッセージの種類。</p> <p>modemterminal : モデムで印刷可能な ASCII 文字を使い、限定数のテキストコマンドを使用できるメッセージの種類。</p> <p>modembasicterminal : モデムを使った基本メッセージとターミナルメッセージ。</p> <p>メモ : システムによってはサポートされていないコマンドもあります。</p> <p>administrator : シリアル接続で受け入れられる最大特権レベルをアドミニストレータに設定します。</p> <p>operator : シリアル接続で受け入れられる最大特権レベルをオペレータに設定します。</p> <p>user : シリアル接続で受け入れられる最大特権レベルをユーザーに設定します。</p>

表 4-12. omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess (続き)

「名前 = 値」のペア 1 「名前 = 値」のペア 2 config=	説明
config= serialoverlan	<p>true : BMC の LAN でシリアルを有効にします。</p> <p>false : BMC の LAN でシリアルを無効にします。</p>
baudrate=9600 19200 38400 57600 115200	<p>9600 : 揮発性および不揮発性接続速度を 9600 bps に設定します。</p> <p>19200 : 揮発性および不揮発性接続速度を 19200 bps に設定します。</p> <p>38400 : 揮発性および不揮発性接続速度を 38400 bps に設定します。</p> <p>57600 : 揮発性および不揮発性接続速度を 57600 bps に設定します。</p> <p>115200 : 揮発性および不揮発性接続速度を 115200 bps に設定します。</p> <p>メモ : 9600 および 19200 のボーレートは、PowerEdge 1800、1850、2800、および 2850 のシステムでサポートされています。</p> <p>メモ : 19200 および 57600 のボーレートは、PowerEdge x9xx システムでサポートされています。</p> <p>115200 のボーレートは、DRAC 5 がインストールされている特定のシステムでサポートされています。</p> <p>メモ : 19200、57600 および 115200 のボーレートは、iDRAC がインストールされている yx0x システムでサポートされます。</p>
privilegelevel= administrator operator user	<p>administrator : シリアルオーバー LAN チャンネルで受け入れられる最大特権レベルをアドミニストレータに設定します。</p> <p>operator : シリアルオーバー LAN チャンネルで受け入れられる最大特権レベルをオペレータに設定します。</p> <p>user : シリアルオーバー LAN チャンネルで受け入れられる最大特権レベルをユーザーに設定します。</p>

表 4-12. omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess (続き)

「名前 = 値」のペア 1 「名前 = 値」のペア 2 config= setto default	説明
config= setto default	デフォルトの設定を使用します。
config= terminalmode deletecontrol= outputdel outputbkspspbksk	<p>outputdel : BMC は、<バックスペース> または <削除> を受け取ると、<削除> 文字を出力します。</p> <p>outputbkspspbksk: BMC は、<バックスペース> または <削除> を受け取ると、<バックスペース><スペース><バックスペース> 文字を出力します。</p>
handshakingcontrol= enabled disabled	<p>enabled : 入力バッファが別のコマンドを受け入れる準備ができたときに、文字シーケンスを出力するよう BMC に指示します。</p> <p>disabled : 入力バッファが別のコマンドを受け入れる準備ができたときに、文字シーケンスを出力するよう BMC に指示しません。</p>
inputlinesequence=cr null	<p>cr : コンソールは新しいライン シーケンスに <CR> を使用します。</p> <p>null : コンソールは新しいラインシーケンスに <NULL> を使用します。</p>
lineediting=enabled disabled	<p>enabled : ラインを入力したとき、ライン編集を有効にします。</p> <p>disabled : ラインを入力したとき、ライン編集を無効にします。</p>

表 4-12. omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess (続き)

「名前 = 値」のペア 1 「名前 = 値」のペア 2 config=	説明
newlinesequence=none crif null cr lfcr lf	<p>none : BMC は終了 シーケンスを使用しません。</p> <p>crif : BMC は、新しいラインがコンソールに書き込まれたときに、新しいラインシーケンスに <CR-LF> を使用します。</p> <p>null : BMC は、新しいラインがコンソールに書き込まれたときに、新しいラインシーケンスに <Null> を使用します。</p> <p>cr : BMC は、新しいラインがコンソールに書き込まれたときに、新しいラインシーケンスに <CR> を使用します。</p> <p>lfcr : BMC は、新しいラインがコンソールに書き込まれたときに、新しいラインシーケンスに <LF-CR> を使用します。</p> <p>lf : BMC は、新しいラインがコンソールに書き込まれたときに、新しいラインシーケンスに <LF> を使用します。</p>
config=user id=number enable= true false id=number enableserialoverlan= true false id=number name=text	<p>id=number : 設定されているユーザーの ID (数字書式の ID) です。</p> <p>enable=true : ユーザーを有効にします。</p> <p>enable=false : ユーザーを無効にします。</p> <p>id=number : 設定されているユーザーの ID (数字書式の ID) です。</p> <p>enableserialoverlan=true : LAN のシリアルを有効にします。</p> <p>enableserialoverlan=false : LAN のシリアルを無効にします。</p> <p>メモ : enableserialoverlan オプションは PowerEdge x9xx システムでのみサポートします。</p> <p>id=number : 設定されているユーザーの ID (数字書式の ID) です。</p> <p>name=text : ユーザー名</p>

表 4-12. omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess (続き)

「名前 = 値」のペア 1 「名前 = 値」のペア 2 config=	説明
id=number newpw=text confirmnewpw=text	<p>id=number : 設定されているユーザーの ID (数字書式の ID) です。</p> <p>newpw=text : ユーザーの新しいパスワード。</p> <p>confirmnewpw=text : 新しいパスワードの確認</p>
id=number serialaccesslevel= administrator operator user none	<p>id=number : 設定されているユーザーの ID (数字書式の ID) です。</p> <p>serialaccesslevel=administrator : ID を持つユーザーは、シリアルポートチャンネルについてアドミニストレータのアクセス特権があります。</p> <p>serialaccesslevel=operator : ID を持つユーザーは、シリアルポートチャンネルについてオペレータのアクセス特権があります。</p> <p>serialaccesslevel=user : ID を持つユーザーは、シリアルポートチャンネルについてユーザーのアクセス特権があります。</p> <p>serialaccesslevel=none : ID を持つユーザーは、シリアルポートチャンネルのアクセス特権がありません。</p>

表 4-12. omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess (続き)

「名前 = 値」のペア 1 「名前 = 値」のペア 2 config= config=	説明
config=user (続き) id=number lanaccesslevel= administrator operator user none	<p>id=number : 設定されているユーザーの ID 番号。</p> <p>lanaccesslevel=administrator : ID を持つユーザーは、LAN チャネルについてアドミニストレータのアクセス特権があります。</p> <p>lanaccesslevel=operator : ID を持つユーザーは、LAN チャネルについてオペレータのアクセス特権があります。</p> <p>lanaccesslevel=user : ID を持つユーザーは、LAN チャネルに対するユーザーのアクセス特権があります。</p> <p>lanaccesslevel=none : ID を持つユーザーは、LAN チャネルのアクセス特権がありません。</p>
id=user id dracusergroup=admin poweruser guest testalert custom none	<p>id=user id : 設定されているユーザーの ID。</p> <p>dracusergroup=admin : システム管理者ユーザー特権を有効にします。</p> <p>dracusergroup=poweruser : パワーユーザー特権を有効にします。</p> <p>dracusergroup=guest : ゲストユーザー特権を有効にします。</p> <p>dracusergroup=custom : カスタムユーザー特権を有効にします。</p> <p>メモ : dracusergroup=custom の詳細に関しては、表 4-13 を参照してください。</p> <p>dracusergroup=none : ユーザー特権を有効にしません。</p>

表 4-12. omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess (続き)

「名前 = 値」のペア 1「名前 = 値」のペア 2 config=	説明
config=user (続き) id=user id extipmiusergroup= admin operator readonly custom none メモ : extipmiusergroup ユーザーグループは、Dell yx0x ブレードシステムでの み使用できます。	id=user id : 設定されているユーザー の ID。 extipmiusergroup=admin : シ ステム管理者ユーザー特権を有効に します。 extipmiusergroup=operator : オペレータ特権を有効にします。 extipmiusergroup=readonly : 読み取り専用特権を有効にします。 extipmiusergroup=custom : カ スタムユーザー特権を有効にします。 メモ : デルは、iDRAC Enterprise のシ ステムに対して、 operator および readonly のオプションの使用を推奨 します。 メモ : extipmiusergroup=custom の詳細に関しては、表 4-14 を参照し てください。 extipmiusergroup=non : ユー ザー特権を有効にしません。

dracusergroup=custom の使用法

次の表に、dracusergroup=custom の使用法を示します。

表 4-13. omconfig chassis remoteaccess config=user id=<ユーザー ID> のパラメータ dracusergroup=custom または omconfig mainsystem remoteaccess config=user id=<ユーザー ID> dracusergroup=custom

「名前 = 値」のペア 1 「名前 = 値」のペア 2 「名前 = 値」のペア 3 説明			
config=user	id=user id dracusergroup= custom	logindracs= true false configuredracs= true false configure users= true false clearlogs= true false executeservercom mands= true false accessconsoleredi r= true false accessvirtualmedi a= true false testalerts= true false	true または false: DRAC へのログイン を有効 / 無効にし ます。 true または false: DRAC の設定を有効 / 無効にします。 true または false: ユーザーの設定を有効 / 無効にします。 true または false: ログのクリアランスを 有効 / 無効にします。 true または false: サーバーコマンドの 実行を有効 / 無効に します。 true または false: コンソールリダイレク トへのアクセスを有効 / 無効にします。 true または false: 仮想メディアへのアク セスを有効 / 無効にし ます。 true または false: テスト警告を有効 / 無 効にします。

extipmiusergroup=custom の使用法

次の表に、**extipmiusergroup=custom** の使用法を示します。

表 4-14. **omconfig chassis remoteaccess config=user id=< ユーザー ID> extipmiusergroup=custom** または **omconfig mainsystem remoteaccess config=user id=< ユーザー ID> extipmiusergroup=custom** のパラメータ

「名前 = 値」のペア 1	「名前 = 値」のペア 2	「名前 = 値」のペア 3	説明
config=user	id=user id extipmiusergroup= custom メモ : extipmiusergroup p ユーザーグループは、 Dell yx0x ブレードシステム のみ使用できます。	loginidrac= true false configureidrac= true false	true または false: iDRAC へのログイン を有効 / 無効にしま す。 true または false: iDRAC の設定を有効 / 無効にします。

omconfig chassis temps または omconfig mainsystem temps

omconfig chassis temps または **omconfig mainsystem temps** コマンドを使って、温度プローブの警告しきい値を設定できます。他のコンポーネントに関しては、警告とエラーしきい値の両方を表示することができますが、エラーしきい値を設定することはできません。最小および最大エラーしきい値は、システム製造元によって設定されます。



メモ : 設定できる警告しきい値は、システム設定によって異なります。

温度警告しきい値の有効なパラメータ

次の表には、温度警告しきい値を設定するための有効なパラメータが一覧表示されています。

表 4-15. **omconfig chassis temps** または **omconfig mainsystem temps**

「名前 = 値」のペア	説明
index=<n>	プローブまたはプローブインデックスの数 (指定が必要)。
warnthresh=default	最小および最大警告しきい値をデフォルトの状態に設定します。
minwarnthresh=<n>	最小警告しきい値 (小数点第 1 位まで) を設定します。
maxwarnthresh=<n>	最大警告しきい値 (小数点第 1 位まで) を設定します。

最小および最大警告しきい値をデフォルトに設定します。

上限と下限温度警告しきい値の両方を、推奨デフォルト値に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig chassis temps index=0 warnthresh=default
```

または

```
omconfig mainsystem temps index=0 warnthresh=default
```



メモ: 1つの値をデフォルト状態にして別の値を設定することはできません。つまり、最小警告しきい値をデフォルト状態にすると、最大警告しきい値もデフォルト値を選択することになります。

1つの値をデフォルト状態にして別の値を設定することはできません。つまり、最小警告しきい値をデフォルト状態にすると、最大警告しきい値もデフォルト値を選択することになります。



メモ: センサーを管理する機能はシステムによって異なります。

最小および最大警告しきい値への値の指定

温度プローブの警告しきい値を指定する場合、設定するプローブ番号と最小および/または最大警告しきい値を指定する必要があります。次の例では、プローブ4を設定します。

```
omconfig chassis temps index=4 minwarnthresh=11.2  
maxwarnthresh=58.7
```

または

```
omconfig mainsystem temps index=4 minwarnthresh=11.2  
maxwarnthresh=58.7
```

このコマンドを実行してシステムが指定値を設定すると、次のメッセージが表示されます。

温度プローブの警告しきい値は正常に設定されました。



メモ: PowerEdge x8xx および x9xx システムでは、環境温度に対してのみ温度プローブの警告しきい値を設定できます。

omconfig chassis volts または omconfig mainsystem volts

omconfig chassis volts または **omconfig mainsystem volts** コマンドを使用すると、電圧ファンプローブ警告しきい値を設定できます。他のコンポーネントに関しては、警告とエラーしきい値の両方を表示することができますが、障害しきい値を設定することはできません。最小および最大エラーしきい値は、システム製造元によって設定されます。

電圧警告しきい値の有効なパラメータ

次の表に、電圧警告しきい値を設定するための有効なパラメータを示します。



メモ：設定できる警告しきい値は、システム設定によって異なります。

表 4-16. omconfig chassis volts または omconfig mainsystem volts

「名前 = 値」のペア	説明
index=<n>	ブローブインデックス（指定してください）。
warnthresh=default	最小および最大警告しきい値をデフォルトの状態に設定します。
minwarnthresh=<n>	最小警告しきい値（小数点第 3 位まで）を設定します。
maxwarnthresh=<n>	最大警告しきい値（小数点第 3 位まで）を設定します。

最小および最大警告しきい値をデフォルトに設定します。

上限と下限電圧警告しきい値の両方を、推奨デフォルト値に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig chassis volts index=2 warnthresh=default
```

または

```
omconfig mainsystem volts index=2 warnthresh=default
```



メモ：1 つの値をデフォルト状態にして別の値を設定することはできません。つまり、最小警告しきい値をデフォルト状態にすると、最大警告しきい値もデフォルト値を選択することになります。

1 つの値をデフォルト状態にして別の値を設定することはできません。つまり、最小警告しきい値をデフォルト状態にすると、最大警告しきい値もデフォルト値を選択することになります。



メモ：ESM 3 機能を持つシステムでは警告しきい値をデフォルト値に設定することはできません。

最小および最大警告しきい値の指定

電圧ブローブの警告しきい値を指定する場合、設定するブローブ番号と最小および / または最大警告しきい値を指定する必要があります。

次の例では、ブローブ 0 を設定します。

```
omconfig chassis volts index=0 minwarnthresh=1.900  
maxwarnthresh=2.250
```

または

```
omconfig mainsystem volts index=0 minwarnthresh=1.900  
maxwarnthresh=2.250
```

このコマンドを実行してシステムが指定値を設定すると、次のメッセージが表示されます。

電圧プローブの警告しきい値は正常に設定されました。



メモ : PowerEdge x8xx システムでは、電圧の最小および最大警告しきい値を設定できません。

omconfig preferences

omconfig preferences コマンドを使用して、システムのプリファランスを設定します。コマンドラインを使用して、**Server Administrator** にアクセスできるユーザーレベルを指定し、**SNMP root** パスワードを設定します。**Active Directory** サービスおよび **SNMP set** 操作も設定できます。

omconfig preferences cdvformat

omconfig preferences cdvformat コマンドを使用して、レポートされたデータフィールドをカスタム区切りフォーマットで分けるデリミタを指定します。デリミタの有効な値は感嘆符、セミコロン、単価記号、ハッシュ、ドル記号、パーセント記号、脱字記号、アスタリスク、ティルダ、疑問符、コロン、コンマおよびパイプ記号です。

アスタリスクを使ってデータフィールドを分けるデリミタの設定の例は次のとおりです。

```
omconfig preferences cdvformat delimiter=asterisk
```

omconfig preferences dirservice

Active Directory サービスを設定するには、**omconfig preferences dirservice** コマンドを使用します。<製品名>**oem.ini** ファイルは、これらの変更を反映して修正されます。「adproductname」が <製品名>**oem.ini** ファイルにない場合は、<コンピュータ名>-<製品名> デフォルト値が使用されます。<コンピュータ名> は **Server Administrator** を実行しているシステムおよび <製品名> は **omprv32.ini** に定義した製品の名前を指します。**Server Administrator** に対する製品の名前は「omsa」です。

したがって、**Server Administrator** を実行している「myOmsa」という名前のコンピュータの場合、デフォルト名は「myOmsa-omsa」となります。これは、スナップインツールを使って **Active Directory** で定義されている **Server Administrator** の名前です。ユーザー特権を検索するには、この名前が **Active Directory** のアプリケーションオブジェクトの名前と一致する必要があります。



メモ : このコマンドは、Windows オペレーティングシステムが稼動するシステムにのみ適用できます。

表 4-17 には、コマンドの有効なパラメータが一覧表示されています。


表 4-17. Active Directory サービスの設定パラメータ


「名前 = 値」のペア	説明
prodname= <テキスト>	Active Directory の設定変更を適用する製品を指定します。 Prodname は、 omprv32.ini で定義した製品の名前を指します。 Server Administrator の場合、これは「omsa」です。
enable=<true false>	true : Active Directory サービスの認証サポートと Active Directory ログイン オプション をログインページで有効に します。 false : Active Directory サービスの認証サポートと Active Directory ログイン オプションをログインページで無効に します。 Active Directory ログイン オプションが表示されない場合、ロ グインできるのはローカルマシンのアカウントのみです。
adprodname= <テキスト>	Active Directory サービスで定義されている製品の名前を指定し ます。この名前は、ユーザー認証のために製品を Active Directory の特権データに関連付けます。

omconfig preferences snmp

SNMP ルートパスワードを設定すると、システム管理者は重要なシステム管理介
入を行うことができる SNMP 設定操作へのアクセスを制限することができます。
SNMP ルートパスワードは、通常どおり（1 つのコマンドラインにすべてのパラ
メータを入力）か、またはインタラクティブに設定できます。

omconfig preferences snmp コマンドを使用して、SNMP set 操作も設定
できます。

 **メモ** : 特定のオペレーティングシステム（例：VMware ESXi）の制限により、本リ
リースの OpenManage Server Administrator で一部の機能を利用できない場合が
あります。

 **注意** : インタラクティブモードは、SNMP ルートパスワードを設定するためにさら
に暗号化された方法です。非インタラクティブモードでは、**newpw** および
confirmnewpw オプションに入力する値は、システムのモニタに表示されます。
インタラクティブモードでは、パスワードに入力した値は マスクされています。

SNMP ルートパスワードに設定するパラメータは、インタラクティブに設定して
も非インタラクティブに設定しても同じです。


 **メモ** : **setting=rootpw** を指定しても、その他の「名前=値」ペアのパラメータを
指定しない場合、インタラクティブモードを入力したことになり、コマンドライン
は残りの値の入力を求めます。

表 4-18 には、コマンドの有効なパラメータが一覧表示されています。

表 4-18. SNMP ルートパスワードのパラメータ

「名前 = 値」のペア	説明
setting=rootpw	必須。
oldpw=< 古いパスワード >	古い SNMP ルートパスワードを入力します。
newpw=< 新しいパスワード >	新しい SNMP ルートパスワードを設定します。
confirmnewpw= < 新しいパスワード >	新しい SNMP ルートパスワードを確認します。

omconfig preferences snmp setting=rootpw と入力すると、システムは、必須パラメータへの値の入力を求めます。

omconfig preferences snmp と入力する場合、初期コマンドラインのすべてのパラメータを提供する必要があります。たとえば、次のとおりです。

```
omconfig preferences snmp setting=rootpw oldpw=  
openmanage newpw=serveradmin confirmnewpw=serveradmin
```

表 4-19. SNMP Set 操作のパラメータ

「名前 = 値」のペア	説明
setting=snmpset	必須
enable=true	SNMP set 操作を有効にします
enable=false	SNMP set 操作を無効にします

たとえば、次のコマンドを使用して SNMP set 操作を無効にします。

```
omconfig preferences snmp setting=snmpset enable=false
```



メモ : SNMP set 操作の有効化または無効化を実行したあとで、変更を有効にするには、サービスを再起動します。対応 Microsoft Windows オペレーティングシステムを実行しているシステムでは、Windows SNMP サービスを再起動します。対応 Red Hat Enterprise Linux および SUSE Linux Enterprise Server オペレーティングシステムを実行しているシステムでは、`srvadmin-services.sh restart` コマンドを実行して Server Administrator サービスを再起動します。

omconfig preferences useraccess

企業の方針によっては、Server Administrator に対して一部のユーザーが持つアクセスを制限した方がいい場合があります。**omconfig preferences useraccess** コマンドを使用すると、Server Administrator にアクセスできるユーザーまたはパワーユーザーの権利を与えたり拒否することができます。

表 4-20 には、コマンドの有効なパラメータが一覧表示されています。

表 4-20. システム管理者、パワーユーザーおよびユーザー用のユーザーアクセス有効化

コマンド	結果	説明
omconfig preferences useraccess enable=user	Server Administrator アクセスをユーザー、 パワーユーザーおよび システム管理者に与え ます。	最も制限のないユーザーア クセスです。
omconfig preferences useraccess enable=poweruser	Server Administrator アクセスをパワーユー ザーとシステム管理者 に与えます。	ユーザーレベルのアクセス のみを除外します。
omconfig preferences useraccess enable=admin	Server Administrator アクセスをシステム管 理者にのみ与えます。	最も制限的なユーザーア クセスです。

omconfig preferences webserver

Server Administrator ウェブサーバー環境において、Server Administrator ウェブサーバーの暗号化レベルおよび URL 起動ポイントを設定するには、**omconfig preferences webserver** コマンドを使用します。

表 4-21 には、このコマンドと使用できるパラメータが一覧表示されています。

表 4-21. ウェブサーバーのプリファレンスの設定

「名前 = 値」のペア 1	「名前 = 値」のペア 2	説明
attribute= sslencryption	setting= autonegotiate 128bitorhigher	autonegotiate : ウェブブラウザの設 定に基づいて、自動的に暗号化レベルを 設定します。 128bitorhigher : 暗号化レベルを 128 ビット以上に設定します。
attribute=seturl	host=< 文字列 > port=< 値 >	Server Administrator ウェブサーバー 環境において、URL 起動ポイントを設定 できるようになります。
attribute= signalgorithm	algorithm=MD5 SHA1 SHA256 SHA512	MD5 : キー署名アルゴリズムを MD5 に設定します。 SHA1 : キー署名アルゴリズムを SHA1 に設定します。 SHA256 : キー署名アルゴリズムを SHA256 に設定します。 SHA512 : キー署名アルゴリズムを SHA512 に設定します。

たとえば、URL 起動ポイントを設定するには、次のコマンドを使用します。

```
omconfig preferences webserver attribute=seturl host=  
<名前, ip, fqdn> port=<番号>
```

ホストの入力値は、有効な IPv4 または IPv6 アドレス、あるいは有効なホスト名にする必要があります。

署名アルゴリズムの値を設定するには、次のコマンドを使用します。

```
omconfig preferences webserver attribute=signaturealgorithm  
algorithm<MD5|SHA1|SHA256|SHA512>
```

Web サーバー設定の詳細については、support.dell.com/manuals にある『Dell OpenManage IT Assistant User's Guide』（Dell OpenManage IT Assistant ユーザーズガイド）を参照してください。

omconfig system または omconfig servermodule

omconfig system または **omconfig servermodule** コマンドを使って、ログのクリア、シャットダウン方法の決定、所有コストの初期値設定および編集、ハング状態にあるオペレーティングシステムの対応方法決定などが実行できます。

omconfig system alertaction または omconfig servermodule alertaction

omconfig system alertaction または **omconfig servermodule alertaction** コマンドを使って、コンポーネントに警告またはエラーイベントが発生した場合の対応方法を決定します。



メモ：特定のオペレーティングシステム（例：VMware ESXi）の制限により、本リリースの OpenManage Server Administrator で一部の機能を利用できない場合があります。

警告処置の定義

警告処置とは、特定の条件が満たされた場合にシステムが実行するよう指定した処置です。警告処置は、イントルーション、ファン、温度、電圧、電源装置、メモリ、および冗長性で警告またはエラーイベントが発生した場合、どのように対処するかを事前に決定するものです。

例えば、ファンローブの最小警告しきい値が **600 RPM** である場合、システムファンローブがファン **300 RPM** を読み取ると、システムはファンローブ警告を生成します。警告処置設定によって、このイベントの通知方法が決定されます。危険範囲または故障範囲内の温度、電圧、プローブの読み取り値に対する警告処置も設定できます。

警告処置を設定する構文

警告処置を設定するには 2 つの「名前=値」のペアが必要になります。最初の「名前 = 値」のペアはイベントタイプです。2 番目の「名前 = 値」のペアはこのイベントで実行する操作です。たとえば、次のコマンドを参照してください。

```
omconfig system alertaction event=powersupply  
broadcast=true
```

または

```
omconfig servermodule alertaction event=powersupply  
broadcast=true
```

この場合、イベントは電源装置エラーで、操作は全ての Server Administrator ユーザーへのメッセージ送信です。

使用できる警告処置

表 4-22 は、警告処置の設定が可能なコンポーネントの警告処置を示します。

表 4-22. 警告イベントとエラーイベントに設定できる警告処置

警告処置の設定	説明
alert=true false	true : システムのコンソール警告を有効にします。有効になると、Server Administrator を実行しているシステムに取り付けられたモニタの画面表示上に警告メッセージが表示されます。 false : システムのコンソール警告を無効にします。
broadcast=true false	true : アクティブなターミナル（または リモートデスクトップ）セッションがあるすべてのユーザー（Windows）、またはローカルシステムのアクティブなシェルがあるオペレータ（Linux）にブロードキャストされるメッセージまたは警告を有効にします。 false : 警告ブロードキャストを有効にします。
clearall=true	このイベントの処置をすべてクリアします。
execappth=< 文字列 >	このウィンドウに説明されるコンポーネントのイベントが発生した場合に実行するアプリケーションの完全パスとファイル名を設定します。 メモ : Linux システムにおいて、システム管理者 / システム管理者グループにアップグレードされたユーザー / ユーザーグループには、この警告処置設定を設定できません。
execapp=false	実行可能なアプリケーションを無効にします。

警告処理を設定できるコンポーネントとイベント

表 4-23 では警告処置を設定できるコンポーネントとイベントを一覧表示します。コンポーネントはアルファベット順に表示しますが、警告イベントは常にコンポーネントのエラーイベントより先に表示します。

表 4-23. 警告処置の設定可能なイベント

イベント名	説明
event=batterywarn	バッテリーが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=batteryfail	バッテリープローブがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=fanwarn	ファンが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=fanfail	ファンプローブがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=hardwarelogwarn	ハードウェアログが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=hardwarelogfull	ハードウェアログがいっぱいのときの処置を設定します。
event=intrusion	シャーシントルーションイベントを検出した場合の処置を設定します。
event=memprefail	メモリプローブがブリエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=memfail	メモリプローブがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=systempeakpower	電源消費プローブがピーク電力値を検出した場合の処置を設定します。
event=systempowerwarn	電源消費プローブが警告値を検出した時の処置を設定します。
event=systempowerfail	電源消費プローブがエラー値を検出した時の処置を設定します。
event=powersupply	電源装置がエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=powersupplywarn	電源装置が警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=processorwarn	プロセッサプローブが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=processorfail	プロセッサプローブがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=redundegrad	冗長コンポーネントが使用できなくなり、コンポーネントの完全冗長性が失われた場合の処置を設定します。
event=redunlost	1 つまたは複数の冗長コンポーネントが使用できなくなり、冗長コンポーネントの損失または冗長性不能状態になった場合の処置を設定します。
event=tempwarn	温度プローブが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=tempfail	温度プローブがエラー値を検出した場合の処置を設定します。

表 4-23. 警告処置の設定可能なイベント (続き)

イベント名	説明
event=voltwarn	電圧プローブが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=voltfail	電圧プローブがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=watchdogasr	ウォッチドッグ自動システム回復 (ASR) がハングしたオペレーティングシステムに対して実行された後に、次のシステムスタートアップで Server Administrator が実行する処置を設定します。
event=removableflashmediapresent	システムがリムーバブルフラッシュメディアを検出した時に、Server Administrator が実行する処置を設定します。
event=removableflashmediaremoved	リムーバブルフラッシュメディアが取り外された際に、Server Administrator が実行する処置を設定します。
event=removableflashmediafail	リムーバブルフラッシュメディアにエラーが発生した時に、Server Administrator が実行する処置を設定します。
event=storagesyswarn	ストレージシステムが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=storagesysfail	ストレージシステムがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=storagectrlwarn	ストレージコントローラが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=storagectrlfail	ストレージコントローラがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=pdiskwarn	物理ディスクが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=pdiskfail	物理ディスクがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=vdiskwarn	仮想ディスクが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=vdiskfail	仮想ディスクがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=enclosurewarn	エンクロージャが警告値を検出した場合の処置を設定します。
event=enclosurefail	エンクロージャがエラー値を検出した場合の処置を設定します。
event=storagectrlbatterywarn	ストレージコントローラバッテリーが警告値を検出した場合の処置を設定します。 メモ: このイベントは、ブレードシステムでは使用できません。
event=storagectrlbatteryfail	ストレージコントローラバッテリーがエラー値を検出した場合の処置を設定します。 メモ: このイベントは、ブレードシステムでは使用できません。

警告処置の設定コマンドの例

次に有効なコマンドの例を示します。コマンドの実行が成功すると、それぞれに次のメッセージが表示されます。

警告処置は正常に設定されました。

- 電流プローブ処置の場合

電流プローブが警告イベントを検出した場合に発するシステムのコンソール警告を無効にするには、次のように入力します。

```
omconfig system alertaction event=currentwarn alert=false
```

または

```
omconfig servermodule alertaction event=currentwarn alert=false
```

電流プローブがエラーイベントを検出した場合にメッセージの送信を有効にするには、次のように入力します。

```
omconfig system alertaction event=currentfail broadcast=true
```

または

```
omconfig servermodule alertaction event=currentfail broadcast=true
```

- ファンプローブ処置の場合

ファンプローブがエラー値を検出した場合に警告を発生させるには、次のように入力します。

```
omconfig system alertaction event=fanfail alert=true
```

または

```
omconfig servermodule alertaction event=fanfail alert=true
```

- シャーシイントルージョン処置の場合

シャーシイントルージョンの警告処置の全てをクリアするには、次のように入力します。

```
omconfig system alertaction event=intrusion clearall=true
```

または

```
omconfig servermodule alertaction event=intrusion clearall=true
```

ログをクリアするコマンド

 **メモ**：警告メッセージに関する詳細情報は、support.dell.com/manuals にある『Dell OpenManage Server Administrator Messages Reference Guide』（Dell OpenManage Server Administrator メッセージリファレンスガイド）を参照してください。


omconfig system または **omconfig servermodule** コマンドを使用すると、警告ログ、コマンドログおよびハードウェアまたは **ESM** ログの 3 つのログがクリアできます。

警告ログをクリアするには、次のように入力します。

```
omconfig system alertlog action=clear
```

または

```
omconfig servermodule alertlog action=clear
```

 **メモ**：無効な RAC ユーザー名を入力すると、コマンドログが表示できないことがあります。コマンドログをクリアするとこの状態が解決します。

コマンドログをクリアするには、次のように入力します。

```
omconfig system cmdlog action=clear
```

または

```
omconfig servermodule cmdlog action=clear
```

ESM ログをクリアするには、次のように入力します。

```
omconfig system esmlog action=clear
```


または

```
omconfig servermodule esmlog action=clear
```

omconfig system pedestinations または **omconfig servermodule pedestinations**

omconfig system pedestinations または **omconfig servermodule pedestinations** コマンドを使用すると、警告先の IP アドレスを設定できます。

表 4-24 には、コマンドの有効なパラメータが一覧表示されています。

 **メモ**：インデックスと IP アドレスをパラメータとして一緒に指定するか、コミュニティ文字列だけをパラメータに設定することができます。


 **メモ**：インデックス 1 から 4 には IPv4 アドレス、インデックス 5 から 8 には IPv6 アドレスを使用できます。

表 4-24. **omconfig system pedestinations** または **omconfig servermodule pedestinations** のパラメータ

「名前 = 値」のペア	説明
destenable=true false	true : 有効な IP アドレスが設定された後で、個別のプラットフォームイベントフィルタ宛先を有効にします。 false : 個別のプラットフォームイベントフィルタを無効にします。
index=number	宛先のインデックスを設定します。
ipaddress=ipv4 ipv6 address	宛先の IP アドレスを設定します。
communitystr=text	パスワードとして機能し、BMC と送信先管理ステーションの間で送信される SNMP メッセージを認証するのに使用されるテキストを設定します。

omconfig system platformevents または omconfig servermodule platformevents

omconfig system platformevents または omconfig servermodule platformevents

コマンドを使用して、特定のプラットフォームイベント向けにシャットダウン措置（ある場合）を設定します。また、プラットフォームイベントフィルタ警告生成を有効または無効にすることもできます。


 **注意**: プラットフォームイベントのシャットダウン処置を **な**しまたは **電力低減** 以外に設定している場合、指定のイベントが発生するとシステムは強制終了します。このシャットダウンはファームウェアによって開始され、最初にオペレーティングシステムや実行中のアプリケーションをシャットダウンせずに実行されます。

表 4-25 には、コマンドの有効なパラメータが一覧表示されています。


 **メモ**: 警告設定は相互に排他的で、1 度に 1 つしか設定できません。処置設定もまた相互に排他的で、1 度に 1 つしか設定できません。ただし、警告設定と処置設定は互いに排他的ではありません。

表 4-25. 警告処置コマンドのパラメータ

動作	説明
action=disable	SNMP 警告を無効にします。
action=enable	SNMP 警告を有効にします。
action=none	システムがハング、またはクラッシュしたときに処置を行いません。
action=powercycle	システムの電源をオフにしてから、一時停止し、再度電源をオンにして、システムを再起動します。
action=poweroff	システムの電源をオフにします。

表 4-25. 警告処置コマンドのパラメータ (続き)

動作	説明
action= powerreduction	プロセッサのスピードを、電力消費が下がって警告しきい値以下の値に達するまで、減らします。システムの電力消費が警告しきい値以下である場合、プロセッサのスピードを増加します。 メモ : この処置は PowerEdge yx1x システムより以前の PowerEdge ラック型およびタワー型システムでのみ適用可能です。
action=reboot	オペレーティングシステムを強制終了し、システム起動を開始して、BIOS チェックを実行してからオペレーティングシステムを読み込み直します。

表 4-26 は、プラットフォームイベントを設定できるコンポーネントとイベントの一覧を表示します。コンポーネントはアルファベット順に表示しますが、警告イベントは常にコンポーネントのエラーイベントより先に表示します。

表 4-26. omconfig system platformevents のパラメータ

イベント名	説明
alertsenable=true false	true : プラットフォームイベントフィルタ警告の生成を有効にします。 false : プラットフォームイベントフィルタ警告の生成を無効にします。 メモ : この設定は個別のプラットフォームイベントフィルタ警告設定とは無関係です。プラットフォームイベントフィルタで警告を生成するには、個別の警告とグローバルイベント警告の両方を有効にします。
event=batterywarn	バッテリーがエラー状態を保留していることをバッテリーデバイスが検出した時の処置を設定、または警告生成を有効または無効にします。
event=batteryfail	バッテリーデバイスでバッテリーが失敗したことが検出された時の処置を設定、または警告生成を有効または無効にします。
event=discretevolt	別々の電圧プローブで電圧が低すぎて適切な操作が行えないことが検出された時の処置を設定、または警告生成を有効または無効にします。
event=fanfail	ファンプローブでファンの稼働が遅すぎる、または稼働していないことが検出された時の処置を設定、または警告生成を有効または無効にします。
event=hardwarelogfail	ハードウェアログでエラー値が検出された時の警告生成を有効または無効にします。

表 4-26. omconfig system platformevents のパラメータ (続き)

イベント名	説明
event=intrusion	シャーシが開かれた時の処置を設定、または警告生成を有効または無効にします。
event=powerwarn	電源デバイスプローブで電源、電圧規制モジュール、または DC から DC への変圧器がエラー状態を保留にしている時の処置を設定、または警告生成を有効または無効にします。
event=powerabsent	プロセッサプローブで電源装置がないことが検出された時の処置を設定、または警告生成を有効または無効にします。
event=powerfail	電源デバイスプローブで電源、電圧規制モジュール、または DC から DC への変圧器が故障した時の処置を設定、または警告生成を有効または無効にします。
event=processorwarn	プロセッサプローブによってプロセッサがピークパフォーマンスまたは速度を下回っていることが検出された時の処置を設定、または警告生成を有効または無効にします。
event=processorfail	プロセッサプローブでプロセッサが故障したことが検出された時の処置を設定、または警告生成を有効または無効にします。
event=processorabsent	プロセッサプローブでプロセッサが存在しないことが検出された時の処置を設定、または警告生成を有効または無効にします。
event=redundegrad	システムのファンおよび / または電源装置が操作不能になり、その結果そのコンポーネントの冗長性が不完全になった時の処置を設定、または警告生成を有効または無効にします。
event=redunlost	システムのファンおよび / または電源装置が操作不能になり、その結果そのコンポーネントの冗長性が失われたか、そのコンポーネントで動作している冗長コンポーネントがない状態になった時の処置を設定、または警告生成を有効または無効にします。
event=systempowerwarn	電源消費プローブが警告値を検出した時の処置を設定します。
event=systempowerfail	電源消費プローブがエラー値を検出した時の処置を設定します。

表 4-26. omconfig system platformevents のパラメータ (続き)

イベント名	説明
event=tempwarn	温度プローブで温度が最大限度または最低限度に近づいていることが検出された時の処置を設定、または警告生成を有効または無効にします。
event=removableflashmediapresent	システムがリムーバブルフラッシュメディアを検出した時に、Server Administrator が実行する処置を設定します。
event=removableflashmediawarn	リムーバブルフラッシュメディア警告が表示された時に、Server Administrator が実行する処置を設定します。
event=removableflashmediafail	リムーバブルフラッシュメディアにエラーが発生した時に、Server Administrator が実行する処置を設定します。
event=tempfail	温度プローブで温度が高すぎ、または低すぎて適切な操作ができないことが検出された時の処置を設定、または警告生成を有効または無効にします。
event=voltfail	電圧プローブで電圧が低すぎて適切な操作が行えないことが検出された時の処置を設定、または警告生成を有効または無効にします。
event=intdualsdcardcritical	内蔵デュアル SD カードで重大なイベントが発生した時に、Server Administrator が実行する処置を設定します。
event=intdualsdcardwarn	内蔵デュアル SD カードで警告が表示された時に、Server Administrator が実行する処置を設定します。
event=intdualsdcardabsent	内蔵デュアル SD カードが利用不可である時に、Server Administrator が実行する処置を設定します。
event=intdualsdcardredunlost	内蔵デュアル SD カードの冗長性が失われた時に、Server Administrator が実行する処置を設定します。
event=watchdogasr	システムがハングした、または応答していない時に、ASR によって設定された警告生成を有効または無効にします。

omconfig system events または omconfig servermodule events

omconfig system events または omconfig servermodule events

コマンドを使用して、システム上の SNMP トラップコンポーネントを有効および無効にします。

 **メモ:** イベントタイプには、システムに存在しないものもあります。

omconfig system events コマンドの「名前=値」ペアには 4 つのパラメータがあります。

- ソース
- タイプ
- 重大度
- 索引

ソース

現時点では、システムコンポーネントに対してサポートされるイベント通知のソースは現在 **SNMP** のみであるため、`source=snmptraps` は必須の名前 = 値ペアです。

```
omconfig system events source=snmptraps
```

または

```
omconfig servermodule events source=snmptraps
```

タイプ

タイプとは、イベントに関するコンポーネントの名前を示すものです。表 4-27 には、システムイベントタイプの有効なパラメータが一覧表示されています。

表 4-27. システムイベントタイプパラメータ

「名前 = 値」のペア	イベント設定の対象
type=accords	AC 電源ケーブル
type=battery	バッテリー
type=all	すべてのデバイスタイプ
type=fanenclosures	ファンエンクロージャ
type=fans	ファン
type=intrusion	シャーシイントルージョン
type=log	ログ
type=memory	メモリ
type=powersupplies	電源装置
type=redundancy	冗長性
type=systempower	システム電源

表 4-27. システムイベントタイプパラメータ (続き)

「名前 = 値」のペア	イベント設定の対象
type=temps	温度
type=volts	電圧
type=systempeakpower	システムピーク電力
type=removableflashmedia	リムーバブルフラッシュメディア

重大度

イベント設定のコンテキストでは、重大度は **Server Administrator** がコンポーネントタイプのイベントを通知する前にイベントの重大度を決定します。同じシステムシャーシに同じタイプのコンポーネントが複数ある場合、**index=<数値>** パラメータを使用して、コンポーネントの番号に従ってイベントの重大度を通知するかどうか指定することができます。表 4-28 には、有効な重大度のパラメータが一覧表示されています。

表 4-28. システム設定重大度パラメータ

コマンド	結果	説明
omconfig system events type= <コンポーネント名> severity=info または omconfig servermodule events type=<コンポーネント名> severity=info	情報イベント、警告 イベントおよび重要 イベントの通知を有 効にします。	最も制限の少ないイベント 通知。
omconfig system events type=<コ ンポーネント名> severity=warning または omconfig servermodule events type=<コンポーネント名> severity=warning	警告イベントと重要 イベントの通知を有 効にします。	コンポーネントが通常の状態 に戻ったときなどに、情報イ ベント通知を省略します。
omconfig system events type=<コ ンポーネント名> severity=critical または omconfig servermodule events type=<コンポーネント名> severity=critical	重要イベントのみの 通知を有効にします。	制限的なイベント通知。
omconfig system events type=<コ ンポーネント名> severity=none または omconfig servermodule events type=<コンポーネント名> severity=none	イベント通知を無効 にします。	イベント通知はありません。

索引

インデックスは、特定のコンポーネントのイベント番号を指します。インデックスパラメータはオプションです。インデックスパラメータを省略すると、イベントは、すべてのファンなど指定された種類のすべてのコンポーネント用に設定されます。たとえば、システムに2つ以上のファンが含まれる場合、特定のファンのイベント通知を有効にしたり無効にできます。コマンド例を次に示します。

```
omconfig system events type=fan index=0 severity=critical
```

または

```
omconfig servermodule events type=fan index=0 severity=critical
```

このコマンド例の結果、**Server Administrator** はシステムシャシの最初のファン（インデックス 0）が重大ファン RPM に達した場合にのみ SNMP トラップを送信します。

omconfig system webserver または **omconfig servermodule webserver**

omconfig system webserver または **omconfig servermodule webserver** コマンドを使用すると、ウェブサーバーを起動または停止します。表 4-29 には、コマンドの有効なパラメータが一覧表示されています。

表 4-29. Web Server 設定パラメータ

「名前 = 値」のペア	説明
action=start	Web Server を起動します。
action=stop	Web Server を停止します。
action=restart	Web Server を再起動します。

omconfig system recovery または **omconfig servermodule recovery**

omconfig system recovery または **omconfig servermodule recovery** コマンドを使用して、オペレーティングシステムがハングまたはクラッシュした時に実行する処置を設定します。システムのオペレーティングシステムがハング状態にあると判断される前に、何秒間経過する必要があるかを設定することもできます。表 4-30 には、コマンドの有効なパラメータが一覧表示されています。



メモ：タイマーの上限と下限はシステムのモデルと構成によって異なります。

表 4-30. 回復パラメータ

「名前 = 値」のペア	説明
action=none	オペレーティングシステムがハングまたはクラッシュした場合に、何もしません。
action=reboot	オペレーティングシステムをシャットダウン後、システムを起動し、BIOS チェックを実行してオペレーティングシステムを再ロードします。
action=poweroff	システムの電源をオフにします。
action=powercycle	システムの電源をオフにしてから、一時停止し、再度電源をオンにして、システムを再起動します。パワーサイクルはハードディスクドライブのようなシステム部品を再初期化する場合に役立ちます。
timer=<n>	システムでオペレーティングシステムがハングの状態にあると判断される前に経過する必要がある秒数 (20 秒から 480 秒)

回復コマンド例

オペレーティングシステムのハング状態を検出してからパワーサイクルに移行させるには、次のように入力します。

```
omconfig system recovery action=powercycle
```

または

```
omconfig servermodule recovery action=powercycle
```

リカバリ処置を開始する前に、120 秒間ハングするようシステムを設定するには、次のように入力します。

```
omconfig system recovery timer=120
```

または

```
omconfig servermodule recovery timer=120
```

omconfig system shutdown または omconfig servermodule shutdown

omconfig system shutdown または **omconfig servermodule shutdown** コマンドを使用すると、システムのシャットダウン方法を決定できます。デフォルト設定では、システムのシャットダウン時、電源をオフにする前にオペレーティングシステムをシャットダウンします。オペレーティングシステムをシャットダウンするとまず、システムの電源をオフにする前にファイルシステムを終了します。オペレーティングシステムを最初にシャットダウンしたくない場合は、パラメータ **osfirst=false** を使うことができます。表 4-31 には、コマンドの有効なパラメータが一覧表示されています。



メモ：特定のオペレーティングシステム（例：VMware ESXi）の制限により、本リリースの OpenManage Server Administrator で一部の機能を利用できない場合があります。

表 4-31. シャットダウンパラメータ

「名前 = 値」のペア	説明
action=reboot	オペレーティングシステムをシャットダウン後、システムを起動し、BIOS チェックを実行してオペレーティングシステムを再ロードします。
action=poweroff	システムの電源をオフにします。
action=powercycle	システムの電源をオフにしてから、一時停止し、再度電源をオンにして、システムを再起動します。パワーサイクルはハードディスクドライブのようなシステム部品を再初期化する場合に役立ちます。
osfirst=true false	<p>true : システムをシャットダウンする前にファイルシステムを終了して、オペレーティングシステムを終了します。</p> <p>false : システムをシャットダウンする前に、オペレーティングシステムをシャットダウンしたりファイルシステムを閉じたりしません。</p>

シャットダウンコマンド例

シャットダウン後再起動するように設定するには、次のように入力します。

```
omconfig system shutdown action=reboot
```

または

```
omconfig servermodule shutdown action=reboot
```

システムの電源をオフにする前に、オペレーティングシステムのシャットダウンを省略するには、次のように入力します。

```
omconfig system shutdown action=reboot osfirst=false
```

または

```
omconfig servermodule shutdown action=reboot osfirst=false
```

omconfig system thrmshutdown または omconfig servermodule thrmshutdown

omconfig system thrmshutdown または **omconfig servermodule thrmshutdown** コマンドを使用すると、サーマルシャットダウン 処置が設定できます。温度プローブによって温度プローブの警告またはエラーイベントが検出された場合、サーマルシャットダウンを行えるようにシステムを設定できます。表 4-32 には、コマンドの有効なパラメータが一覧表示されています。

表 4-32. サーマルシャットダウンパラメーター

「名前 = 値」 のペア	説明
severity=disabled warning failure	<p>disabled : サーマルシャットダウンを無効にします。システム管理者による操作が必要です。</p> <p>warning : 温度警告イベントが検出されると、シャットダウンを実行します。警告イベントは、シャーシ内の温度プローブ（摂氏）が最大温度警告しきい値を超過した場合に発生します。</p> <p>failure : 温度エラーイベントが検出されると、シャットダウンを実行します。エラーイベントは、シャーシ内の温度プローブ（摂氏）が最大温度エラーしきい値を超過した場合に発生します。</p>

サーマルシャットダウンコマンドの例

温度プローブがエラーイベントを検出した場合に温度シャットダウンをトリガするには、次のように入力します。

```
omconfig system thrmshutdown severity=failure
```

または

```
omconfig servermodule thrmshutdown severity=failure
```

システム管理者が **omconfig system shutdown** を手動で開始するように、サーマルシャットダウンを無効にするには、次のように入力します。

```
omconfig system thrmshutdown severity=disabled
```

または

```
omconfig servermodule thrmshutdown severity=disabled
```


omconfig システムまたは servermodule assetinfo: 所有コスト (Cost of Ownership) の編集

omconfig system assetinfo または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドは、システムの総所有コストの内訳となる総括的なパラメータセットの編集に役立ちます。本項では、**omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドで報告および設定されるパラメータについて説明します。

omconfig system assetinfo または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを使って、構成可能なオブジェクトを制御する値を設定することができます。**assetinfo** 設定機能の例にはシステム所有者の設定値、購入金額、有効なリース内容詳細、減価償却方式とレート、システムのロケーション、保証および保証期間の延長、アウトソーシング詳細、およびサービス レベルの 許諾書などがあります。

資産情報を追加するために必要なユーザーレベル

パワーユーザーとシステム管理者が資産情報の追加および編集を実行できます。

表 5-1. omconfig コマンドのシステム可用性

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	該当アプリケーション
omconfig	servermodule	ブレードシステム
	mainsystem	ブレードシステム
	system	ラック型システムとタワー型システム
	chassis	ラック型システムとタワー型システム

取得情報の追加

「取得」とは、企業によるシステム購入またはリースに関する事実を指します。

omconfig system assetinfo info=acquisition または **omconfig servermodule assetinfo info=acquisition** コマンドを使って、システムの購入またはリースに関する詳細を追加します。表 5-2 には、コマンドの有効なパラメータが一覧表示されています。

表 5-2. **omconfig system assetinfo info=acquisition** または **omconfig servermodule assetinfo info=acquisition** のパラメータ

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前 = 値」のペア 1	「名前 = 値」のペア 2	説明
omconfig	system または servermodule	assetinfo	info=acquisition		
			costcenter=	<テキスト>	システムを取得した企業名またはコード。
			expensed=	yes no	システムが特定の、または研究開発部門や販売部門など、特定部署のための経費とされるかどうか。
			installdate=	<mmddyy>	システムの稼働開始日。
			ponum=<n>		システム代金支払いを承認した文書番号。
			purchasecost	=<n>	所有者が支払ったシステム代金。
			purchasedate	=<mmddyy>	所有者がシステムを購入した日。
			signauth=	<テキスト>	システム購入またはサービス コールの承認者名。
			waybill=<n>		受け取った商品の貨物受領書。

取得情報を追加するためのコマンド例

取得パラメータの値を提供するには、次のようなコマンドを入力します。

omconfig system assetinfo info=acquisition <名前 = 値のペア 2> または **omconfig servermodule assetinfo info=acquisition** <名前 = 値のペア 2>。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=acquisition
purchasedate=122101
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=acquisition
purchasedate=122101
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

「名前 = 値」のペア 2 のパラメータすべてが「名前 = 値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。例えば、**info=acquisition** に複数のパラメータ値を入力するには、次の例を構文ガイドとして使用してください。

```
omconfig system assetinfo info=acquisition
purchasecost=5000
waybill=123456 installdate=120501 purchasedate=050601
ponum=9999 signauth="John Smith" expensed=yes
costcenter=finance
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=acquisition
purchasecost=5000
waybill=123456 installdate=120501 purchasedate=050601
ponum=9999 signauth="John Smith" expensed=yes
costcenter=finance
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

減価償却情報の追加

減価償却とは、時間の経過に伴う資産の価値低下を計算するための方法一式です。例えば、5年間の耐用年数が期待されるシステムの減価償却は20パーセントです。**omconfig system assetinfo info=depreciation** または **omconfig servermodule assetinfo info=depreciation** コマンドを使用して、システムの減価償却を計算する方法に関する情報を追加します。表 5-3 には、コマンドの有効なパラメータが一覧表示されています。

表 5-3. **omconfig system assetinfo info=depreciation** または **omconfig servermodule assetinfo info=depreciation** のパラメータ

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前 = 値」のペア 1	「名前 = 値」のペア 2	説明
omconfig	system または servermodule	assetinfo	info=depreciation	duration=<n>	システムが減価償却される年数または月数。
				method=<テキスト>	システムの減価償却計算に使用するステップと仮定。
				percent=<n>	資産の価値切り下げまたは減価償却率（百分率）。
				unit=months years	単位は月または年単位です。

減価償却情報を追加するためのコマンド例

減価償却パラメータの値を提供するには、次のようなコマンドを入力します。

omconfig system assetinfo info=depreciation <名前 = 値のペア 2>

または **omconfig servermodule assetinfo info=depreciation**
<名前 = 値のペア 2>。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=depreciation method=
straightline
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=depreciation
method=straightline
```

次のメッセージが表示されます。

```
資産情報は正常に設定されました。
```

「名前 = 値」のペア 2 のパラメータすべてが「名前 = 値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。163 ページの「取得情報を追加するためのコマンド例」の例を参照してください。

保証延長情報の追加

omconfig system extwarranty または **omconfig servermodule extwarranty** コマンドを使うと、保証延長情報に値を割り当てることができます。保証は、製造元または販売店とシステム購入者との間で取り交わす契約です。保証では、指定した期間または使用範囲内でどのコンポーネントの修理や交換をカバーするかを特定します。保証延長は、当初の保証期限が切れた後に有効になります。保証の値の編集方法に関する詳細は、175 ページの「保証情報の追加」を参照してください。

表 5-4 には、コマンドの有効なパラメータが一覧表示されています。

表 5-4. **omconfig system assetinfo info=extwarranty** または **omconfig servermodule assetinfo info=extwarranty** のパラメータ

コマンドレ ベル 1	コマンドレ ベル 2	コマンド レベル 3	「名前 = 値」の ペア 1	「名前 = 値」の ペア 2	説明
omconfig		system または servermodule	assetinfo	info= extwarranty	

表 5-4. **omconfig system assetinfo info=extwarranty** または **omconfig servermodule assetinfo info=extwarranty** (続き) (続き) のパラメータ

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前 = 値」のペア 1	「名前 = 値」のペア 2	説明
				cost=	保証サービスにかかるコスト。
				<コスト>	
				enddate=	保証延長契約の有効期限。
				<終了日>	
				provider=	保証延長サービスを提供する会社。
				<プロバイダ>	
				startdate=	保証延長サービスの開始日。
				<開始日>	

保証延長情報を追加するためのコマンド例

取得パラメータの値を提供するには、次のようなコマンドを入力します。

omconfig system assetinfo info=extwarranty <名前 = 値のペア 2>

または **omconfig servermodule assetinfo info=extwarranty**

<名前 = 値のペア 2>. たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=extwarranty enddate=012503
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=extwarranty enddate=012503
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

「名前 = 値」のペア 2 のパラメータすべてが「名前 = 値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。163 ページの「取得情報を追加するためのコマンド例」の例を参照してください。

リース情報の追加

リースとは、指定期間中システムの使用料を支払うという契約です。システムの所有権は賃貸人に属します。表 5-5 には、コマンドの有効なパラメータが一覧表示されています。

表 5-5. **omconfig system assetinfo info=lease** または **omconfig servermodule assetinfo info=lease** のパラメータ

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前 = 値」のペア 1	「名前 = 値」のペア 2	説明
omconfig	system または servermodule	assetinfo	info=lease		
			buyout=	<金額>	賃貸人からシステムを購入する場合支払う金額。
			lessor=	<賃貸人>	システムのリースを提供する会社。
			multischedule=true false		システムリースのコストが 2 種類以上の料金表によって計算されるかどうか。
			ratefactor=	<要素>	リース料の計算に使用する要素。
			value=	<残余>	リース終了時のシステムの適正市場価格。

リース情報を追加するためのコマンド例

リース パラメータの値を提供するには、次のようなコマンドを入力します。
omconfig system assetinfo info=lease <名前 = 値のペア 2> または
omconfig servermodule assetinfo info=lease <名前 = 値のペア 2>。
 たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=lease value=4500
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=lease value=4500
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

「名前 = 値」のペア 2 のパラメータすべてが「名前 = 値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。163 ページの「取得情報を追加するためのコマンド例」の例を参照してください。

メンテナンス情報の追加

メンテナンスとは、システムが正常に稼動し続けるように行う保守作業を指します。表 5-6 には、メンテナンス情報の追加に有効なパラメータが一覧表示されています。

表 5-6. **omconfig system assetinfo info=maintenance** または **omconfig servermodule assetinfo info=maintenance** のパラメータ

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前 = 値」のペア 1	「名前 = 値」のペア 2	説明
omconfig	system または servermodule	assetinfo	info=maintenance	enddate= <終了日>	保証延長契約の有効期限。
				provider= <プロバイダ>	メンテナンスサービスを提供する会社。
				startdate= <開始日>	メンテナンスの開始日。
				restrictions= <文字列>	メンテナンス契約でカバーされない作業。

メンテナンス情報を追加するためのコマンド例

メンテナンス パラメータの値を提供するには、次のようなコマンドを入力します。**omconfig system assetinfo info=maintenance <名前 = 値のペア 2>** または **omconfig servermodule assetinfo info=maintenance <名前 = 値のペア 2>**。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=maintenance startdate=012504
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=maintenance startdate=012504
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

「名前 = 値」のペア 2 のパラメータすべてが「名前 = 値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。163 ページの「取得情報を追加するためのコマンド例」の例を参照してください。

アウトソース情報の追加

アウトソースとは、システムの正常運転に必要な保守作業を別の会社に委託することです。表 5-7 には、アウトソース情報の追加に有効なパラメータが一覧表示されています。

表 5-7. **omconfig system assetinfo info=outsouce** または **omconfig servermodule assetinfo info=outsouce** のパラメータ

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前 = 値」のペア 1	「名前 = 値」のペア 2 説明
omconfig	system または servermodule	assetinfo	info=outsouce	
			levels=<n>	プロバイダが提供するサービスのレベル
			problem-component=<コンポーネント>	メンテナンスを必要とするシステム部品。
			providerfee=<プロバイダ料金>	メンテナンス料金。
			servicefee=<サービス料金>	サービス料金。
			signauth=<名前>	サービスの契約者、または承認者。

アウトソース情報を追加するためのコマンド例

アウトソースパラメータの値を提供するには、次のようなコマンドを入力します。**omconfig system assetinfo info=outsorce <名前 = 値のペア 2>** または **omconfig servermodule assetinfo info=outsorce <名前 = 値のペア 2>**。たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=outsorce providerfee=75
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=outsorce  
providerfee=75
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

「名前 = 値」のペア 2 のパラメータすべてが「名前 = 値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。163 ページの「取得情報を追加するためのコマンド例」の例を参照してください。

所有者情報の追加

所有者はシステムの法的所有権を有する当事者を指します。表 5-8 には、所有者情報の追加に有効なパラメータが一覧表示されています。

表 5-8. **omconfig system assetinfo info=owner** または **omconfig servermodule assetinfo info=owner** のパラメータ

コマンド レベル 1	コマンドレ ベル 2	コマンド レベル 3	「名前 = 値」 のペア 1	「名前 = 値」 のペア 2	説明
omconfig	system または servermodule	assetinfo	info= owner		
				insuranceco= <会社>	システムを保証する 保険会社名。
				ownername= <ビジネス>	システムを所有する 会社名。
				type=owned leased rented	ユーザーがシステム を所有しているか、 リースか、レンタル かの分類。

所有者情報を追加するためのコマンド例

所有者パラメータの値を提供するには、次のようなコマンドを入力します。

omconfig system assetinfo info=owner <名前 = 値のペア 2> または
omconfig servermodule assetinfo info=owner <名前 = 値のペア 2>。
たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=owner type=rented
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=owner type=rented
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

「名前 = 値」のペア 2 のパラメータすべてが「名前 = 値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。163 ページの「取得情報を追加するためのコマンド例」の例を参照してください。

サービス契約情報の追加

サービス契約とは、システムの予防的なメンテナンス作業と修理にかかる手数料を指定する契約です。表 5-9 には、契約情報の追加に有効なパラメータが一覧表示されています。

表 5-9. **omconfig system assetinfo info=service** または **omconfig servermodule assetinfo info=service** のパラメータ

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前 = 値」のペア 1	「名前 = 値」のペア 2	説明
omconfig	system または servermodule	assetinfo	info=	service	
			renewed=	true false	サービス契約が更新されたかどうか。
			type=	<文字列>	契約でカーバされるサービスのタイプ
			vendor=	<ビジネス>	システムのサービスを 提供する企業。

サービス情報を追加するためのコマンド例

減価償却パラメータの値を提供するには、次のようなコマンドを入力します。

omconfig system assetinfo info=service <名前 = 値のペア 2> または
omconfig servermodule assetinfo info=service <名前 = 値のペア 2>。

たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=service vendor=
fixsystemco
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=service vendor=
fixsystemco
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

「名前 = 値」のペア 2 のパラメータすべてが「名前 = 値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。163 ページの「取得情報を追加するためのコマンド例」の例を参照してください。

サポート情報の追加

サポートとは、ユーザーがタスクを実行する際、システムの適切な使用に関するガイダンスを必要とする場合に、システムユーザーが利用できるテクニカル サポートを指します。表 5-10 には、サポート情報の追加に有効なパラメータが一覧表示されています。

表 5-10. **omconfig system assetinfo info=support** または **omconfig servermodule assetinfo info=support** のパラメータ

コマンドレ ベル 1	コマンドレ ベル 2	コマンド レベル 3	「名前 = 値」 のペア 1	「名前 = 値」 のペ ア 2	説明
omconfig	system または servermodule	assetinfo	info= support	automaticfix= <プログラム名>	問題を自動的に解 決するのに使用す るアプリケーション 名。

表 5-10. **omconfig system assetinfo info=support** または **omconfig servermodule assetinfo info=support** (続き) のパラメータ

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前 = 値」のペア 1	「名前 = 値」のペア 2	説明
				helpdesk= <テキスト>	電話番号、電子メールアドレス、またはウェブサイトアドレスなどのヘルプデスクまたは連絡先情報
				outsourced= true false	外部の企業体がテクニカル サポートを提供するか、またはシステム所有者の社員がテクニカル サポートを提供するかを選択。
				type=network storage	サポートがネットワーク付属のデバイス、またはストレージデバイスに対するものであるかどうか。

サポート情報を追加するためのコマンド例

サポート パラメータの値を提供するには、次のようなコマンドを入力します。

omconfig system assetinfo info=lease <名前 = 値のペア 2> または
omconfig servermodule assetinfo info=lease <名前 = 値のペア 2>。
 たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=support outsourced=true
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=support  
outsourced=true
```

次のメッセージが表示されます。

```
資産情報は正常に設定されました。
```

「名前 = 値」のペア 2 のパラメータすべてが「名前 = 値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。163 ページの「取得情報を追加するためのコマンド例」の例を参照してください。

システム情報の追加

システム情報には、システムのプライマリユーザー、プライマリユーザーの電話番号、およびシステムの設置場所が含まれます。表 5-11 には、システム情報の追加に有効なパラメータが一覧表示されています。

表 5-11. **omconfig system assetinfo info=system** または **omconfig servermodule assetinfo info=system** のパラメータ

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前 = 値」のペア 1	「名前 = 値」のペア 2	説明
omconfig		system または servermodule	assetinfo	info=system	
			location=		システム所在地
			<テキスト>		
			primaryphone=		システムのプライマリユーザーの電話番号。
			<n>		
			primaryuser=		システムのプライマリユーザー。
			<ユーザー>		

システム情報を追加するためのコマンド例

システム パラメータの値を提供するには、次のようなコマンドを入力します。
omconfig system assetinfo info=system <名前 = 値のペア 2> または
omconfig servermodule assetinfo info=system <名前 = 値のペア 2>. たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=system location=firstfloor
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=system location=firstfloor
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

「名前 = 値」のペア 2 のパラメータすべてが「名前 = 値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。163 ページの「取得情報を追加するためのコマンド例」の例を参照してください。

保証情報の追加

omconfig system warranty または **omconfig servermodule warranty** コマンドを使うと、保証情報に値を割り当てることができます。保証は、製造元または販売店とシステム購入者との間で取り交わす契約です。保証では、指定した期間または使用範囲内でどのコンポーネントの修理や交換をカバーするかを特定します。保証延長サービス値の編集方法に関する詳細は、165 ページの「保証延長情報の追加」を参照してください。表 5-12 には、保証情報の追加に有効なパラメータが一覧表示されています。

表 5-12. **omconfig system assetinfo info=warranty** または **omconfig servermodule assetinfo info=warranty** のパラメータ

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	「名前 = 値」のペア 1	「名前 = 値」のペア 2	説明
omconfig	system または servermodule	assetinfo	info=warranty	cost= <コスト>	保証サービスにかかるコスト。
				duration= <期間>	保証を強制する日数または月数。
				enddate= <終了日>	保証サービスの有効期限。
				unit=days months	期間の単位が日数か月数かの選択。

保証情報を追加するためのコマンド例

保証パラメータの値を提供するには、次のようなコマンドを入力します。

omconfig system assetinfo info=warranty <名前 = 値のペア 2> または **omconfig servermodule assetinfo info=warranty <名前 = 値のペア 2>**. たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=warranty unit=days
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=warranty unit=days
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

「名前 = 値」のペア 2 のパラメータすべてが「名前 = 値」のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。163 ページの「取得情報を追加するためのコマンド例」の例を参照してください。

ストレージ管理サービスの使い方

Storage Management コマンドラインインタフェース (CLI) では、オペレーティングシステムのコマンドシェルからの Storage Management の報告、設定および管理機能を実行することが可能になります。また、Storage Management CLI を使用すると、コマンドシーケンスのスクリプトを作成することもできます。

Storage Management CLI は、Dell OpenManage? Server Administrator の **omreport** コマンドと **omconfig** コマンドのオプションを拡張するものです。詳細については、『Dell OpenManage Server Administrator Installation Guide』(Dell OpenManage Server Administrator インストールガイド) および『Dell OpenManage Management Station Software Installation Guide』(Dell OpenManage 管理ステーションソフトウェアインストールガイド) を参照してください。Storage Management の詳細に関しては、Storage Management オンラインヘルプまたは『Dell OpenManage Server Administrator Storage Management User's Guide』(Dell OpenManage Server Administrator Storage Management ユーザーズガイド) を参照してください。

CLI のコマンド構文

Server Administrator の全コマンドと同様に、**omreport** と **omconfig** のコマンド構文はコマンドのレベルの指定で構成されています。最初のコマンドレベルはコマンド名 **omreport** または **omconfig** です。次に続くコマンドレベルでは、コマンドが処理するオブジェクトの種類や、コマンドが表示する情報に関するより細かい指定を提供します。

たとえば、次の **omconfig** コマンド構文には 3 つのレベルがあります。

```
omconfig storage pdisk
```

表 6-1 では、これらのコマンドレベルについて説明します。

表 6-1. コマンドレベルの例

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	用途
omconfig			コマンドを指定します。
	storage		コマンドを実装する Server Administrator のサービス (この場合は Storage Management) を示します。
		pdisk	コマンドの対象となるオブジェクトの種類を指定します。

omreport と **omconfig** のコマンド構文では、コマンドレベルに続いて、「名前 = 値」のペアが 1 つまたは複数必要になることがあります。「名前 = 値」のペアは、コマンドが実装するオブジェクト自体（特定の物理ディスクなど）またはオプション（`blink` または `unblink`）を指定します。

たとえば、物理ディスクを点滅させる次の **omconfig** コマンド構文には、3 つのレベルと 3 つの「名前 = 値」のペアがあります。

```
omconfig storage pdisk action=blink controller=id
pdisk=< 物理ディスク ID>
```

ここでは、`PDISKID=< コネクタ:エンクロージャ ID: ターゲット ID | コネクタ: ターゲット ID>` です。

この例では、`controller=id` の `id` はコントローラ番号で、コントローラ 1 は `controller=1` と指定されます。

必須、オプション、変数のコマンド 要素の構文

omreport および **omconfig** コマンドには、複数の「名前 = 値」のペアがあります。これらの「名前 = 値」ペアには、必須、オプション、および変数のパラメータが含まれる場合があります。表 6-2 では、これらのパラメータを指示する構文を説明しています。

表 6-2. パラメータの構文

構文	説明
<code>controller=id</code>	omreport storage controller コマンドによって報告されるコントローラ ID を示します。これらの値を取得するには、 <code>omreport storage controller</code> と入力してコントローラ ID を表示してから、 <code>omreport storage pdisk controller=id</code> と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。 例えば、 controller=id パラメータは controller=1 と指定されます。
<code>connector=id</code>	omreport コマンドによって報告されるコネクタ ID を示します。これらの値を取得するには、 <code>omreport storage controller</code> と入力してコントローラ ID を表示してから、 <code>omreport storage connector controller=id</code> と入力し、コントローラに接続しているコネクタの ID を表示します。 例えば、 connector=id パラメータは connector=2 と指定されます。

表 6-2. パラメータの構文（続き）

構文	説明
<code>vdisk=id</code>	<p>omreport コマンドによって報告される仮想ディスク ID を示します。これらの値を取得するには、<code>omreport storage controller</code> と入力してコントローラ ID を表示してから、<code>omreport storage vdisk controller=id</code> と入力し、コントローラ上の仮想ディスクの ID を表示します。</p> <p>例えば、vdisk=id パラメータは vdisk=3 と指定されます。</p>
<code>enclosure=< エンクローチャ ID></code>	<p>enclosure=connector または enclosure=connector:enclosureID のどちらかを指定することで、特定のエンクローチャを示します。</p> <p>これらの値を取得するには、<code>omreport storage controller</code> と入力してコントローラ ID を表示してから、<code>omreport storage enclosure controller=id</code> と入力し、コントローラに接続しているエンクローチャの ID を表示します。</p>
<code>pdisk=< 物理ディスク ID></code>	<p>connector:targetID または connector:enclosureID:portID のどちらかで指定することによって、特定の物理ディスクを示します。</p> <p>コネクタ、エンクローチャ、および物理ディスクの値（ターゲット ID）を取得するには、<code>omreport storage controller</code> を入力してコントローラ ID を表示してから、<code>omreport storage pdisk controller=id</code> と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。</p>
<code>battery=id</code>	<p>omreport コマンドによって報告されるバッテリー ID を示します。この値を取得するには、<code>omreport storage controller</code> と入力してコントローラの ID を表示してから、<code>omreport storage battery controller=id</code> と入力し、コントローラのバッテリーの ID を表示します。</p>
<code><></code>	<p>キャレット記号 (<>) は、指定すべき変数要素を囲みます。</p> <p>例えば、name=< 文字列 > パラメータは name=VirtualDisk1 のように指定します。</p>
<code>[]</code>	<p>ブラケット記号 ([]) は指定するかしないかを選択できるオプションの要素を示します。</p> <p>たとえば、仮想ディスクを作成する場合、[name=< 文字列 >] パラメータは仮想ディスク名を指定するかどうかを選択できるという意味です。このパラメータを構文から省略すると、仮想ディスクのデフォルト名が選択されます。</p>
<code> </code>	<p>パイプ記号 () は、複数のオプションから 1 つだけを選択する場合に、オプションを区切ります。</p> <p>例えば、仮想ディスクを作成する場合、cachepolicy=d c はキャッシュポリシーを cachepolicy=d または cachepolicy=c のいずれかに指定することを示します。</p>

omreport storage と omconfig storage のユーザー特権

Storage Management で **omconfig storage** コマンドを使用するには、システム管理者権限が必要です。**omreport storage** コマンドを使用するには、ユーザー権限とパワーユーザー権限で十分です。

omreport storage コマンド

omreport コマンドで、ストレージシステムの一部であるディスク、コントローラ、エンクロージャ、バッテリー、グローバルストレージプロパティ、コネクタ、および CacheCade のストレージコンポーネント情報を表示できます。この章では必要な詳細レベルを備えたレポートの取得方法について説明します。

この章に記述したコマンドは、特定 **omreport** コマンドの結果に表示されるフィールドを定義するかどうかで異なります。フィールドは特別な用法や、あまり知られていない用法がある場合にのみ定義されています。

次の項では、各種ストレージコンポーネントの情報を表示するために必要な **omreport** コマンド構文について説明します。

omreport storage の有効なコマンドのリストを表示するには、次のように入力します。

```
omreport storage -?
```

表 7-1 では、**omreport storage** コマンド構文を提供しています。

表 7-1. omreport storage help の構文

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	用途
omreport			
	storage		omreport コマンドを使用できるストレージコンポーネントのリストを表示します。
		pdisk	omreport storage pdisk パラメータのリストを表示し、物理ディスク情報を表示します。
		vdisk	omreport storage vdisk パラメータのリストを表示し、仮想ディスク情報を表示します。
		contorller	omreport storage controller パラメータのリストを表示し、コントローラ情報を表示します。
		enclosure	omreport storage enclosure パラメータのリストを表示し、エンクロージャ情報を表示します。
		バッテリー	omreport storage battery パラメータのリストを表示し、バッテリー情報を表示します。
		globalinfo	omreport storage globalinfo パラメータのリストを表示し、グローバルストレージ情報を表示します。

表 7-1. **omreport storage help** の構文 (続き)

コマンドレ ベル 1	コマンドレ ベル 2	コマンドレ ベル 3	用途
		connector	omreport storage connector パラメータのリストを表示し、コネクタ情報を表示します。
		cachecade	omreport storage cachecade パラメータのリストを表示し、CacheCade プロパティを表示します。

omreport 物理ディスク状態

表 7-2 では、**omreport physical disk** コマンドの構文について説明します。

表 7-2. **omreport Physical Disk** コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3) と「名前 = 値」のペア	オプション「名前 = 値」のペア	用途
omreport storage pdisk	controller=id <i>id</i> はコントローラ番号です。 例 : controller=0	指定したコントローラに接続している物理ディスクをすべて表示します。 メモ : メンバー交換操作の一環として 1 台の物理ディスクが別の物理ディスクで交換された場合、その物理ディスクの状態は 交換中 として表示されます。
	vdisk=id <i>id</i> は仮想ディスク番号です。 例 : vdisk=1	コントローラ上の指定した仮想ディスクに含まれている物理ディスクをすべて表示します。
	cachecade=id <i>id</i> は CacheCade 番号です。 例 : cachecade=1	コントローラ上の指定された CacheCade に含まれている物理ディスクをすべて表示します。
	connector=id <i>id</i> はコネクタ番号です。 例 : connector=1	コントローラ上の指定したコネクタに接続している物理ディスクをすべて表示します。

表 7-2. omreport Physical Disk コマンド (続き)

必要なコマンドレベル (1, 2, 3) と「名前 = 値」のペア	オプション「名前 = 値」のペア	用途
	pdisk=connectorID : targetID connectorID : enclosureID : slotID	コントローラ上の指定した コネクタの指定した物理 ディスクを表示します。
	ただし、connectorID:targetID は コネクタ番号と物理ディスク番号で、 connectorID:enclosureID:slotID はコネクタ番号、エンクロージャ番 号、およびスロット番号です。 例 : pdisk=0:2 or pdisk=0:1:2	

omreport 仮想ディスク状態

表 7-3 では、**omreport virtual disk** コマンドの構文について説明します。

表 7-3. omreport Virtual Disk コマンド

必要なコマンドレベル (1, 2, 3)	オプション「名前 = 値」のペア	用途
omreport storage vdisk		コントローラ上のすべての仮想 ディスクのプロパティ情報を表 示します。
	controller=id <i>id</i> はコントローラ番号です。 例 : controller=0	指定したコントローラ上のすべ ての仮想ディスクを表示します。
	controller=id vdisk=id <i>id</i> はコントローラ番号と仮想 ディスク番号です。例 : controller=0 vdisk=1.	コントローラ上の指定した仮想 ディスクを表示します。

omreport コントローラ状態

表 7-4 では、**omreport controller** コマンドの構文について説明します。

表 7-4. omreport Controller コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプション「名前 = 値」のペア	用途
omreport storage controller		システムに接続されたすべてのコントローラのプロパティ情報を表示します。
	controller=id <i>id</i> はコントローラ番号です。例：controller=0	指定したコントローラと、それに接続しているエンクロージャ、仮想ディスク、物理ディスクなどのコンポーネントすべてを表示します。
	controller=id info=foreignkeyids	インポートまたはクリア操作ができないようにロックされた外部設定情報を表示します。
	controller=id info=pdslotreport	コントローラ内のエンクロージャの空きスロットおよび占有スロットの詳細を表示します。 メモ： このコマンドは、バックプレーン、SCSI、および SWRAID コントローラ上ではサポートされていません。

omreport エンクロージャ状態

表 7-5 では、**omreport enclosure** コマンドの構文について説明します。

表 7-5. omreport Enclosure コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプション「名前 = 値」のペア	用途
omreport storage enclosure	controller=id <i>id</i> はコントローラ番号です。 controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> <i>id</i> はコントローラ番号で、<エンクロージャ ID> はエンクロージャ番号です。SCSI コントローラの例 : controller=0 enclosure=2.SAS コントローラの例 : controller=0 enclosure=1:2.	システムに接続されたすべてのエンクロージャのプロパティ情報を表示します。 コントローラに接続されたすべてのエンクロージャを表示します。 指定したエンクロージャとそのコンポーネントを表示します。

次の項では、エンクロージャコマンドの実行に必要な **omreport** ストレージエンクロージャのコマンド構文について説明します。

omreport 温度プローブ状態

表 7-6 では、**omreport probe** コマンドの構文について説明します。

表 7-6. omreport Temperature Probe コマンド

必須なコマンドレベル (1、2、3) および「名前 = 値」のペア	オプション「名前 = 値」のペア	用途
omreport storage enclosure		システムに接続されたすべてのエンクロージャのプロパティ情報を表示します。

表 7-6. omreport Temperature Probe コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3) および「名前 = 値」のペア	オプション「名前 = 値」の ペア	用途
	controller=id enclosure=< エンクロー ジャ ID> info=temps <i>id</i> はコントローラ番号で、 < エンクロージャ ID> はエ ンクロージャ番号です。 SCSI コントローラの例： controller=0 enclosure=2 info=temps.SAS コント ローラの例：controller=0 enclosure=1:2 info= temps.	特定のエンクロージャの温度 プロープについての情報を表 示します。
	controller=id enclosure=< エンクロー ジャ ID> info=temps index=n <i>id</i> はコントローラ番号、 < エンクロージャ ID> はエ ンクロージャ番号で、「n」 は温度プロープの番号です。 例：controller=0 enclosure=2 info=temps index=1	指定したエンクロージャの温 度プロープを表示します。

omreport ファン状態

表 7-7 では、**omreport fan** コマンドの構文について説明します。

表 7-7. omreport ファン状態コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3) と「名前 = 値」のペア	オプション「名前 = 値」のペア	用途
omreport storage enclosure		システムに接続されたす べてのエンクロージャの プロパティ情報を表示し ます。

表 7-7. omreport ファン状態コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)と「名前 = 値」のペア	オプション「名前 = 値」のペア	用途
	controller=id enclosure= <エンクローシャ ID> info=fans <i>id</i> はコントローラ番号で、エンク ローシャ ID はエンクローシャ番号 です。 例 : controller=0 enclosure=2 メモ : SCSI コントローラで は enclosure=<エンクローシャ ID> で指定された ID がコネクタ番 号で、Serial Attached SCSI (SAS) コントローラでは ID は connectorNumber:EnclosureIndex です。	特定のエンクローシャの ファンについての情報を 表示します。
	controller=id enclosure= <エンクローシャ ID>info=fans index=n <i>id</i> はコントローラ番号、エンク ローシャ ID はエンクローシャ番号 で、「n」は温度プローブの番号で す。例 : controller=0 enclosure=2 info=temps index=1	指定したファンを表示し ます。

omreport 電源装置状態

表 7-8 では、**omreport power supply** コマンドの構文について説明します。

表 7-8. omreport Power Supply コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)と「名前 = 値」 のペア	オプション「名前 = 値」のペア	用途
omreport storage enclosure	controller=id enclosure= <エンクローシャ ID> info=pwrsupplies <i>id</i> はコントローラ番号で、エン クローシャ ID はエンクロー シャ番号です。 例 : controller=0 enclosure=2	システムに接続されたすべ てのエンクローシャのプロ パティ情報を表示します。 特定のエンクローシャの電 源装置についての情報を表 示します。

表 7-8. omreport Power Supply コマンド (続き)

必要なコマンドレベル (1、2、3) と「名前 = 値」 のペア	オプション「名前 = 値」のペア	用途
	controller=id enclosure=< エンクロージャ ID> info=pwrsupplies index=n	指定した電源装置を表示し ます。
	<i>id</i> はコントローラ番号、エンク ローージャ ID はエンクロージャ 番号で、「n」は電源装置の番号 です。 例: controller=0 enclosure=2 info=pwrsupplies index=1	

omreport EMM 状態



メモ : EMM ファームウェア間に不一致があると、EMM の状態は低下として表示
されます。

表 7-9 では、**omreport EMM** コマンドの構文について説明します。

表 7-9. omreport EMM コマンド

必要なコマンドレベル (1、 2、3) と「名前 = 値」のペ ア	オプション「名前 = 値」のペ ア	用途
omreport storage enclosure	controller=id enclosure=< エンクロー ージャ ID> info=emms	システムに接続されたすべて のエンクロージャのプロパ ティ情報を表示します。 特定のエンクロージャのエン クロージャ管理モジュール (EMM) についての情報を表 示します。
	<i>id</i> はコントローラ番号で、 エンクロージャ ID はエンク ローージャ番号です。 例 : controller=0 enclosure=2	

表 7-9. omreport EMM コマンド (続き)

必要なコマンドレベル (1、2、3) と「名前 = 値」のペア	オプション「名前 = 値」のペア	用途
	controller=id enclosure=< エンクロージャ ID> info=emms index=n <i>id</i> はコントローラ番号、エンクロージャ ID はエンクロージャ番号で、「n」は EMM の番号です。 例 : controller=0 enclosure=2 info=emms index=1	指定した EMM を表示します。

omreport エンクロージャのスロット占有レポート

表 7-10 では、**omreport enclosure slot occupancy report** コマンドの構文について説明します。

表 7-10. omreport Enclosure Slot Occupancy Report コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3) と「名前 = 値」のペア	オプション「名前 = 値」のペア	用途
omreport storage enclosure	controller=id enclosure=< エンクロージャ ID> info=pdslotreport <i>id</i> はコントローラ番号で、エンクロージャ ID はエンクロージャ番号です。 例 : controller=0 enclosure=2	システムに接続されたすべてのエンクロージャのプロパティ情報を表示します。 特定のエンクロージャの空きスロットおよび使用済みスロットの詳細を表示します。 メモ: このコマンドは、バックプレーン、SCSI、および SWRAID コントローラ上ではサポートされていません。

omreport バッテリー状態

表 7-11 では、**omreport battery** コマンドの構文について説明します。

表 7-11. omreport Battery コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプション「名前 = 値」のペア	用途
omreport storage バッテリー	controller=id <i>id</i> はコントローラ番号です。 例：controller=0 controller=id battery=id <i>id</i> はコントローラ番号です。 例：controller=0	システム上の全コントローラに存在するすべてのバッテリーを表示します（一部のコントローラにはバッテリーがありません）。 指定したコントローラのバッテリーを表示します。 指定したバッテリーを表示します。

omreport グローバル情報（Smart サーマルシャットダウンの状態、ホットスペアプロテクションポリシー）

表 7-12 では、**omreport global information** コマンドの構文について説明します。

表 7-12. omreport Global Information コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプション「名前 = 値」のペア	用途
omreport storage globalinfo		Smart サーマルシャットダウンが有効か無効かを表示します。詳細については、 250 ページの「omconfig グローバル Smart サーマルシャットダウンを有効にする」 を参照してください。 設定したホットスペアプロテクションポリシーを表示します。詳細については、 support.dell.com/manuals にある『Dell OpenManage Server Administrator User's Guide』（Dell OpenManage Server Administrator Storage Management ユーザーズガイド）を参照してください。

omreport コネクタ状態

表 7-13 では、**omreport connector** コマンドの構文について説明します。

表 7-13. omreport Connector コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプション「名前 = 値」のペア	用途
omreport storage connector		システム上のすべてのコントローラに存在するあらゆるコネクタを表示します。 メモ: このコマンドはコントローラ ID が指定されている場合のみ有効です。
	controller=id	指定したコントローラのコネクタを表示します。 <i>id</i> はコントローラ番号です。例： controller=0
	connector=id	指定したコネクタを表示します。 メモ: 冗長パスモードでコネクタをエンクローージャに接続すると、コネクタの 名前 が 論理コネクタ として表示されます。 <i>id</i> はコネクタ番号です。例： connector=0

omreport Cachecade 状態

表 7-14 では、**omreport cachecade** コマンドの構文について説明します。

表 7-14. omreport Cachecade コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプション「名前 = 値」のペア	用途
omreport storage cachecade		全コントローラ上のすべての CacheCade のプロパティ情報を表示します。
	controller=id	指定されたコントローラの上のすべての CacheCade を表示します。 <i>id</i> はコントローラ番号です。例： controller=0
	controller=id cachecade=id	コントローラ上の指定された CacheCade を表示します。 <i>id</i> はコントローラ番号と CacheCade 番号です。例： controller=0 cachecade=1

omconfig storage コマンド

omconfig コマンドを使用すると、物理ディスク、仮想ディスク、コントローラ、エンクロージャ、バッテリー、グローバル情報、コネクタおよび、CacheCadeを設定できます。

次の項では、各種ストレージコンポーネントの状態を表示するために必要な、**omconfig** コマンド構文について説明します。

omconfig storage の有効なコマンドのリストを表示するには、次のように入力します。

```
omconfig storage -?
```

表 8-1 では、**omconfig storage** コマンド構文を説明します。

表 8-1. **omconfig storage** 構文のヘルプ

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	用途
omconfig	storage		omconfig コマンドを使用できるストレージコンポーネントのプロパティを設定します。
		pdisk	物理ディスク設定のための omconfig storage pdisk パラメータのリストを表示します。
		vdisk	仮想ディスク設定のための omconfig storage vdisk パラメータのリストを表示します。
		contorller	コントローラ設定のための omconfig storage controller パラメータのリストを表示します。
		enclosure	エンクロージャ設定のための omconfig storage enclosure パラメータのリストを表示します。
		バッテリー	バッテリー設定のための omconfig storage battery パラメータのリストを表示します。
		globalinfo	グローバルストレージプロパティ設定のための omconfig storage globalinfo パラメータのリストを表示します。

表 8-1. omconfig storage 構文のヘルプ (続き)

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	用途
		connector	コネクタ設定のための omreport storage connector パラメータのリストを表示します。
		cachecade	CacheCade 設定のための omconfig storage cachecade パラメータのリストを表示します。

omconfig 物理ディスクのコマンド

次の項では、物理ディスクタスクを実行するために必要な **omconfig** コマンドについて説明します。

表 8-2. omconfig 物理ディスクのコマンド

必要なコマンドレベル (1, 2, 3)	オプション「名前 = 値」のペア
omconfig storage pdisk	<p>action=blink controller=id pdisk=< 物理ディスク ID></p> <p>action=unblink controller=id pdisk=< 物理ディスク ID></p> <p>action=remove controller=id pdisk=< 物理ディスク ID></p> <p>action=instantsecureerase controller=id pdisk=< PDISKID></p> <p>action=initialize controller=id pdisk=< 物理ディスク ID></p> <p>action=offline controller=id pdisk=< 物理ディスク ID></p> <p>action=online controller=id pdisk=< 物理ディスク ID></p> <p>action=assignglobalhotspare controller=id pdisk=< 物理ディスク ID> assign=< はい いいえ ></p> <p>action=rebuild controller=id pdisk=< 物理ディスク ID></p> <p>action=cancelrebuild controller=id pdisk=< 物理ディスク ID></p> <p>action=cancelreplacemember controller=id pdisk=< 物理ディスク ID></p> <p>action=clear controller=id pdisk=< 物理ディスク ID></p>

表 8-2. **omconfig** 物理ディスクのコマンド (続き)

必要なコマンドレベル オプション「名前 = 値」のペア
(1, 2, 3)

```
action=cancelclear controller=id pdisk=  
< 物理ディスク ID>  
action=enabledevicewritecache controller=id pdisk=  
< 物理ディスク ID>  
action=disabledevicewritecache controller=id pdisk=  
< 物理ディスク ID>  
action=exportlog controller=id pdisk=< 物理ディスク ID>  
action=convertraidtononraid controller=id pdisk=  
< 物理ディスク ID>  
action=convertnonraidtoraid controller=id pdisk=  
< 物理ディスク ID>
```

omconfig 物理ディスクの点滅

コントローラに接続している 1 つまたは複数の物理ディスクのライト（発光ダイオード、すなわち LED ディスプレイ）を点滅させることができます。1 つまたは複数の物理ディスクの LED を点滅させるには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=blink controller=id  
pdisk=< 物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。< 物理ディスク ID> 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 0 の LED を点滅させるには、次のように入力します。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=blink controller=1  
pdisk=0:0
```

- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=blink controller=1
pdisk=0:2:0
```



メモ: SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

omconfig 物理ディスクの点滅解除

コントローラに接続されている 1 つまたは複数の物理ディスクのライト（発光ダイオード、すなわち LED ディスプレイ）を無効化することができます。1 つまたは複数の物理ディスクを点滅解除するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=unblink controller=id
pdisk=< 物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。< **物理ディスク ID** > 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 0 の LED を点滅させるには、次のように入力します。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=unblink controller=1
pdisk=0:0
```

- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=unblink controller=1
pdisk=0:2:0
```



メモ: SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

omconfig 物理ディスクの削除の準備

物理ディスクの削除を準備するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=remove controller=id  
pdisk=< 物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。< **物理ディスク ID** > 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 3 を削除するには、次のように入力します。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=remove controller=1  
pdisk=0:3
```

- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=remove controller=1  
pdisk=0:2:3
```



メモ: SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

omconfig セキュアな物理ディスクのインスタント削除

特定の暗号化ディスク上のデータを削除するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=instantsecureerase  
controller=id pdisk=< 物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。< **物理ディスク ID** > 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 3 上の データを消去するには、次のように入力します。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=instantsecureerase  
controller=1 pdisk=0:3
```
- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=remove controller=1  
pdisk=0:2:3
```



メモ : SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

omconfig 物理ディスクの初期化

物理ディスクを初期化するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=initialize controller=id  
pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。<物理ディスク ID> 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の物理ディスク 4 を初期化するには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=initialize controller=1  
pdisk=4
```

omconfig 物理ディスクのオフライン化

物理ディスクをオフライン化するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=offline controller=id  
pdisk=< 物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。< **物理ディスク ID** > 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 3 をオフラインにするには、次のように入力します。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=offline controller=1  
pdisk=0:3
```

- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=offline controller=1  
pdisk=0:2:3
```



メモ：SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクローチャ 2 に配置されています。

omconfig 物理ディスクのオンライン化

オフラインの物理ディスクをオンラインに戻すには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=online controller=id  
pdisk=< 物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。< **物理ディスク ID** > 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 3 をオンラインにするには、次のように入力します。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=online controller=1  
pdisk=0:3
```
- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=online controller=1  
pdisk=0:2:3
```



メモ : SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

omconfig グローバルホットスペアの割り当て

物理ディスクをグローバルホットスペアに割り当てるには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=assignglobalhotspare  
controller=id pdisk=<物理ディスク ID> assign=yes
```

id はコントローラ ID です。<物理ディスク ID> 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 3 をグローバルホットスペアに割り当てるには、次のように入力します。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=assignglobalhotspare  
controller=1 pdisk=0:3 assign=yes
```
- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=assignglobalhotspare  
controller=1 pdisk=0:2:3 assign=yes
```



メモ : SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

omconfig 物理ディスクの再構成

障害が発生した物理ディスクを再構成するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。ディスクの再構成には、数時間かかることがあります。再構成をキャンセルする必要がある場合は、**再構成のキャンセル** タスクを使用します。物理ディスクの再構成の詳細については、『Dell OpenManage Online Help』（Dell OpenManage オンラインヘルプ）を参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=rebuild controller=id  
pdisk=< 物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。< **物理ディスク ID** > 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 3 を再構築するには、次のように入力します。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=rebuild controller=1  
pdisk=0:3
```

- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=rebuild controller=1  
pdisk=0:2:3
```



メモ : SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

omconfig 物理ディスク再構成のキャンセル

進行中の再構成をキャンセルするには、次の **omconfig** コマンドを使用します。再構成をキャンセルした場合、仮想ディスクは状態が低下したままになります。物理ディスクの再構成のキャンセルの詳細については、『Dell OpenManage Online Help』（Dell OpenManage オンラインヘルプ）を参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=cancelrebuild controller=  
id pdisk=< 物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。<物理ディスク ID> 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 3 の物理ディスク 0 の再構築をキャンセルするには、次のように入力します。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=cancelrebuild controller=1 pdisk=0:3
```

- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=cancelrebuild controller=1 pdisk=0:2:3
```



メモ : SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

omconfig メンバー交換のキャンセル

メンバー交換操作をキャンセルするには、次の **omconfig** コマンドを使用します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=cancelreplacemember controller=id pdisk=<PDISKID>
```

id はコントローラ ID です。<物理ディスク ID> 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 0 に接続されているディスク 0:0:1 上でのメンバー交換操作をキャンセルするには、次のように入力します。

```
omconfig storage pdisk action=cancelreplacemember controller=0 pdisk=0:0:1
```

omconfig 物理ディスクのクリア

次の **omconfig** コマンドを使用すると、物理ディスクからデータまたは設定をクリアできます。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=clear controller=id  
pdisk=< 物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。< **物理ディスク ID** > 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 3 をクリアするには、次のように入力します。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=clear controller=1 pdisk=  
0:2:3
```

omconfig 物理ディスククリアのキャンセル

次の **omconfig** コマンドを使用して、物理ディスクで進行中のクリア操作をキャンセルできます。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=cancelclear controller=id  
pdisk=< 物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。< **物理ディスク ID** > 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 3 のクリアをキャンセルしたいとします。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

この例で説明された物理ディスクのクリアをキャンセルするには、次のように入力します。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=cancelclear controller=1
pdisk=0:2:3
```

omconfig デバイスの書き込みキャッシュの有効化

次の **omconfig** コマンドを使用して、PCIe SSD コントローラの物理ディスクでの書き込みキャッシュを有効にします。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=cancelreplacemember
controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。<物理ディスク ID> 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 3 上で書き込みキャッシュを有効化するには、次のように入力します。

- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=enabledevicewritecache
controller=1 pdisk=0:2:3
```



メモ: SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

omconfig デバイスの書き込みキャッシュの無効化

次の **omconfig** コマンドを使用して、PCIe SSD コントローラの物理ディスクでの書き込みキャッシュを無効にします。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=disabledevicewritecache
controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。<物理ディスク ID> 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 3 上で書き込みキャッシュを無効化するには、次のように入力します。

- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=disabledevicewritecache  
controller=1 pdisk=0:2:3
```



メモ : SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクローチャ 2 に配置されています。

omconfig 信頼性ログのエクスポート

次の **omconfig** コマンドを使用して、物理ディスク、または PCIe SSD コントローラのログをエクスポートします。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=exportlog controller=id  
pdisk=< 物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。< **物理ディスク ID** > 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 3 のログをエクスポートするには、次のように入力します。

- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=exportlog controller=1  
pdisk=0:2:3
```

omconfig RAID を非 RAID に変換

次の **omconfig** コマンドを使用して、物理ディスク上の RAID を非 RAID に変換します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=convertraidtononraid  
controller=id pdisk=< 物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。< **物理ディスク ID** > 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

 **メモ** : 所定のコントローラで複数の RAID を非 RAID に変換するには、**omconfig storage controller action=convertraidtononraid** コマンドを使用します。詳細については、242 ページの「omconfig 複数の RAID を非 RAID に変換」を参照してください。

構文例

コントローラのコネクタ 0 の物理ディスク 3 で RAID を非 RAID に変換するには、次のように入力します。

- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=raidtononraid
controller=1 pdisk=0:2:3
```

 **メモ** : SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

omconfig 非 RAID を RAID に変換

次の **omconfig** コマンドを使用して、物理ディスク上の非 RAID を RAID に変換します。

完全な構文

```
omconfig storage pdisk action=convertnonraidtoraid
controller=id pdisk=<物理ディスク ID>
```

id はコントローラ ID です。<物理ディスク ID> 変数は、物理ディスクを指定します。

これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している物理ディスクの ID を表示します。

 **メモ** : 所定のコントローラで複数の非 RAID を RAID に変換するには、**omconfig storage controller action=convertnonraidtoraid** コマンドを使用します。詳細については、242 ページの「omconfig 複数の非 RAID を RAID に変換」を参照してください。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 3 で非 RAID を RAID に変換するには、次のように入力します。

- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage pdisk action=nonraidtoraid controller=
1 pdisk=0:2:3
```

 **メモ** : SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

omconfig 仮想ディスクのコマンド

次の項では、仮想ディスクタスクを実行するために必要な **omconfig** コマンドについて説明します。

△ **注意** : `omconfig storage vdisk action=deletevdisk controller=id vdisk=id` コマンドは仮想ディスクを削除します。仮想ディスクを削除すると、仮想ディスク上のファイルシステムやボリュームをはじめ、すべての情報が破壊されます。

表 8-3. omconfig 仮想ディスク管理のコマンド

必要なコマン オプション「名前 = 値」のペア
ドレベル
(1, 2, 3)

omconfig

storage vdisk

```
action=checkconsistency controller=id vdisk=id
action=cancelcheckconsistency controller=id vdisk=id
action=pausecheckconsistency controller=id vdisk=id
action=resumecheckconsistency controller=id vdisk=id
action=blink controller=id vdisk=id
action=unblink controller=id vdisk=id
action=initialize controller=id vdisk=id
action=fastinit controller=id vdisk=id [force=yes]
action=slowinit controller=id vdisk=id [force=yes]
action=cancelinitialize controller=id vdisk=id
action=cancelbginitialize controller=id vdisk=id
action=assignededicatedhotspare controller=id vdisk=id pdisk=
<PDISKID> assign=< はい | いいえ >
action=deletevdisk controller=id vdisk=id [force=yes]
action=format controller=id vdisk=id
action=reconfigure controller=id vdisk=id raid=<<c | r0 | r1 | r1c |
r5 | r10> pdisk=<PDISKID> [size=< サイズ > vdcapacityexpansion=
yes sizeinpercent=<1 ~ 100>]
action=securevd controller=id vdisk=id
action=clearvdbadblocks controller=id vdisk=id
action=changepolicy controller=id vdisk=id [readpolicy=<ra |
nra | ara | rc | nrc> | writepolicy=<wb | wt | wc | nwc | fw> |
cachepolicy=<d | c>] diskcachepolicy=< 有効 | 無効 >
omconfig action=replacememberdisk controller=id vdisk=id source=
storage vdisk <PDISKID> destination=<PDISKID>
(続き)
action=rename controller=id vdisk=id
```

omconfig 整合性チェック

仮想ディスクの整合性確認を開始するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。整合性確認タスクは、仮想ディスクの冗長データを確認します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=checkconsistency  
controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の整合性確認を実行するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=checkconsistency  
controller=1 vdisk=4
```

omconfig 整合性チェックのキャンセル

整合性チェックの処理中にキャンセルするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=cancelcheckconsistency  
controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の整合性確認をキャンセルするには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=cancelcheckconsistency  
controller=1 vdisk=4
```


omconfig 整合性チェックの一時停止

進行中の整合性チェックを一時停止するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。**整合性チェックの一時停止** の詳細については、『Dell OpenManage Online Help』（Dell OpenManage オンラインヘルプ）を参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=pausecheckconsistency  
controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の整合性確認を一時停止するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=pausecheckconsistency  
controller=1 vdisk=4
```

omconfig 整合性チェックの再開

整合性チェックを一時停止した後で再開するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=resumecheckconsistency  
controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の整合性確認を再開するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=resumecheckconsistency  
controller=1 vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクの点滅

仮想ディスクに含まれる物理ディスクを点滅させるには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=blink controller=id
vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

たとえば、コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の物理ディスクを点滅させるには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=blink controller=1
vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクの点滅解除

仮想ディスクに含まれる物理ディスクを点滅解除するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=unblink controller=id
vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

たとえば、コントローラ 1 の仮想ディスク 4 にある物理ディスクの点滅を解除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=unblink controller=1
vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクの初期化

仮想ディスクを初期化するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=initialize controller=id
vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 を初期化するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=initialize controller=1
vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクの高速初期化

仮想ディスクを高速初期化するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

△ **注意**：システムまたはブートパーティションを削除しようとする、警告メッセージが表示されることがあります。ただし、この警告メッセージは、常に生成されるわけではありません。このコマンドを使用して、システム、ブートパーティションまたはその他の重要なデータを削除しないようにしてください。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=fastinit controller=id
vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

このコマンドによってシステムまたはブートパーティションが削除される場合は、警告メッセージが表示されることがあります。**force=yes** パラメータを使うと、この警告をオーバーライドできます。この場合、構文は次のようになります。

```
omconfig storage vdisk action=fastinit controller=id
vdisk=id force=yes
```

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 を高速初期化するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=fastinit controller=1
vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクの低速初期化

仮想ディスクを低速初期化するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

△ **注意**：システムまたはブートパーティションを削除しようとする時、警告メッセージが表示されることがあります。ただし、この警告メッセージは、常に生成されるわけではありません。このコマンドを使用して、システム、ブートパーティションまたはその他の重要なデータを削除しないようにしてください。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=slowinit controller=id
vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

このコマンドによってシステムまたはブートパーティションが削除される場合は、警告メッセージが表示される場合があります。**force=yes** パラメータを使うと、この警告をオーバーライドできます。この場合、構文は次のようになります。

```
omconfig storage vdisk action=slowinit controller=id
vdisk=id force=yes
```

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 を低速初期化するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=slowinit controller=1
vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクの初期化のキャンセル

仮想ディスクの初期化をキャンセルするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=cancelinitialize  
controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の初期化をキャンセルするには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=cancelinitialize  
controller=1 vdisk=4
```

omconfig バックグラウンドの初期化のキャンセル

仮想 ディスクのバックグラウンドの初期化処理をキャンセルするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=cancelbginitialize  
controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 のバックグラウンドの初期化をキャンセルするには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=cancelbginitialize  
controller=1 vdisk=4
```

omconfig 専用ホットスペアの割り当て

1 つまたは複数の物理ディスクを専用ホットスペアとして仮想ディスクに割り当てるには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=assigndedicatedhotspare  
controller=id vdisk=id pdisk=<物理ディスク ID> assign=yes
```

id はコントローラ ID と仮想ディスク ID です。<物理ディスク ID> 変数は、物理ディスクを指定します。

コントローラ、仮想ディスク、および物理ディスクの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** そして **omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクと物理ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 3 を専用ホットスペアとして仮想ディスク 4 に割り当てるには、次のように入力します。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合

```
omconfig storage vdisk action=assigndedicatedhotspare  
controller=1 vdisk=4 pdisk=0:3 assign=yes
```

- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage vdisk action=assigndedicatedhotspare  
controller=1 vdisk=4 pdisk=0:2:3 assign=yes
```



メモ: SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

omconfig 仮想ディスクの削除

仮想ディスクを削除するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。



注意: 仮想ディスクを削除すると、仮想ディスク上のファイルシステムやボリュームをはじめ、すべての情報が破壊されます。システムまたはブートパーティションを削除しようとする、警告メッセージが表示されることがあります。ただし、この警告メッセージは、常に生成されるわけではありません。このコマンドを使用して、システム、ブートパーティションまたはその他の重要なデータを削除しないようにしてください。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=deletevdisk controller=id  
vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

このコマンドによってシステムまたはブートパーティションが削除される場合は、警告メッセージが表示される場合があります。**force=yes** パラメータを使うと、この警告をオーバーライドできます。この場合、構文は次のようになります。

```
omconfig storage vdisk action=deletevdisk controller=id
vdisk=id force=yes
```

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 を削除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=deletevdisk controller=1
vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクのフォーマット

仮想ディスクをフォーマットするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=format controller=id
vdisk=id
```

ここで、*id* は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 をフォーマットするには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=format controller=1
vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクの再設定

仮想ディスクの RAID レベルを変更したり、物理ディスクの追加または空き容量を使用することでディスクのサイズを増やしたりと、仮想ディスクを再設定できます。コントローラによっては、物理ディスクを削除することもできます。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=reconfigure controller=id
vdisk=id raid=<c| r0| r1| r1c| r5| r6| r10> pdisk=
<PDISK> [size=<サイズ> vdcapacityexpansion=yes
sizeinpercent=<1 ~ 100>]
```

構文例

仮想ディスク 4 を 800 MB のサイズに再設定するには、RAID 5 と、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 0 ~ 3 を使用します。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合

```
omconfig storage vdisk action=reconfigure controller=1
vdisk=4 raid=r5 size=800m pdisk=0:0,0:1,0:2,0:3
```

- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage vdisk action=reconfigure controller=1
vdisk=4 raid=r5 pdisk=0:2:0,0:2:1,0:2:2,0:2:3
```



メモ: SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

構文例

空き容量を使用して仮想ディスクのサイズを 20% 増加するには、RAID 5 と、コントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 0 ~ 3 を使用します。

- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage vdisk action=reconfigure controller=1
vdisk=4 raid=r5 pdisk=0:2:0,0:2:1,0:2:2,0:2:3
vdcapacityexpansion=yes sizeinpercent=20
```



メモ: **vdcapacityexpansion** パラメータは、PERC H700 および PERC H800 コントローラでのみ、サポートされています。**vdcapacityexpansion=yes** と設定する場合、**sizeinpercent** を指定します。**vdcapacityexpansion** を設定しない場合、**size** を指定します。



メモ: SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

omconfig 仮想ディスクのセキュア化

仮想ディスクを暗号化するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=securevd controller=id
vdisk=id
```


ここで、*id* は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の物理ディスク 4 を暗号化するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=securevd controller=1
vdisk=4
```

omconfig による仮想ディスクの不良ブロックのクリア

仮想ディスクの不良ブロックをクリアするには、**omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=clearvdbadblocks
controller=id vdisk=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。コントローラ ID と仮想ディスク ID の値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

たとえば、コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の不良ブロックをクリアするには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=clearvdbadblocks
controller=1 vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクポリシーの変更

仮想ディスクの読み取り、書き込み、またはキャッシュのポリシーを変更するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=changepolicy controller=
id vdisk=id [diskcachepolicy=<有効 | 無効> | readpolicy=
<ra | nra | ara | rc | nrc> | writepolicy=<wb | wt | wc | nwc> |
fwb> cachepolicy=<d | c>]
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

コントローラ固有のディスクキャッシュ、読み取り、書き込み、キャッシュポリシーの詳細については、『Dell OpenManage Online Help』（Dell OpenManage オンラインヘルプ）を参照してください。**omconfig** コマンドを使ってこれらのパラメータを指定する方法については、次を参照してください。

- **[readpolicy=<ra| nra| ara| rc| nrc>]** パラメータ（オプション）
- **[writepolicy=<wb| wt| wc| nwc | fwb>]** パラメータ（オプション）
- **[cachepolicy=<d | c>]** パラメータ（オプション）
- **[diskcachepolicy=<有効| 無効 >]** パラメータ（オプション）

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の読み取りポリシーを先読みなしに変更するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=changepolicy controller=1
vdisk=4 readpolicy=nra
```

omconfig メンバー仮想ディスクの交換

任意の仮想ディスクのメンバーを宛先ディスクと交換するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=replacememberdisk
controller=id vdisk=id source=<PDISKID> destination=
<PDISKID>
```

id はコントローラ ID と仮想ディスク ID です。<物理ディスク ID> 変数は、物理ディスクを指定します。

コントローラ、仮想ディスク、および物理ディスクの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** そして **omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクと物理ディスクの ID を表示します。

構文例

この例では、仮想ディスク 4 のコントローラ 1 のコネクタ 0 にある物理ディスク 3 を、物理ディスク 5 と交換します。シリアルアタッチド SCSI (SAS) コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 にあります

この例で説明したメンバーディスクを交換するには、次のように入力します。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合

```
omconfig storage vdisk action=replacememberdisk
controller=1 vdisk=4 source=0:3 destination=0:5
```

- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage vdisk action=replacememberdisk
controller=1 vdisk=4 source=0:2:3 destination=0:2:5
```



メモ: SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 に配置されています。

omconfig 仮想ディスクの名前の変更

仮想ディスクの名前を変更するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage vdisk action=rename controller=id vdisk=
id name=< 文字列 >
```

ここで、**id** は **omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID、<文字列> は仮想ディスクの新しい名前です。コントローラ ID と仮想ディスク ID の値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続している仮想ディスクの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の名前を **vd4** に変更するには、次のように入力します。

```
omconfig storage vdisk action=rename controller=1 vdisk=4
name=vd4
```

omconfig コントローラのコマンド

次の項では、コントローラタスクを実行するために必要な **omconfig** コマンドについて説明します。

△ **注意** : **omconfig storage controller action=resetconfig controller=id** は、コントローラの設定をリセットします。コントローラの設定をリセットすると、コントローラに接続している仮想ディスク上のすべてのデータが完全に破壊されます。これらの仮想ディスクに存在するシステムまたはブート可能なパーティションは破壊されます。

表 8-4. omconfig コントローラのコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプション「名前=値」のペア
omconfig ストレージ コントローラ	<pre>action=rescan controller=id action=enablealarm controller=id action=disablealarm controller=id action=quietalarm controller=id action=testalarm controller=id action=resetconfig controller=id [force=yes] action=createvdisk controller=id raid=<c> r0 r1 r1c r5 r6 r10 r50 r60> size=< 数値 b m g 最大 最小 > pdisk=< 物理ディスク ID> [stripesize=< 2kb 4kb 8kb 16kb 32kb 64kb 128kb 256kb 512kb 1mb >] [cachepolicy=<d c>] [readpolicy=<ra nra ara rc nrc>] [writepolicy=<wb wt wc nwc fwb>] [diskcachepolicy=< 無効 有効 >] [name=< 文字列 >] [spanlength=< 数値 >] [secureflag=yes] メモ : ファームウェアバージョン 6.1 以降を持つ SAS コント ローラ上の RAID 10 では、spanlength はオプションパラ メータです (デフォルト=2)。 action=setrebuildrate controller=id rate=<0 ~ 100> action=setchangecontrollerproperties controller=<ID> [bgirate=< 率 >][reconstructrate=< 率 >][checkconsistencyrate=< 率 >][rebuildrate= < 率 >][clearredundantpath= clear][abortcheckconsistencyonerror=< 有効 / 無効 >][loadbalance=< 自動 / 無効 >][allowrevertiblehotspareandreplacemember= enabled/disabled] [autoreplacememberonpredictivefailure= < 有効 / 無効 >][persistenthotspare= enabled/disabled]rate=<0 ~ 100></pre>

表 8-4. omconfig コントローラのコマンド (続き)

必要なコマンドレベル オプション「名前 = 値」のペア
(1, 2, 3)

action=discardpreservedcache controller=id force=
<有効 / 無効>

action=createsecuritykey controller=id keyid=<キー
ID> passphrase=<パスフレーズ文字列> [escrow=yes]
[filepath=<エスクローファイルへの絶対パス>]

メモ : escrow=yes と設定する場合、エスクローファイルへのパスを指定します。

action=changesecuritykey controller=id keyid=<キー
ID> passphrase=<パスフレーズ文字列> oldpassphrase=
<古いパスフレーズ文字列> [escrow=yes] [filepath=
<エスクローファイルへの絶対パス>]

メモ : escrow=yes と設定する場合、エスクローファイルへのパスを指定します。

action=deletesecuritykey controller=id

action=setbgirate controller=id
rate=<0 ~ 100>

action=setreconstructrate controller=id
rate=<0 ~ 100>

action=setcheckconsistencyrate controller=id
rate=<0 ~ 100>

action=exportlog controller=id

action=importsecureforeignconfig controller=id
passphrase=<インポート済み外部設定へのパスフレーズ>

action=importforeignconfig controller=id

action=importrecoverforeignconfig controller=id

action=clearforeignconfig controller=id

action=setdiskpwrmanagement controller=id

spindownunconfigureddrives=<自動 / 無効>
spindownhotspares=<自動 / 無効>
spindownconfigureddrives=<自動 / 無効>
idlec=<自動 / 無効> spindowntimeinterval=
<30 ~ 1440>(minutes) spinupstarttime=
<HH:MM:AM/PM> spinuptimeinterval=
<1 ~ 24>(hours)

メモ : spindownconfigureddrives=enabled と設定する場合にのみ、spinupstarttime および spinuptimeinterval を指定します。

action=setpatrolreadmode controller=id
mode=<手動 | 自動 | 無効>

表 8-4. omconfig コントローラのコマンド (続き)

必要なコマンドレベル (1, 2, 3)	オプション「名前 = 値」のペア
	action=startpatrolread controller=id
	action=stoppatrolread controller=id
	action=createcachecade controller=id pdisk=< 物理ディスク ID> [name=< 文字列 >]
	action=createsecuritykey controller=id keyid=< キー ID> passphrase=< パスフレーズ文字列 > [escrow=yes] [filepath=< エスクローファイルへの絶対パス >]
	メモ : escrow=yes と設定する場合、エスクローファイルへのパスを指定します。
	action=switchtolkm controller=id keyid=< キー ID> passphrase=< パスフレーズ文字列 > [escrow=yes] [filepath=< エスクローファイルへの絶対パス >]
	メモ : escrow=yes と設定する場合、エスクローファイルへのパスを指定します。
	action=rekeylkm controller=id
	action=convertraidtononraid controller=id pdisk=< 物理ディスク ID>
	action=convertnonraidtoraid controller=id pdisk=< 物理ディスク ID>

omconfig コントローラの再スキャン

コントローラを再スキャンするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。詳細は、『Dell OpenManage Online Help』（Dell OpenManage オンラインヘルプ）を参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=rescan controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 を再スキャンするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=rescan controller=1
```



メモ: 再スキャンコントローラは、非 RAID SCSI および SAS コントローラではサポートされていません。非 RAID SCSI コントローラで設定の変更内容が表示されるようにシステムを再起動します。

omconfig コントローラ警告を有効にする

コントローラ警告を有効にするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。コントローラ警告を有効にする情報については、『Dell OpenManage Online Help』（Dell OpenManage オンラインヘルプ）を参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=enablealarm  
controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 の警告を有効にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=enablealarm  
controller=1
```

omconfig コントローラ警告を無効にする

コントローラ警告を無効にするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。コントローラ警告を無効にする情報については、『Dell OpenManage Online Help』（Dell OpenManage オンラインヘルプ）を参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=disablealarm  
controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 の警告を無効にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=disablealarm  
controller=1
```

omconfig コントローラ警告の静止

アクティブなコントローラ警告を静止にするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。詳細は、『Dell OpenManage IT Assistant Online Help』（Dell OpenManage IT Assistant オンラインヘルプ）を参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=quietalarm  
controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 の警告を静止するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=quietalarm  
controller=1
```

omconfig コントローラ警告のテスト

コントローラ警告の機能性をテストするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。アラームが約 2 秒間鳴ります。コントローラ警告のテストの詳細については、『Dell OpenManage Online Help』（Dell OpenManage オンラインヘルプ）を参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=testalarm  
controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 の警告をテストするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=testalarm
controller=1
```

omconfig コントローラ設定のリセット

コントローラの設定をリセットするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

△ **注意**：設定をリセットすると、コントローラに接続している仮想ディスク上のすべてのデータが完全に破壊されます。これらの仮想ディスクに存在するシステムまたはブート可能なパーティションは破壊されます。このコマンドによってシステムまたはブートパーティションが削除される場合は、警告メッセージが表示されることがあります。ただし、この警告メッセージは、常に生成されるわけではありません。このコマンドを使用して、システム、ブートパーティションまたはその他の重要なデータを削除しないでください。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=resetconfig
controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

このコマンドによってシステムまたはブートパーティションが削除される場合は、警告メッセージが表示される場合があります。**force=yes** パラメータを使うと、この警告をオーバーライドできます。この場合、構文は次のようになります。

```
omconfig storage controller action=resetconfig
controller=id force=yes
```

構文例

コントローラ 1 の設定をリセットにするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=resetconfig
controller=1
```

omconfig 仮想ディスクの作成

『Dell OpenManage Online Help』（Dell OpenManage オンラインヘルプ）には、仮想ディスクの作成の詳細が含まれています。

仮想ディスクを作成するための **omconfig** 構文には複数のパラメータがあります。次のパラメータを指定する必要があります。

- **コントローラ (controller=id)**
- **RAID レベル (raid=<c| r0| r1| r1c| r5|r6| r10| r50|r60>)**

- **サイズ (size=< 数値 | 最大 | 最小 >)**

物理ディスクは次のどちらかの方法で指定されます。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合
pdisk=connector:enclosureID:targetID

ここで、*connector:enclosureID:targetID* は コネクタ番号、エンクロージャ番号およびスロット番号です。

例、*pdisk=0:1:2*

- SAS コントローラの場合
pdisk=connector: ターゲット ID

ここで、*connectorID:targetID* は コネクタ番号とスロット番号です。たとえば、**pdisk=0:2**

その他のパラメータについては、指定しなければ Storage Management によってデフォルト値が設定されます。

暗号化された仮想ディスクを作成するには、**secureflag=yes** を指定します。暗号化済み仮想ディスクは、**SED** ドライブでしか作成できません。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=createvdisk
controller=id raid=<c | r0 | r1 | r1c | r5 | r6 | r10 | r50
|r60> size=< 数値 | 最大 | 最小 > pdisk=<PDISKID>
[stripesize=< 2kb | 4kb | 8kb | 16kb | 32kb | 64kb |
128kb>] [cachepolicy=<d | c>] [diskcachepolicy=< 無効
| 有効 >] [readpolicy=<ra | nra | ara | rc | nrc>]
[writepolicy=<wb | wt | wc | nwc | fwb>] [name=<文字列>]
[spanlength=<n>] | [secureflag=yes]
```



メモ：ファームウェアバージョン 6.1 以降を持つ SAS コントローラ用の RAID 10 を構成する場合、**spanlength** は任意選択パラメータです（デフォルト =2）。**Spanlength** は、**size** で指定した物理ディスク数の半分以下の偶数で指定します。

仮想ディスクの作成と再設定のためのパラメータ指定

次の項では、**omconfig storage controller action=createvdisk** パラメータを指定する方法について説明します。

controller=id パラメータ（必須）

raid=<c| r0| r1| r1c| r5| r6| r10| r50| r60> パラメータ（必須）

size=< 数値 | 最大 | 最小 > パラメータ（必須）

pdisk=<connector:targetID,connector:targetID,.....> パラメータ（必須）

stripesize=< 2kb| 4kb| 8kb| 16kb| 32kb| 64kb| 128kb>] パラメータ (オプション)

[cachepolicy=<d | c>] パラメータ (オプション)

[readpolicy=<ra| nra| ara| rc| nrc>] パラメータ (オプション)

[writepolicy=<wb| wt| wc| nwc | fw>] パラメータ (オプション)

[name=< 文字列 >] パラメータ (オプション)

[spanlength=< 数値 >] パラメータ (オプション)

controller=id パラメータ (必須)

omreport storage controller コマンドによって報告されるコントローラ ID を指定します。例：

```
controller=2
```

raid=<c| r0 | r1 | r1c | r5 | r6 | r10 | r50 | r60> パラメータ (必須)

仮想ディスクの RAID レベルまたは連結を指定するには、**raid=<c| r0| r1| r1c| r5| r6 | r10| r50| r60>** パラメータを使用します。サポートされる RAID レベルはコントローラによって異なります。コントローラがサポートしている RAID レベルと、RAID レベルおよび連結の一般的な情報については、『Dell OpenManage Online Help』(Dell OpenManage オンラインヘルプ) を参照してください。表 8-5 次の表に、各 RAID レベルおよび連結についての **raid=n** パラメータの指定方法を示します。

表 8-5. RAID レベルと連結

RAID レベルまたは連結	raid=n パラメータの指定
RAID-0	raid=r0
RAID-1	raid=r1
RAID-5	raid=r5
RAID-6	raid=r6
RAID-10	raid=r10
RAID-50	raid=r50
RAID-60	raid=r60
RAID-1-連結	raid=r1c
連結	raid=c

size=< 数値 | 最大 | 最小 > パラメータ (必須)

表 8-6 では、**size=< 数値 | 最大 | 最小 >** パラメータを指定する方法については説明します。

表 8-6. Size パラメータ

size=< 数値 最大 最小 >	説明
size=<n>	仮想ディスクの特定なサイズを指示するには、この仕様を使用します。仮想ディスクサイズは b (バイト)、 m (メガバイト)、または g (ギガバイト) で指定します。たとえば、 size=500m は、仮想ディスクが 500MB という意味です。
size=max	可能な最大サイズの仮想ディスクを作成するには、 size=max と指定します。 RAID 50 の仮想ディスクを作成する場合、このパラメータは size=max と指定します。
size=min	可能な最小サイズの仮想ディスクを作成するには、 size=min と指定します。

PDISKID=< コネクタ : エンクロージャ ID: ターゲット ID | コネクタ : ターゲット ID >

仮想ディスクに含める物理ディスクを指定するには、このパラメータを使用します。

仮想ディスクを再構成する場合は、再構成後の仮想ディスクに含める物理ディスクすべてを指定する必要があります。物理ディスクの仕様は、元の仮想ディスクからそのまま再構成後の仮想ディスクに残る物理ディスクと、再構成後の仮想ディスクに新しく追加された新しい物理ディスクすべてに適用されます。コントローラによっては、仮想ディスクから物理ディスクを削除できます。この場合、物理ディスクの削除は指定しないでください。

pdisk=< 物理ディスク ID > パラメーターは、**connector:enclosureID:targetID** または **connector:targetID** のどちらかを指定することによって物理ディスクを示します。

stripesize=< 2kb | 4kb | 8kb | 16kb | 32kb | 64kb | 128kb > パラメータ (オプション)

サポートされるストライプサイズはコントローラによって異なります。コントローラでサポートされるストライプサイズの詳細については、『Dell OpenManage Online Help』(Dell OpenManage オンラインヘルプ)を参照してください。ストライプサイズはすべてキロバイトで指定します。たとえば、ストライプサイズに **128KB** を指定する場合は、次のように入力します。

```
stripesize=128kb
```

[cachepolicy=<d | c>] パラメータ (オプション)

サポートされるキャッシュポリシーはコントローラによって異なります。表 8-7 では、各キャッシュ ポリシーの **[cachepolicy=d | c]** パラメータの指定方法を示します。

表 8-7. キャッシュポリシーのパラメータ

キャッシュポリシー	cachepolicy=d c パラメータ指定
ダイレクト I/O	cachepolicy=d
キャッシュ I/O	cachepolicy=c

[diskcachepolicy=<無効 | 有効>] パラメータ (オプション)

サポートされるキャッシュポリシーはコントローラによって異なります。次の表に、各キャッシュポリシーの **[diskcachepolicy=<無効 | 有効>]** パラメータの指定方法を示します。

表 8-8. ディスクキャッシュポリシーのパラメータ

ディスクキャッシュポリシー	diskcachepolicy= 無効 有効 パラメータ指定
Disabled (無効)	diskcachepolicy= 無効
Enabled (有効)	diskcachepolicy= 有効

[readpolicy=<ra | nra | ara | rc | nrc>] パラメータ (オプション)

サポートされる読み取りポリシーはコントローラによって異なります。表 8-9 では、各読み取りポリシーの **[readpolicy=ra | nra | ara | rc | nrc]** パラメータの指定方法を示します。

表 8-9. 読み取りポリシーのパラメータ

Read Policy (読み取りポリシー)	readpolicy=ra ara nra rc nrc パラメータ指定
先読み	readpolicy=ra
適応先読み	readpolicy=ara
先読みなし	readpolicy=nra
読み取りキャッシュ	readpolicy=rc
読み取りキャッシュなし	readpolicy=nrc

[writepolicy=<wb|wt|wc|nwc>] パラメータ (オプション)

サポートされる書き込みポリシーはコントローラによって異なります。表 8-10 では、各書き込みポリシーの [writepolicy=<wb|wt|wc|nwc|fwb>] パラメータの指定方法を示します。

表 8-10. 書き込み ポリシーのパラメータ

Write Policy (書き込みポリシー)	writepolicy=wb wt wc fwb nwc パラメータ指定
ライトバックのキャッシュ	writepolicy=wb
ライトスルーキャッシュ	writepolicy=wt
書き込みキャッシュ	writepolicy=wc
ライトバックの強制	writepolicy=fwb
書き込みキャッシュなし	writepolicy=nwc

[name=<文字列>] パラメータ (オプション)

仮想ディスクの名前を指定するには、このパラメータを使用します。たとえば、次のとおりです。

```
name=VirtualDisk1
```

[spanlength=<n>] パラメータ (RAID 50 と RAID 60 では必須、RAID 10 では任意選択)

各ストライプに含まれる物理ディスクの数を指定するには、このパラメータを使用します。このパラメータは RAID 50 の仮想ディスクのみに適用します。RAID 50 の仮想ディスクを作成していない場合は、このパラメータを指定しないでください。たとえば、次のとおりです。

```
spanlength=3
```

ファームウェアバージョン 6.1 以降を持つ SAS コントローラ上の RAID 10 では、spanlength は任意選択です。また、spanlength をそれぞれ 32 台の物理ディスクを持つ最大 8 スパンまでの偶数で指定できるようになりました。たとえば、次のとおりです。

```
omconfig storage controller action=createvdisk  
controller=1 raid=r10 size=min pdisk=  
1:1:0,1:1:1,1:1:3,1:1:4,1:1:6,1:1:7,1:1:8,1:1:9  
spanlength=4
```

構文例

PERC 3/QC コントローラに、ストライプサイズ 16 KB で、500MB の RAID-5 仮想ディスクを作成できます。仮想ディスクの名前は **vd1** で、コントローラ 1 のコネクタ 0 に置かれます。仮想ディスクが RAID 5 であることから、少なくとも 3 台の物理ディスクが必要です。この例では、4 台の物理ディスクを指定します。これらは物理ディスク 0 から 3 です。仮想ディスクには先読み、ライトスルーキャッシュ、およびキャッシュ I/O のポリシーがあります。

仮想ディスクを作成するには次を入力します。

```
omconfig storage controller action=createvdisk
controller=1 raid=r5 size=500m pdisk=0:0,0:1,0:2,0:3
stripesize=16kb cachepolicy=c readpolicy=ra
writepolicy=wt
```

コントローラ、RAID レベル、仮想ディスクのサイズ、物理ディスクの選択のためのパラメータのみ指定する必要があります。その他の指定していないパラメータについては、**Storage Management** によってデフォルト値が設定されます。コントローラでサポートされている読み取り、書き込み、およびキャッシュのポリシーの詳細については、『**Dell OpenManage Online Help**』（**Dell OpenManage** オンラインヘルプ）を参照してください。

omconfig コントローラ再構築率の設定

コントローラ再構築率を設定するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=setrebuildrate
controller=id rate=<0 ~ 100>
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 で再構築率を 50 に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=setrebuildrate
controller=1 rate=50
```

omconfig コントローラプロパティの変更

次の **omconfig** コマンドを使って、次のコントローラプロパティをすべてまたは個々に変更できます。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=  
setchangecontrollerproperties controller=<ID> bgirate=<  
率 > reconstructrate=<率 > checkconsistencyrate=<率 >  
rebuildrate=<率 > clearredundantpath=clear  
abortcheckconsistencyonerror=<有効 | 無効 > loadbalance=  
<auto | disabled>  
allowrevertiblehotspareandreplacemember=<有効 | 無効 >  
autoreplacememberonpredictivefailure=<有効 | 無効 >  
persistenthotspare=<有効 | 無効 >
```

構文例

ホットスピアの復帰を有効にし、メンバー交換操作を行うには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=  
setchangecontrollerproperties allowrevertiblehotspare  
andreplacemember=enabled controller=1
```

omconfig 保存キャッシュの破棄

次の **omconfig storage** コマンド構文を使って、コントローラ上の保存キャッシュを破棄できます。



メモ: コントローラに保存キャッシュがあるかどうか確認するには、`omreport storage controller controller=id` と入力します。システムで `Preserved Cache=yes` と表示される場合、保存キャッシュが存在していることを示します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=  
discardpreservedcache controller=id force=enabled |  
disabled
```

`force=enabled` に設定すると、コントローラが外部またはオフラインの仮想ディスクを検出するかどうかにかかわらず、キャッシュが破棄されます。

構文例

保存キャッシュを破棄するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=  
discardpreservedcache controller=1 force=enabled
```



注意: 保存キャッシュを破棄するとデータが失われる可能性があります。このコマンドは `force=disabled` オプションを使用して実行することをお勧めします。



メモ : 外部設定が検知された場合、前記の **force=disabled** オプションを使用したコマンドは失敗します。データロスを防ぐためには、外部設定の内容をインポートし、保存キャッシュをディスクにフラッシュします。保存キャッシュを強制的に破棄するには、外部設定の内容をクリアしてコマンドを実行するか、**force=enabled** オプションを使用してコマンドを実行します。

omconfig 暗号化キーの作成

コントローラの暗号化キーを作成するには、次の **omconfig storage** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=createsecuritykey
controller=id keyid=< キー ID 文字列 > passphrase=< パスフ
レーズ文字列 > [escrow=yes] [filepath=< エスクローファイルへの
絶対パス >]
```

構文例

コントローラに暗号化キーを作成するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=createsecuritykey
controller=1 keyid=Dell_123 passphrase=Dell_123 escrow=
yes filepath=C:/escrow.xml
```



メモ : **escrow=yes** と設定する場合、エスクローファイルへのパスを指定します。

omconfig 暗号化キーの変更

パスフレーズが提供されている場合、コントローラの暗号化キーを変更するには、次の **omconfig storage** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=changesecuritykey
controller=id keyid=< キー ID 文字列 > passphrase=< パスフ
レーズ文字列 > oldpassphrase=< 古いパスフレーズ文字列 >
[escrow=yes] [filepath=< エスクローファイルへの絶対パス >]
```

構文例

コントローラの暗号化キーを変更するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=changesecuritykey
controller=1 keyid=Dell_123 passphrase=Dell_123
oldpassphrase=Dell_321 escrow= yes filepath=
C:/escrow.xml
```



メモ : **escrow=yes** と設定する場合、エスクローファイルへのパスを指定します。

omconfig 暗号化キーの削除

コントローラの暗号化キーを削除するには、次の **omconfig storage** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=deletesecuritykey  
controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 のセキュリティキーを削除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=deletesecuritykey  
controller=1
```

omconfig バックグラウンドの初期化率の設定

バックグラウンドの初期化率を設定するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=setbgirate  
controller=id rate=<0 ~ 100>
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 でバックグラウンドの初期化率を 50 に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=setbgirate  
controller=1 rate=50
```

omconfig 再構築率の設定

再構築率を設定するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=setreconstructrate  
controller=id rate=<0 ~ 100>
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 で再構築率を 50 に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=setreconstructrate  
controller=1 rate=50
```

omconfig 整合性チェック率の設定

整合性チェック率を設定するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=  
setcheckconsistencyrate controller=id rate=<0 ~ 100>
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 で整合性チェック率を 50 に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=  
setcheckconsistencyrate controller=1 rate=50
```

omconfig コントローラログのエクスポート

コントローラのログをテキストファイルにエクスポートするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。エクスポートされたログファイルの詳細については、『Dell OpenManage Online Help』（Dell OpenManage オンラインヘルプ）を参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=exportlog  
controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。


構文例

コントローラ 1 のログをエクスポートするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=exportlog  
controller=1
```

デフォルトでは、ログファイルは、Microsoft Windows システム（使用されている Windows バージョンに基づく）の場合には **C:\WINNT** または **C:\Windows** へ、またすべての Linux システムでは **/var/log** へエクスポートされます。

コントローラに応じて、ログファイル名は **afa_<mmdd>.log** または **lsi_<mmdd>.log** となります。ここで、<mmdd> は 月と日です。コントローラログファイルの詳細については、『Dell OpenManage Online Help』（Dell OpenManage オンラインヘルプ）を参照してください。

 **メモ**：ログファイルのエクスポートコマンドは、4/IM、CERC ATA、および 100/4ch コントローラではサポートされていません。

omconfig セキュアな外部設定のインポート

暗号化された Local Key Management（LKM）外部構成ドライブをアンロックするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=  
importsecureforeignconfig controller=id passphrase=< 外  
部構成用のパスフレーズ文字列 >
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 で暗号化された LKM 構成ドライブをアンロックするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=  
importsecureforeignconfig controller=1 passphrase=  
Dell_123
```


omconfig 外部設定のインポート

次の **omconfig** コマンド構文を使用すると、コントローラに新たに連結された物理ディスク上に存在するすべての仮想ディスクをインポートできます。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=importforeignconfig  
controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

 **メモ**：このコマンドはファームウェアバージョン 5.0.x のみにサポートされています。

構文例

コントローラ 1 の外部設定をインポートするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=importforeignconfig  
controller=1
```

omconfig 外部設定のインポート / 回復

次の **omconfig** コマンド構文を使用すると、コントローラに新たに連結された物理ディスク上に存在するすべての仮想ディスクをインポートおよび回復できます。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=  
importrecoverforeignconfig controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。



メモ: このコマンドはファームウェアバージョン 5.1.1. のみサポートされています。

構文例

コントローラ 1 の外部設定をインポートおよび回復するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=  
importrecoverforeignconfig controller=1
```

omconfig 外部設定のクリア

次の **omconfig** コマンド構文を使用すると、コントローラに新たに連結された物理ディスク上に存在するすべての仮想ディスクをクリアまたは削除できます。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=clearforeignconfig  
controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 の外部設定をクリアするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=clearforeignconfig  
controller=1
```

omconfig 物理ディスク電源管理

ホットスペア、設定済みドライブ、および未設定ドライブをスピンドアウンして、コントローラ内の物理ディスクの電源を管理するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=  
setpdiskpwrmanagement spindownunconfigureddrives=  
<有効 | 無効> spindownhotspares=<有効 | 無効>  
spindownconfigureddrives=<有効 | 無効> idlec=<有効 | 無効>  
spindowntimeinterval=<30 ~ 1440>(minutes)  
spinupstarttime=<HH:MM:AM/PM> spinuptimeinterval=  
<1 ~ 24>(hours)
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。



メモ : PERC 7 コントローラでは、**spindownunconfigureddrives** および **spindownhotspares** および **spindowntimeinterval** パラメーターのみがサポートされます。



メモ : **spindownconfigureddrives=enabled** と設定する場合にのみ、**spinupstarttime** および **spinuptimeinterval** を指定できます。

構文例

構成されていないドライブ、または 30 分間も使用されていないホットスペアをスピンドアウンするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=  
setpdiskpwrmanagement spindownunconfigureddrives=  
enabled spindownhotspares=enabled spindowntimeinterval=  
30 controller=1
```

omconfig 巡回読み取りモードの設定

次の **omconfig** コマンド構文を使用すると、コントローラに巡回読み取りモードを設定できます。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=setpatrolreadmode  
controller=id mode>manual|auto|disable
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 で巡回読み取りを手動モードに設定するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=setpatrolreadmode  
controller=1 mode>manual
```

omconfig 巡回読み取りの開始

次の **omconfig** コマンド構文を使用すると、コントローラで巡回読み取りタスクを開始できます。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=startpatrolread  
controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 で巡回読み取りタスクを開始するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=startpatrolread  
controller=1
```



メモ: 巡回読み取りを開始するには、現在の巡回読み取りモードは手動に設定しておきます。

omconfig 巡回読み取りの停止

次の **omconfig** コマンド構文を使用すると、コントローラで巡回読み取りタスクを停止できます。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=stoppatrolread  
controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラ 1 で巡回読み取りタスクを停止するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=stoppatrolread  
controller=1
```



メモ：巡回読み取りを停止するには、現在の巡回読み取りモードは手動に設定しておきます。

omconfig CacheCade の作成

任意のコントローラに CacheCade を作成するには、次の **omconfig storage** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=createcachecade  
controller=id pdisk=<物理ディスク ID> [name=<文字列 >]
```

ここで、*id* は **omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID で、**物理ディスク ID** は、次のように指定されます。

```
pdisk=connector:enclosureID:targetID |  
connector:targetID
```

構文例

コントローラ 0 で CacheCade を作成するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=createcachecade  
controller=0 pdisk=0:2:3 name=Cachecade1
```


omconfig LKM コントローラを有効にする

LKM モードを有効にし、コントローラの暗号化キーを作成するには、次の **omconfig storage** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=enablelkm  
controller=id keyid=< キー ID 文字列 > passphrase=< パスフ  
レーズ文字列 > [escrow=yes] [filepath=< エスクローファイルへの  
絶対パス >]
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラに暗号化キーを作成するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=enablelkm  
controller=1 keyid=Dell_123 passphrase=Dell_123 escrow=  
yes filepath=C:/escrow.xml
```



メモ : `escrow=yes` と設定する場合、エスクローファイルへのパスを指定します。

omconfig LKM コントローラの再キー

コントローラの LKM モードの暗号化キーを再キーするには、次の **omconfig storage** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=rekeylkm  
controller=id
```

id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

構文例

コントローラの暗号化キーを再キーするには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=rekeylkm  
controller=1
```

omconfig 複数の RAID を非 RAID に変換

次の **omconfig storage** コマンド構文を使用して、所定のコントローラで複数の RAID を非 RAID に変換します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=convertraidtononraid  
controller=id pdisk=< 物理ディスク ID>
```

ここで、**id** は **omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID で、**物理ディスク ID** は、次のように指定されます。

```
pdisk=connector:enclosureID:targetID |  
connector:targetID
```

構文例

コントローラ **0** で複数の RAID を非 RAID に変換するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=convertraidtononraid  
controller=0 pdisk=0:2:3
```

omconfig 複数の非 RAID を RAID に変換

次の **omconfig storage** コマンド構文を使用して、所定のコントローラで複数の非 RAID を RAID に変換します。

完全な構文

```
omconfig storage controller action=convertnonraidtoraid  
controller=id pdisk=< 物理ディスク ID>
```

ここで、**id** は **omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID で、**物理ディスク ID** は、次のように指定されます。

```
pdisk=connector:enclosureID:targetID |  
connector:targetID
```

構文例

コントローラ **0** で複数の非 RAID を RAID に変換するには、次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=convertnonraidtoraid  
controller=0 pdisk=0:2:3
```

omconfig エンクロージャのコマンド

次の項では、エンクロージャタスクを実行するために必要な **omconfig** コマンドについて説明します。

表 8-11. **omconfig** エンクロージャのコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3) オプション「名前 = 値」のペア

omconfig ストレージ エンク
ロージャ

```
action=enablealarm controller=id enclosure=  
< エンクロージャ ID>  
action=disablealarm controller=id enclosure=  
< エンクロージャ ID>  
action=setassettag controller=id enclosure=  
< エンクロージャ ID> assettag=< 文字列 >  
action=setassetname controller=id enclosure=  
< エンクロージャ ID> assetname=< 文字列 >  
action=settempprobes controller=id enclosure=  
< エンクロージャ ID> index=id minwarn=n  
maxwarn=n  
action=resettempprobes controller=id  
enclosure=< エンクロージャ ID> index=id  
action=setalltempprobes controller=id  
enclosure=< エンクロージャ ID> minwarn=n  
maxwarn=n  
action=resetalltempprobes controller=id  
enclosure=< エンクロージャ ID>  
action=blink controller=id enclosure=  
< エンクロージャ ID>
```

omconfig エンクロージャ警告を有効にする

エンクロージャ警告を有効にするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=enablealarm  
controller=id enclosure=< エンクロージャ ID>
```

id はコントローラ ID です。< エンクロージャ ID> 変数は、エンクロージャを指定します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されているエンクローージャのアラームを有効にするには、次のように入力します。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合

```
omconfig storage enclosure action=enablealarm  
controller=1 enclosure=2
```
- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage enclosure action=enablealarm  
controller=1 enclosure=1:2
```

omconfig エンクローージャ警告を無効にする

エンクローージャ警告を無効にするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=disablealarm  
controller=id enclosure=<エンクローージャ ID>
```

id はコントローラ ID です。<エンクローージャ ID> 変数は、エンクローージャを指定します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 1 に接続されているエンクローージャ 2 のアラームを無効にするには、次のように入力します。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合

```
omconfig storage enclosure action=disablealarm  
controller=1 enclosure=2
```
- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage enclosure action=disablealarm  
controller=1 enclosure=1:2
```

omconfig エンクローージャ管理タグの設定

エンクローージャの管理タグを指定するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=setassettag  
controller=id enclosure=<エンクローージャ ID> assettag=  
<文字列 >
```

id はコントローラ ID です。<エンクロージャ ID> 変数は、エンクロージャを指定します。

この構文では、<文字列> はユーザー指定の英数字の文字列です。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されているエンクロージャの Asset Tag を `encl20` に指定するには、次のように入力します。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合

```
omconfig storage enclosure action=setassettag  
controller=1 enclosure=2 assettag=encl20
```
- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage enclosure action=setassettag  
controller=1 enclosure=1:2 assettag=encl20
```

omconfig エンクロージャ資産名の設定

エンクロージャの資産名を指定するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=setassetname  
controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> assetname=<文  
字列 >
```

id はコントローラ ID です。<エンクロージャ ID> 変数は、エンクロージャを指定します。

この構文では、<文字列> はユーザー指定の英数字の文字列です。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されているエンクロージャの Asset Tag を `encl43` に指定するには、次のように入力します。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合

```
omconfig storage enclosure action=setassetname  
controller=1 enclosure=2 assetname=encl43
```
- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage enclosure action=setassetname  
controller=1 enclosure=1:2 assetname=encl43
```

omconfig 温度プローブの設定しきい値の設定

指定した温度プローブの最小および最大の警告温度しきい値を設定するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。



メモ：このコマンドは SAS コントローラではサポートされていません。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=settempprobes  
controller=id enclosure=< エンクロージャ ID> index=id  
minwarn=n maxwarn=n
```

id はコントローラ ID と温度プローブ ID です。<エンクロージャ ID> 変数は、エンクロージャを指定します。

この構文では、*n* はユーザー指定の温度の値（摂氏）です。

構文例

温度プローブのしきい値を摂氏 10 度および 40 度に設定するには、次のように入力します。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合

```
omconfig storage enclosure action=settempprobes  
controller=1 enclosure=2 index=3 minwarn=10 maxwarn=40
```



メモ：ここで、温度プローブ 3 は、コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されているエンクロージャにあります。

omconfig 温度プローブしきい値のリセット

最小および最大の警告温度しきい値をデフォルトの値にリセットするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。



メモ：このコマンドは SAS コントローラではサポートされていません。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=resettempprobes  
controller=id enclosure=< エンクロージャ ID> index=id
```

id はコントローラ ID と温度プローブ ID です。<エンクロージャ ID> 変数は、エンクロージャを指定します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されたエンクロージャにある温度プローブ 3 で、しきい値をデフォルト値にリセットするには、次のように入力します。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合

```
omconfig storage enclosure action=resettempprobes  
controller=1 enclosure=2 index=3
```



メモ:ここで、温度プローブ 3 は、コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されているエンクロージャにあります。

omconfig すべての温度プローブの設定しきい値の設定

エンクロージャ内のすべての温度プローブの最小および最大の警告温度しきい値を設定するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。



メモ:このコマンドは SCSI RAID コントローラではサポートされていません。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=setalltempprobes  
controller=id enclosure=<エンクロージャ ID> minwarn=n  
maxwarn=n
```

id はコントローラ ID です。<エンクロージャ ID> 変数は、エンクロージャを指定します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されたエンクロージャ 3 にあるすべての温度プローブのしきい値を、摂氏 10 度および 40 度に設定するには、次のように入力します。

- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage enclosure action=setalltempprobes  
controller=1 enclosure=2:3 minwarn=10 maxwarn=40
```

omconfig すべての温度プローブしきい値のリセット

エンクロージャ内のすべての温度プローブの最小および最大の警告温度しきい値をデフォルト値にリセットするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。



メモ:このコマンドは SCSI RAID コントローラではサポートされていません。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=resetalltemp probes  
controller=id enclosure=<エンクロージャ ID>
```

id はコントローラ ID です。<エンクロージャ ID> 変数は、エンクロージャを指定します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されているエンクロージャ 3 のすべての温度プローブのしきい値をリセットするには、次のように入力します。

- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage enclosure action=resetalltemp probes  
controller=1 enclosure=2:3
```

omconfig 点滅

次の `omconfig` コマンドを使用すると、エンクロージャの発光ダイオード (LED) を点滅できます。

完全な構文

```
omconfig storage enclosure action=blink controller=id  
enclosure=<エンクロージャ ID>
```

id はコントローラ ID です。<エンクロージャ ID> 変数は、エンクロージャを指定します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されているエンクロージャ 3 の LED を点滅させるには、次のように入力します。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合

```
omconfig storage enclosure action=blink controller=1  
enclosure=2
```

- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage enclosure action=blink controller=1  
enclosure=2:3
```


omconfig バッテリーのコマンド

次の項では、バッテリーのタスクを実行するために必要な **omconfig** コマンド構文について説明します。

表 8-12. **omconfig** バッテリーのコマンド

必要なコマンドレベル (1, 2, 3)	オプション「名前 = 値」のペア
omconfig ストレージバッテリー	action=startlearn controller=id battery=id action=delaylearn controller=id battery=id days=d hours=h

omconfig バッテリー学習サイクルの開始

次の **omconfig** コマンドを使用して、バッテリー学習サイクルを開始できます。

完全な構文

```
omconfig storage battery action=startlearn controller=  
id battery=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID およびバッテリー ID です。この値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラの ID を表示してから、**omreport storage battery controller=id** と入力し、コントローラのバッテリーの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 で学習サイクルを開始するには、次のように入力します。

```
omconfig storage battery action=startlearn controller=1  
battery=0
```

omconfig バッテリー学習サイクルの遅延

次の **omconfig** コマンドを使用して、指定された期間、バッテリー学習サイクルを遅延できます。バッテリー学習サイクルは、最高 7 日間、つまり 168 時間遅延できます。

完全な構文

```
omconfig storage battery action=delaylearn controller=  
id battery=id days=d hours=h
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID およびバッテリー ID です。この値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラの ID を表示してから、**omreport storage battery controller=id** と入力し、コントローラのバッテリーの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 で学習サイクルを 3 日と 12 時間遅延させるには、次のように入力します。

```
omconfig storage battery action=delaylearn controller=1
battery=0 days=3 hours=12
```

omconfig グローバルのコマンド

次の項では、グローバルコマンドを実行するために必要な **omconfig** コマンド構文について説明します。実行すると、これらのコマンドはすべてのコントローラに適用されます。また、これらのグローバルコマンドは、**Storage** ツリービューオブジェクトの **情報 / 設定** サブタブに表示されるグローバルタスクにも対応しています。

表 8-13. omconfig グローバルのコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプション「名前 = 値」のペア
omconfig storage globalinfo	action=enablests action=disablests action=globalrescan action=setprotectionpolicies type=ghs または dhs

omconfig グローバル Smart サーマルシャットダウンを有効にする

デフォルトでは、PV220S と PV221S エンクロージャが摂氏 0° または 50° の臨界温度に達すると、オペレーティングシステムおよびサーバーがシャットダウンします。ただし、PV220S および PV221S エンクロージャにコネクタの冗長性を実装している場合は、エンクロージャが摂氏 0° または 50° の臨界温度に達したときにエンクロージャだけをシャットダウンし、オペレーティングシステムとサーバーはシャットダウンしないように指定できます。過剰温度でエンクロージャだけをシャットダウンするように指定する操作は、**Smart** サーマルシャットダウンと呼ばれています。**Smart** サーマルシャットダウンの詳細については、『Dell OpenManage Online Help』（Dell OpenManage オンラインヘルプ）を参照してください。

Smart サーマルシャットダウンを有効にするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage globalinfo action=enablests
```

構文例

サーマルシャットダウンを有効にするため、**omconfig** コマンド構文では、コントローラやエンクロージャの ID を指定する必要はありません。サーマルシャットダウンを有効にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage globalinfo action=enablests
```



メモ : omreport storage globalinfo コマンドを使用すると、現在 Smart サーマルシャットダウンが有効か無効かを確認できます。Smart サーマルシャットダウンの状態は、Server Administrator のグラフィカルユーザーインターフェース (GU) にも表示されます。この状態を見つけるには、**Storage** オブジェクトと **情報 / 設定** タブ選択します。

omconfig Smart サーマルシャットダウンをグローバルに無効にする

omconfig コマンドを使って Smart サーマルシャットダウンを有効にしている場合、Smart サーマルシャットダウンを無効にしてシステムをデフォルト設定に戻すことができます。Smart サーマルシャットダウンを無効にすると、PV220S および PV221S エンクロージャが臨界温度の摂氏 0° または 50° に達したときにオペレーティングシステムとサーバーがシャットダウンします。

Smart サーマルシャットダウンを無効にするには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage globalinfo action=disablests
```

構文例

サーマルシャットダウンを無効にする **omconfig** コマンド構文では、コントローラやエンクロージャの ID を指定する必要はありません。サーマルシャットダウンを無効にするには、次のように入力します。

```
omconfig storage globalinfo action=disablests
```



メモ : omreport storage globalinfo コマンドを使用すると、現在 Smart サーマルシャットダウンが有効か無効かを確認できます。Smart サーマルシャットダウンの状態は、Server Administrator の GUI 内にも表示します。この状態を見つけるには、**Storage** オブジェクトと **情報 / 設定** タブ選択します。

omconfig グローバルコントローラの再スキャン

次の **omconfig** コマンド構文を使用すると、システムのすべてのコントロールが再スキャンされます。グローバル再スキャンコントローラの詳細については、『Dell OpenManage Online Help』（Dell OpenManage オンラインヘルプ）を参照してください。

完全な構文

```
omconfig storage globalinfo action=globalrescan
```

構文例

システムのすべてのコントローラを再スキャンする **omconfig** コマンド構文では、コントローラ ID を指定する必要はありません。すべてのコントローラをグローバルに再スキャンするには、次のコマンドを入力します。

```
omconfig storage globalinfo action=globalrescan
```



メモ：グローバル再スキャンは、非 RAID SCSI および SAS コントローラではサポートされていません。非 RAID SCSI コントローラで設定の変更内容が表示されるようにシステムを再起動します。

omconfig ホットスペアプロテクションポリシーの設定

専用またはグローバルホットスペア用にホットスペア保護ポリシーを設定するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。詳細については、『Dell OpenManage Server Administrator Storage Management User's Guide』（Dell OpenManage Server Administrator Storage Management ユーザーズガイド）を参照してください。

完全な構文

専用のホットスペアプロテクションポリシーの場合、次のように入力します。

```
omconfig storage globalinfo action=
setprotectionpolicies type=dhs raid=<r1 | r5 | r6 |
r10 | r50 | r60 | すべて > hscount=<1 ~ 16> warnlevel=
<0 ~ 3>
```

ここで、hscount は仮想ディスクに割り当てられるホットスペア数であり、warnlevel はこのポリシーに対する違反が発生した場合、生成される警告に割り当てられる重要度レベルとなります。RAID レベルの専用ホットスペアプロテクションポリシーをリセットするには、hscount=0 warnlevel=0 を使用します。

グローバルホットスペアプロテクションポリシーの場合、次のように入力します。

```
omconfig storage globalinfo action=  
setprotectionpolicies type=ghs hscount=<1 ~ 16>  
warnlevel=<0 ~ 3> includeghsinvdstate=<はい | いいえ >
```

ここで、hscount は、仮想ディスクに割り当てられるホットスペア数です。

そして、warnlevel は、このポリシーの違反があった場合に、生成する警告に割り当てたい重要度レベルです。RAID レベルのグローバルホットスペアプロテクションポリシーをリセットするには、hscount=0 warnlevel=0 を使用します。

omconfig コネクタコマンド

次の項では、コネクタのタスクを実行するために必要な **omconfig** コマンド構文について説明します。

表 8-14. omconfig コネクタコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3) オプション「名前=値」のペア

omconfig storage コネクタ

action=rescan controller=id connector=id

omconfig コネクタの再スキャン

コントローラコネクタを再スキャンするには、次の **omconfig** コマンドを使用します。このコマンドは、コントローラのすべてのコネクタを再スキャンするので、コントローラの再スキャンを実行するのと同じです。



メモ: このコマンドは SAS コントローラではサポートされていません。

完全な構文

```
omconfig storage connector action=rescan controller=id  
connector=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるコントローラ ID とコネクタ ID です。これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage connector controller=ID** と入力し、コントローラに接続しているコネクタの ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 のコネクタ 2 を再スキャンするには、次のように入力します。

```
omconfig storage connector action=rescan controller=1  
connector=2
```

omconfig CacheCade コマンド

次の項では、CacheCade のタスクを実行するために必要な **omconfig** コマンド構文について説明します。

表 8-15. **omconfig CacheCade** コマンド

必要なコマンドレベル (1, 2, 3) オプション「名前 = 値」のペア

omconfig storage cachecade

```
action=blink controller=id cachecade=id
action=unblink controller=id cachecade=id
action=deletecachecade controller=id
cachecade=id [force=yes]
action=resize controller=id cachecade=id pdisk=
< 物理ディスク ID>
action=rename controller=id cachecade=id
name=< 文字列 >
```

omconfig CacheCade の点滅

cachecade に含まれる物理ディスクを点滅させるには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage cachecade action=blink controller=id
cachecade=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるとおりのコントローラ ID および CacheCade ID です。これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage cachecade controller=ID** と入力し、コントローラの cachecade の ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の CacheCade 4 にある物理ディスクを点滅させるには、次のように入力します。

```
omconfig storage cachecade action=blink controller=1
cachecade=4
```

omconfig CacheCade の点滅解除

CacheCade に含まれる物理ディスクの点滅を解除するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage cachecade action=unblink controller=id
cachecade=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるとおりのコントローラ ID および CacheCade ID です。これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage cachecade controller=ID** と入力し、コントローラの CacheCade ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の CacheCade 4 にある物理ディスクの点滅を解除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage cachecade action=unblink controller=1
cachecade=4
```

omconfig CacheCade の削除

CacheCade を削除するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage cachecade action=deletecachecade
controller=id cachecade=id
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるとおりのコントローラ ID および CacheCade ID です。これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage cachecade controller=ID** と入力し、コントローラの CacheCade ID を表示します。

状況によっては、警告メッセージが表示される場合があります。**force=yes** パラメータを使うと、この警告をオーバーライドできます。この場合、構文は次のようになります。

```
omconfig storage cachecade action=deletecachecade
controller=id cachecade=id force=yes
```

構文例

コントローラ 1 の CacheCade 4 を削除するには、次のように入力します。

```
omconfig storage cachecade action=deletecachecade
controller=1 cachecade=4
```

omconfig CacheCade のサイズ変更

物理ディスクの追加または削除によって CacheCade のサイズを変更するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage cachecade action=resize controller=id  
cachecade=id pdisk=< 物理ディスク ID>
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるとおりのコントローラ ID および CacheCade ID です。これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage cachecade controller=ID** と入力し、コントローラの CacheCade ID を表示します。

構文例

cachecade 4 のサイズを変更するには、コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 0～3 を使用して、次のように入力します。

- SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合

```
omconfig storage cachecade action=resize controller=1  
cachecade=4 pdisk=0:0,0:1,0:2,0:3
```

- SAS コントローラの場合

```
omconfig storage cachecade action=resize controller=1  
cachecade=4 pdisk=0:2:0,0:2:1,0:2:2,0:2:3
```

omconfig CacheCade の名前変更

CacheCade の名前を変更するには、次の **omconfig** コマンド構文を使用します。

完全な構文

```
omconfig storage cachecade action=rename controller=id  
cachecade=id name=< 文字列 >
```

id は、**omreport** コマンドによって報告されるとおりのコントローラ ID および CacheCade ID です。これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage cachecade controller=ID** と入力し、コントローラの CacheCade ID を表示します。

構文例

コントローラ 1 の CacheCade 4 を cc4 に名前変更するには、次のように入力します。

```
omconfig storage cachecade action=rename controller=1  
cachecade=4 name=cc4
```


CLI コマンド結果の使用方法

Server Administrator コマンドラインインタフェース (CLI) のユーザーはさまざまな方法でコマンド出力を利用できます。本項では、コマンド出力をファイルに保存する方法と、コマンド結果のフォーマットを異なる目的に合わせて選択する方法について説明します。

表 9-1. omreport コマンドに対するシステム可用性

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	該当アプリケーション
omreport	modularencllosure	ブレードシステム
	servermodule	ブレードシステム
	mainsystem	ブレードシステム
	system	ラック型システムとタワー型システム
	chassis	ラック型システムとタワー型システム

コマンド結果の出力オプション

CLI コマンド出力は、お使いのオペレーティングシステムのタイプに応じて、コマンドウィンドウ、X-ターミナル、または画面上といったシステムの標準出力に表示されます。

コマンド結果を標準出力に表示する代わりに、ファイルにリダイレクトすることができます。コマンド出力をファイルに保存するとあとで分析または比較に使用することができます。

コマンド結果を標準出力に表示する場合もファイルに書き込む場合も、結果をフォーマットできます。選択するフォーマットによって、コマンド出力の表示形式やファイルへの書き込み方法が決まります。

管理コマンド 出力の表示

各オペレーティングシステムには、コマンド結果の標準出力表示方法を管理する手段が備わっています。次のコマンドは、コマンド結果を確認する前に、スクロールして消えてしまわないようにする場合に使用します。Microsoft Windows コマンドプロンプト、Red Hat Enterprise Linux ターミナル、および SUSELinux Enterprise Server ターミナルで、同じコマンド構文を使用できます。スクロール制御機能を備えたコマンド出力を表示するには、CLI コマンドを入力してパイプ記号の後に `more` を付加します。たとえば、次のように入力します。

```
omreport system summary | more
```

または

```
omreport servermodule summary | more
```

マルチスクリーンシステムの概要では、最初の画面が表示されます。コマンド出力の次の画面を表示するには、スペースバーを押します。

書き込み コマンド 出力のファイルへの書き込み

コマンド結果をファイルにリダイレクトする場合は、コマンド結果の書き込み先のファイル名と、必要に応じてディレクトリパスを指定できます。ファイルの書き込み先のパスを指定するときは、オペレーティングシステムに適切な構文を使用してください。

コマンド結果の保存には 2 つの方法があります。指定する出力ファイルと同じ名前の任意のファイルを上書きするか、コマンド結果を同じ名前のファイルに追加し続けることができます。

上書きされるファイルへのコマンド結果の保存

-outc オプションは、以前に書き込まれたファイルに保存されているデータを上書きする場合に使用します。例えば、午前 11:00 時に システム上のファンブローブ 0 のファンブローブ RPM 読み取り値をキャプチャして **fans.txt** というファイルに結果を書き込みます。この場合、次のように入力します。

```
omreport chassis fans index=0 -outc fans.txt
```

または

```
omreport chassis fans index=0 -outc fans.txt
```

次は、ファイルに書き込まれた結果の一部です。

```
インデックス          : 0
状態                  : OK
プローブ名           : システム基板ファン 1 RPM
読み取り値           : 2380RPM
最小警告しきい値     : 600RPM
最大警告しきい値     : 5700RPM
最小エラーしきい値   : 500RPM
最大エラーしきい値   : 6000RPM
```

4 時間後、コマンドを繰り返します。午前 11:00 時の **fans.txt** に書き込まれたスナップショットは必要ないとしてます。同じコマンドを次のように入力します。

```
omreport chassis fans index=0 -outc fans.txt
```

または

```
omreport chassis fans index=0 -outc fans.txt
```

午後 3:00 時のデータによって午前 11:00 時のデータが上書きされます。

fans.txt ファイルのデータ

Fans.txt の内容が今度は次のようになります。

```
インデックス          : 0
状態                  : OK
プローブ名           : システム基板ファン 1 RPM
読み取り値           : 3001RPM
最小警告しきい値     : 700RPM
最大警告しきい値     : 5500RPM
最小エラーしきい値   : 500RPM
最大エラーしきい値   : 6000RPM
```

前のコマンド結果を参照して、前のファンプローブ 0 出力を現在の出力と比較することはできません。**-outc** オプションを使って **fans.txt** ファイルを上書きしたからです。

既存のファイルへのコマンド結果の追加

-outa オプションは、以前に書き込まれたファイルに保存されているデータに新しいコマンド結果を追加する場合に使います。例えば、午前 11:00 時に システム上のファンプローブ 0 のファンプローブ RPM 読み取り値をキャプチャして **fans.txt** というファイルに結果を書き込みます。これらの結果を 4 時間後に得た同じプローブの出力と比較するには、**-outa** コマンドを使って新しい出力を **fans.txt** に追加できます。

次のように入力します。

```
omreport chassis fans index=0 -outa fans.txt
```

または

```
omreport mainsystem fans index=0 -outa fans.txt
```

Fans.txt の内容が今度は次のようになります。

```
インデックス          : 0
状態                  : OK
プローブ名           : システム基板ファン 1 RPM
読み取り値           : 2380RPM
最小警告しきい値     : 600RPM
最大警告しきい値     : 5700RPM
最小エラーしきい値   : 500RPM
最大エラーしきい値   : 6000RPM
```

```
インデックス          : 0
状態                  : OK
プローブ名           : システム基板ファン 1 RPM
読み取り値           : 3001RPM
最小警告しきい値     : 700RPM
最大警告しきい値     : 5500RPM
最小エラーしきい値   : 500RPM
最大エラーしきい値   : 6000RPM
```

テキストエディタを使用すると、各データブロックがキャプチャされた時間を挿入できます。ファンプローブ 0 の 2 つのスナップショットを比較すると、2 回目の報告で数か所に変更があります。ファンの RPM の読み取り値が 3001RPM に変更されましたが、まだ正常範囲内にあります。最小警告しきい値が 700 RPM に上げられ、最大警告しきい値が 5500 RPM に下げられました。

CLI コマンド出力のフォーマットの選択

CLI コマンド結果のフォーマットを指定できます。フォーマットはコマンド出力の表示形式を決定します。コマンド結果がファイルに転送されると、コマンド結果の書き込み先ファイルによってフォーマットがキャプチャされます。使用できるフォーマットは次のとおりです。

- リスト (**lst**)
- セミコロン区切りの値 (**ssv**)
- テーブル (**tbl**)
- カスタム区切りの形式 (**cdv**)

フォーマットオプションの構文は次のようになります。

```
< コマンド > -fmt <フォーマットオプション >
```

たとえば、次のように入力します。

```
omreport system summary -fmt tbl
```

または

```
omreport servermodule summary -fmt tbl
```

-fmt tbl はテーブル形式を指定します。

フォーマットオプションを、出力をファイルに転送するオプションと組み合わせることができます。たとえば、次のように入力します。

```
omreport system summary -fmt tbl -outa summary.txt
```

または

```
omreport servermodule summary -fmt tbl -outa  
summary.txt
```

-fmt tbl はテーブル形式を指定し、**-outa** はコマンド結果を **summary.txt** という名前ファイルに追加することを指定します。

リスト (lst)

デフォルトのフォーマットは **lst** (リスト形式) です。出力の読みやすさを最適化する場合に、この形式を使います。 **lst** 以外のフォーマットが必要であれば、コマンド出力のフォーマットを指定する必要があります。

次のコマンド出力例を **lst** 形式で表示するには、次のように入力します。

```
omreport system summary
```

または

```
omreport servermodule summary
```

リスト形式はデフォルトの表示形式なので、特別なフォーマットオプションは不要です。システム概要例のネットワークデータ部分は、次のように表示されます。

```
-----
```

```
ネットワークデータ
```

```
-----
```

```
ネットワークインタフェース 0  
IP アドレス : 143.166.152.108  
サブネットマスク : 255.255.255.0  
デフォルトゲートウェイ : 143.166.152.1  
MAC アドレス : 00-02-b3-23-d2-ca
```

テーブル (tbl)

tbl テーブルフォーマットオプションを使用すると、データがテーブルの行と列でフォーマットされます。次のコマンド出力例をテーブル形式で表示するには、次のように入力します。

```
omreport system summary -fmt tbl
```

または

```
omreport servermodule summary -fmt tbl
```

出力例は次のように表示されます。

```
-----  
ネットワークインタフェース 0  
-----  
  
| 属性 | 値  
| IP アドレス | 143.166.152.108  
| サブネットマスク | 255.255.255.0  
| デフォルトゲートウェイ | 143.166.152.1  
| MAC アドレス | 00-02-b3-23-d2-ca
```

セミコロン区切りの値 (ssv)

ssv フォーマットオプションを使うと、出力がセミコロンで区切った値の形式にフォーマットされます。この形式は、コマンド出力結果を **Microsoft Excel** などの表計算プログラムやデータベースプログラムにインポートすることもできます。次のコマンド出力例をセミコロンで区切った値の形式で表示するには、次のように入力します。

```
omreport system summary -fmt ssv
```

または

```
omreport servermodule summary -fmt ssv
```

出力例は次のように表示されます。

```
-----  
ネットワークデータ  
-----  
  
ネットワークインタフェース 0  
IP アドレス ;143.166.152.108  
サブネットマスク ;255.255.255.0  
デフォルトゲートウェイ ;143.166.152.1  
MAC アドレス ;00-02-b3-23-d2-ca
```

カスタム区切りの形式 (cdv)

cdv フォーマットオプションを使うと、エクスポートされたデータがカスタム区切りの形式でレポートされます。このオプションは他の **omreport** コマンドと一緒に指定できます。たとえば、カスタム区切り形式でシステム概要を生成するには、次のように入力します。

```
omreport system summary -fmt cdv
```

または

```
omreport servermodule summary -fmt cdv
```

omconfig コマンドを使うと、カスタム区切り形式のプリファランスを設定できます。デリミタのための有効値は、感嘆符、セミコロン、アット、ハッシュ、ドル、パーセント、キャレット、アスタリスク、ティルド、疑問符、コロン、コンマ、およびパイプです。

アスタリスクを使ってデータフィールドを分けるデリミタの設定の例は次のとおりです。

```
omconfig preferences cdvformat delimiter=asterisk
```


索引

-?

- omconfig, 84
- omconfig chassis, 87
- omreport, 33
- ヘルプの要求, 21

A

- acswitch
 - omreport chassis, 36
 - omreport コマンドレベル 3, 36
- alertaction
 - omconfig system, 145
 - omreport system, 62
- alertlog
 - omconfig system, 21, 81
 - omreport system, 61
 - ログをクリア, 150
- assetinfo
 - omreport system, 64
 - 取得, 64

B

- bios
 - omreport chassis, 37
- biossetup
 - omconfig chassis, 87
 - omreport chassis, 38
- bmc
 - omconfig chassis, 122
 - omreport chassis, 58

C

- cdvformat
 - omconfig preferences, 141
- CLI
 - エラーメッセージ、エラー
チェック, 17
 - ログをクリア, 150
 - CLI command levels 1, 2, and 3
defined, 22
 - CLI コマンド
?, 21
 - プライマリコマンド, 15
 - CLI コマンドのヘルプのレベル,
22
 - CLI コマンド出力, 257
 - テーブル形式, 262
 - ファイルへのコマンド出力の追加,
259
 - ファイルへの書き込み, 258
 - 出力のフォーマット, 260
 - 上書き可能なファイルへの保存,
258
 - 表示の制御, 258
 - CLI コマンド出力のテーブル
形式, 262
 - CLI コマンド出力のフォーマット,
260
 - CLI コマンド出力の制御, 258
 - CLI を使ったスクリプト, 18
- cmdlog
 - omconfig system, 150
 - omreport system, 62
- components

omreport, 25-26

D

dirservice
omconfig preferences, 141

E

ESM, 62

ESM ログの全般的な正常性
状態, 62

esmlog
omconfig system, 150
omreport system, 62

extwarranty
omconfig system, 165

F

firmware
omreport chassis, 44

frontpanel
omconfig chassis, 113
omreport chassis, 44

G

globalinfo
omconfig storage, 250
omreport storage, 190

I

ID の表示, 178-179

IP アドレス

警告先, 150

IRQ レベル
omreport chassis ports, 51

L

LED
omconfig chassis, 115
omreport chassis, 47

M

memorymode
omconfig chassis, 116

N

nics
omreport chassis, 49

NMI ボタン, 45

O

omconfig
仮想ディスク初期化の
キャンセル, 213

omconfig
-?, 84
エンクロージャ警告を
無効にする, 244
エンクロージャ警告を
有効にする, 243
エンクロージャ資産タグの
設定, 244
エンクロージャ資産名の設定, 245

- グローバル Smart サーマル
シャットダウンを
無効にする, 251
- グローバル Smart サーマル
シャットダウンを
有効にする, 250
- グローバルホットスペアの
割り当て, 200
- グローバル再スキャン
コントローラ, 252
- コネクタの再スキャン, 253
- コマンドパラメータ表の規則, 80
- コマンドレベル 1、2 および 3, 80
- コマンド概要, 80
- コントローラの暗号化キーの
作成, 233
- コントローラの暗号化キーの
削除, 234
- コントローラの暗号化キーの
変更, 233
- コントローラプロパティの
変更, 231
- コントローラ警告のテスト, 224
- コントローラ警告の静止, 224
- コントローラ警告を無効にする,
223
- コントローラ警告を有効にする,
223
- コントローラ再構築率の設定, 231
- コントローラ上に保存された
キャッシュの廃棄, 232
- コントローラ設定のリセット, 225
- システム, 145
- シャーシ, 87
- バージョン情報, 85-86
- バックグラウンド初期化の
キャンセル, 213
- バックグラウンド初期化率, 234
- ヘルプの表示, 84
- メンバー仮想ディスクの交換, 218
- 暗号化キーの作成, 233

- 温度プローブしきい値のリセット,
246-247
- 温度プローブしきい値の設定, 246
- 仮想ディスクのセキュア化, 216
- 仮想ディスクのフォーマット, 215
- 仮想ディスクの再設定, 215
- 仮想ディスクの作成, 225
- 仮想ディスクの削除, 214, 255
- 仮想ディスクの初期化, 198, 211
- 仮想ディスクの点滅, 210, 254
- 仮想ディスクの点滅解除, 210,
254
- 仮想ディスクの不良ブロックの
クリア, 217
- 仮想ディスクの名前変更, 219
- 仮想ディスクポリシーの変更, 217
- 再スキャンコントローラ, 223
- 整合性チェック, 208
- 整合性チェックのキャンセル, 208
- 整合性チェックの一時停止, 209
- 整合性チェックの再開, 209
- 専用ホットスペアの割り当て, 214
- 物理ディスクのオフライン, 199
- 物理ディスクのオンライン, 199
- 物理ディスクの再構築, 201
- 物理ディスクの再構築の
キャンセル, 201
- 物理ディスクの削除準備, 197
- 物理ディスクの点滅, 195
- 物理ディスクの点滅解除, 196

**omconfig about
details=true, 86**

**omconfig battery
commands, 249**

**omconfig channel
commands, 253**

**omconfig chassis, 87
-?, 87**

biossetup, 87

bmc, 122

fancontrol, 113

- frontpanel, 113
- LED, 115
- memorymode, 116
- ファン, 111
- 温度, 138
- 情報, 114
- 電圧, 139
- 電流, 111
- omconfig chassis biossetup
 - 名前 = 値ペア, 87
- omconfig chassis bmc
 - 名前 = 値ペア, 122
- omconfig chassis fans
 - 名前 = 値ペア、パラメータ, 111, 115, 140
- omconfig chassis frontpanel
 - 名前 = 値ペア、パラメータ, 113
- omconfig chassis info
 - 名前 = 値ペア、パラメータ, 114
- omconfig chassis memorymode
 - 名前 = 値ペア、パラメータ, 117
- omconfig chassis temps
 - 名前 = 値ペア、パラメータ, 138
- omconfig controller
 - commands, 220
- omconfig Create
 - Cachecade, 240, 242
- omconfig enable LKM
 - controller, 241
- omconfig global
 - commands, 250
- omconfig physical disk power management, 238
- omconfig preferences, 141
 - cdvformat, 141
 - dirservice, 141
 - snmp, 142-143
 - useraccess, 143
 - ウェブサーバー, 144
- omconfig preferences dirservice
 - 名前 = 値ペア、パラメータ, 142
- omconfig preferences snmp
 - 名前 = 値ペア、パラメータ, 143
- omconfig rekey LKM
 - controller, 241
- omconfig set hot spare protection policy, 252
- omconfig set patrol read mode, 238
- omconfig start patrol read, 239
- omconfig stop patrol read, 240
- omconfig storage
 - globalinfo, 250
 - エンクロージャ, 243, 254
 - コネクタ, 253
 - コントローラ, 220
 - バッテリー, 249
 - 仮想ディスク, 207
 - 物理ディスク, 177, 194
- omconfig switch to LKM
 - controller, 241
- omconfig system
 - alertaction, 145
 - alertlog, 21, 81, 150
 - assetinfo, 161
 - cmdlog, 150
 - esmlog, 150

- events, 155
- extwarranty, 165
- pedestinations, 150
- platformevents, 151
- thrmshutdown, 160
- ウェブサーバー, 157
- シャットダウン, 158
- リカバリ, 157
- 名前 = 値ペア、パラメータ, 155
- omconfig system assetinfo
 - info=acquisition, 161, 163
 - info=depreciation, 164
 - info=lease, 167
 - info=outsourc, 170
 - info=owner, 171
 - info=service, 172
 - info=support, 173
 - info=system, 174
 - info=warranty, 175
- omconfig system assetinfo
 - info=extwarranty, 166
- omconfig system assetinfo
 - info=maintenance, 168
- omconfig system events, 155
- omconfig system
 - extwarranty, 165
- omconfig system
 - pedestinations
 - 名前 = 値ペア、パラメータ, 151
- omconfig system recovery
 - 名前 = 値ペア、パラメータ, 158
- omconfig system
 - warranty, 175
- omconfig system webserver
 - 名前 = 値ペア、パラメータ, 157, 159

- omconfig virtual disk
 - commands, 207
- omconfig エンクロージャの
 - コマンド, 254
- omconfig コマンド, 79
- omconfig 物理ディスクの
 - コマンド, 194
- omhelp, 15, 21
- omreport
 - ?, 33
 - EMM の状態, 188-189
 - エンクロージャの状態, 185, 191
 - グローバル情報, 190
 - コネクタの状態, 190
 - コマンドレベル 1、2、3、26
 - コマンド概要, 26
 - コントローラの状態, 184
 - システム, 61
 - シャーシ, 35
 - バージョン情報, 34
 - バッテリーの状態, 190
 - ファンの状態, 186
 - ヘルプの表示, 33
 - 温度プローブの状態, 185
 - 仮想ディスクの状態, 183
 - 電源供給状態, 187
 - 物理ディスクの状態, 182, 191
- omreport chassis
 - acswitch, 36
 - bios, 37
 - biossetup, 38, 42
 - fancontrol, 44
 - firmware, 44
 - frontpanel, 44
 - fru, 45
 - LED, 47
 - nics, 49
 - イントルージョン, 47
 - スロット, 59
 - ファン, 44

- プロセッサ, 51
- メモリ, 48
- 温度, 60
- 電圧, 60
- 電流, 42
- omreport chassis bmc**
 - 名前 = 値のペア、パラメータ, 59
- omreport chassis ports**
 - IRQ レベル, 51
 - コネクタタイプ, 51
 - ベース I/O アドレス, 50
 - ポートタイプ, 50
 - 外部名, 50
 - 最大速度, 51
- omreport chassis processors**
 - キャッシュプロパティ, 51
 - コアカウント, 51
 - コネクタ名, 51
 - プロセッサシリーズ, 51
 - プロセッサのバージョン, 51
 - 外部クロックの速度, 51
 - 現在の速度, 51
 - 状況, 51
 - 製造メーカー, 51
- omreport chassis slots**
 - アダプタ, 60
 - インデックス, 59
 - スロット ID, 59
 - データバス幅, 60
- omreport modularchassis**, 33
- omreport preferences**
 - commands, 78
 - omreport preferences webserver, 78
- omreport storage**
 - globalinfo, 190
 - エンクロージャ, 185-189
 - コントローラ, 184
 - バッテリー, 190-191
 - 仮想ディスク, 183, 191

- 物理ディスク, 182
- omreport system**
 - alertaction, 62
 - alertlog, 61
 - assetinfo, 64
 - cmdlog, 62
 - esmlg, 62
 - operatingsystem, 67
 - pedestinations, 67
 - platformevents, 69
 - thrmshutdown, 77
 - イベント, 64
 - シャットダウン, 69
 - バージョン, 77
 - 回復, 69
 - 概要, 70
- omreport system assetinfo**, 64
- omreport system**
 - commands, 60
- omreport system events**
 - 名前 = 値のペア, 66
- omrpeort system**
 - コンポーネント, 61

P

- pedestinations**
 - omconfig system, 150
 - omreport system, 67
- platformevents**
 - omconfig system, 151
 - omreport system, 69
- pwrmanagement**, 54
- pwrsupplies**
 - omreport chassis, 58

S

Server Administrator への
ユーザーアクセス
パワーユーザーと管理者のみ, 144
管理者のみ, 144
決定, 144
最も制限の少ない, 144
最も制限の多い, 144

smp
omconfig preferences, 142

SNMP トラップ, 155
無効, 155
有効, 155

system, 161

T

thrmshutdown
omconfig system, 160
omreport system, 77

U

useraccess
omconfig preferences, 143

あ

アウトソース情報, 169
アダプタ
omreport chassis slots, 60
アレイ
メモリ, 28, 76

い

イベント
omconfig system, 155
omreport system, 64
SNMP, 31, 82, 155
コンポーネントのタイプ別に
分類, 66
警告処置, 147

イベント通知
インデックス, 157
ソース, 155
タイプ, 155
重大度, 156
設定, 155

イベント名
omconfig system
platformevents, 152
警告処置, 147

インデックス
omreport chassis slots, 59

イントルージョン
omreport chassis, 47

う

ウェブサーバー
omconfig system, 157
開始と停止, 157

え

エラーチェックとエラー
メッセージ、CLI, 17
エラーメッセージ, 17
エンクロージャ
omconfig storage, 243, 254
omreport storage, 185-189

エンクローチャ警告を無効にする
omconfig, 244

エンクローチャ警告を有効にする
omconfig, 243

エンクローチャ資産タグの設定
omconfig, 244

エンクローチャ資産名の設定
omconfig, 245

お

オペレーティングシステム
omreport system, 67

温度
omconfig chassis, 138
omreport chassis, 60

温度プローブ警告しきい値, 139

温度プローブしきい値の設定
omconfig, 246-247

温度プローブしきい値のリセット
omconfig, 247

か

回復
omreport system, 69

書き込みポリシーのパラメータ,
230

各ストレイブの物理ディスク, 230

仮想ディスク
omconfig storage, 207
omreport storage, 183, 191

仮想ディスクの再設定
omconfig, 215

仮想ディスクの削除
omconfig, 214, 255

仮想ディスクの初期化
omconfig, 198, 211

仮想ディスクのセキュア化, 216

仮想ディスクのフォーマット, 215

仮想ディスクポリシーの変更
omconfig, 217, 219

外部構成のインポート
omconfig, 236-237

外部構成のクリア
omconfig, 237

外部名
omreport chassis ports, 50

概要
omreport system, 70

き

キャッシュプロパティ
omreport chassis
processors, 51

キャッシュポリシーのパラメータ,
229

く

区切り文字
データフィールド, 141

グローバルホットスワップの
割り当て
omconfig, 200

け

警告処置
イベントの設定, 147
設定, 146

- 定義, 145
- 有効なコマンド例, 149
- 警告処置の定義, 145
- 減価償却情報
 - 使い方, 164
 - 追加, 164
- 現在の速度
 - omreport chassis processors, 51

こ

- コアカウント
 - omreport chassis processors, 51
- 構文概要
 - CLI コマンド, 19
- コネクタ, 191
 - omconfig storage, 253
- コネクタのコマンド
 - omconfig, 253
- コネクタの再スキャン
 - omconfig, 253
- コネクタの状態
 - omreport, 190
- コネクタ名
 - omreport chassis processors, 51
- コマンド構文の概要, 19
- コマンドパラメータ表の規則, 26
- コマンドレベル 1、2 および 3
 - omconfig, 80
- コマンドレベル 1、2、3
 - omreport, 26
- コントローラ
 - BMC, 58, 69, 84

- ID の表示, 178-179
- omconfig storage, 220
- omreport storage, 184
- SATA, 99
 - バッテリー, 190-191
- コントローラの再スキャン, 252
- コンポーネント
 - omreport system, 61
 - omreport system summary, 31
 - omreport system version, 32
 - SNMP トラップ, 155
 - イベント, 64-65
 - エラーメッセージ, 17
 - ストレージ, 181, 193
 - 概要, 70
 - 計測サービス, 79
 - 警告とエラーしきい値, 111
 - 警告処置, 147
 - 更新, 16

さ

- サービス契約情報, 171
 - 追加, 171
- サーマルシャットダウン
 - コマンド例, 160
 - 使い方, 77
 - 設定, 160
- 再構築率
 - omconfig, 234
- 最小警告しきい値, 139
- 最大警告しきい値, 139
- 最大速度
 - omreport chassis ports, 51
- サポート情報
 - 追加, 172

し

- 資産情報, 161
- システム温度プローブのプロパティの表示, 60
- システムスロットのプロパティの表示, 59
- システム情報
 - 追加, 174
- システム電圧プローブのプロパティの表示, 60
- システム電源装置のプロパティの表示, 58
- シャーシ
 - omconfig, 87
- シャーシ識別 LED, 115
- シャーシ障害 LED, 115
- シャーシ情報の概要, 46
- シャットダウン
 - omconfig system, 158
 - omreport system, 69
- シャットダウン措置
 - omconfig system platformevents, 151
- 取得
 - オプションパラメータ, 23
 - 情報, 161
- 取得情報
 - 追加, 161
- 主要な CLI コマンド, 15
- 使用できる警告処置, 146
- 所有者情報, 170
- 新機能, 14
- 情報
 - omconfig chassis, 114
 - omreport chassis, 46

状況

- omreport chassis processors, 51

す

- スクリプト, 18
- ストレージ管理 CLI, 177
- スマートサーマルシャットダウン状態, 190
- スロット
 - omreport chassis, 59
- スロット ID
 - omreport chassis slots, 59

せ

- 成功したコマンド, 17
 - omconfig, 236
- 整合性チェック
 - omconfig, 208
- 整合性チェックの一時停止
 - omconfig, 209
- 整合性チェックのキャンセル
 - omconfig, 208
- 整合性チェックの再開
 - omconfig, 209
- 整合率のチェック
 - omconfig, 235
- セキュアな外部構成のインポート設定
 - Active Directory サービス, 141
 - システムイベント, 155
- 専用ホットスワップの割り当て
 - omconfig, 214

て

点滅

omconfig, 248

データバス幅

omreport chassis slots, 60

ディスク初期化のキャンセル

omconfig, 213

デフォルトの最小警告しきい値, 112

デフォルトの最大警告しきい値, 112

電圧

omconfig chassis, 139

omreport chassis, 60

電圧警告しきい値, 140

電源ボタンや NMI ボタンの設定,
113

電流

omconfig chassis, 111

omreport chassis, 42

と

特定のコンポーネントとイベント
の警告処置の表示, 63

な

名前 = 価値ペア

omconfig chassis biossetup, 87

omconfig chassis bmc, 122

は

はじめに, 13

ハング状態にある

オペレーティング

システムからの回復, 69

バージョン

omreport system, 77

バージョン情報

omconfig, 85

バックグラウンド初期化の

キャンセル

omconfig, 213

バッテリー

ID, 179

omconfig storage, 249

omreport storage, 190-191

状態, 190

バッテリー学習サイクルの開始

omconfig, 249

バッテリー学習サイクルの遅延

omconfig, 249

ふ

ファン

omconfig chassis, 111

omreport chassis, 44

ファン警告しきい値の

パラメータ, 111

ファンの状態

omreport, 186

物理ディスク, 194

omconfig storage, 177-178

omconfig 仮想ディスク, 226

omreport physical disk, 183

omreport storage, 182

物理ディスクのオンライン

omconfig, 199

物理ディスクのクリアを

キャンセル

omconfig, 203-206

物理ディスクの再構築

- omconfig, 201
- 物理ディスクの再構築の
キャンセル
 - omconfig, 201
- 物理ディスクの削除準備, 197
- 物理ディスクの点滅
 - omconfig, 195
- 物理ディスクの点滅解除
 - omconfig, 196
- 物理ディスクをクリア
 - omconfig, 203
- プライマリ CLI コマンド
 - omconfig, 15
 - omhelp, 15, 21
 - omreport, 15
- プロセッサ
 - omreport chassis, 51
- プロセッサシリーズ
 - omreport chassis
processors, 51
- プロセッサのバージョン
 - omreport chassis
processors, 51

へ

- ヘルプコマンドの例, 21
- ヘルプのレベル, 22
- ベース I/O アドレス
 - omreport chassis ports, 50

ほ

- 保証
 - omconfig system, 175
 - コンポーネント, 165, 175
 - 追加, 175

- 保証延長情報, 165
- ホットスペア, 214
- ポート
 - omreport chassis, 50
- ポートタイプ
 - omreport chassis ports, 50

め

- メモリ
 - omreport chassis, 48
 - アレイ, 28, 76
- メンテナンス情報, 168
 - 追加, 168
- メンバー仮想ディスクの交換
 - omconfig, 218

よ

- 読み取りポリシーのパラメータ, 229

り

- リース情報, 166
- リカバリ
 - omconfig system, 157

ろ

- ログ表示のコマンド, 61
- ログをクリアするコマンド, 150